

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機

品質管理の方法等に関する
使用前検査成績書

施設名：原子炉本体
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設
原子炉冷却系統施設
計測制御系統施設
放射性廃棄物の廃棄施設
放射線管理施設
原子炉格納施設
その他発電用原子炉の附属施設

要領書番号：原規規収第1712152号1-01

令和3年7月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機

2 検査の種類 品質管理の方法等に関する使用前検査

3 検査申請 使用前検査申請番号

関原発第343号(平成29年12月15日)

関原発第427号(平成30年3月16日)

関原発第62号(平成30年4月20日)

関原発第158号(平成30年6月25日)

関原発第201号(平成30年7月4日)

関原発第414号(平成30年12月5日)

関原発第517号(平成31年2月6日)

関原発第61号(2019年5月16日)

関原発第121号(2019年6月28日)

関原発第167号(2019年7月25日)

関原発第216号(2019年9月2日)

関原発第640号(2020年3月24日)

関原発第650号(2020年3月30日)

関原発第30号(2020年4月7日)

関原発第239号(2020年8月21日)

関原発第545号(2021年1月25日)

関原発第60号(2021年5月12日)

関原発第125号(2021年5月21日)

4 検査期日 自 平成30年1月15日
至 令和3年7月21日

5 検査場所 関西電力株式会社美浜発電所
福井県三方郡美浜町丹生

6 検査範囲 工事に係る品質管理の方法等に関する事項

美浜発電所第3号機

発電用原子炉施設

原子炉本体

核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設

原子炉冷却系統施設

計測制御系統施設

放射性廃棄物の廃棄施設

放射線管理施設

原子炉格納施設

その他発電用原子炉の附属施設

7 検査結果

良

8 添付資料

使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 品質管理の方法等に関する検査
- 3 使用前検査において確認した関連文書一覧表

9 検査実施者

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成30年 1月15日 16日 17日	山口 義弘 岸田 国基 環境技官 後藤 裕介	発電用原子炉主任技術者 電気主任技術者 本行-9-中心主任技術者	なし
令和2年 12月22日 23日 24日	原子力検査官 須貝 実 平沢 淳	発電用原子炉主任技術者 電気主任技術者 本行-9-中心主任技術者	なし
令和3年 6月16日 17日	原子力検査官 須貝 実 平沢 淳	発電用原子炉主任技術者 電気主任技術者 本行-9-中心主任技術者	なし

9 検査実施者

検査年月日	原子力施設検査官 氏名	検査立会責任者 氏名	特記事項
令和3年7月19日 19 20 21	須貝 実 増本 豊	発電用原子炉主任技術者 [Redacted] 電装主任技術者 ボイラ-・タービン主任技術者 [Redacted]	なし ※令和3年7月19,20日 ※令和3年7月21日
年 月 日		主任技術者	/
年 月 日		主任技術者	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

検査項目：品質管理の方法等に関する検査

確認事項	検査年月日	結果	備考
法令、規格、工事計画、申請者の規程類、申請者の品質記録及びエビデンスが準備されていること。	平成30年 1月 ¹⁵ / ₁₇ 日	良	
	令和2年 12月 ²² / ₂₄ 日	良	
	令和3年 6月 ¹⁶ / ₁₇ 日	良	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

検査項目：品質管理の方法等に関する検査

確認事項	検査年月日	結果	備考
法令、規格、工事計画、申請者の規程類、申請者の品質記録及びエビデンスが準備されていること。	令和3年 7月 ¹⁸ ₂₁ 日	良	
	年 月 日		
	年 月 日		

美浜発電所第3号機		
使用前検査記録 品質管理の方法等に関する検査		
検査場所：関西電力株式会社美浜発電所		
検査範囲：工事に係る品質管理の方法等に関する事項 美浜発電所第3号機 発電用原子炉施設 原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、 計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉 格納施設、その他発電用原子炉の附属施設		
判定基準	検査年月日	検査結果
工事及び検査に係る保安活動が、認可した工事計画に定められた品質管理の方法等に関する事項に従って行われていること。	平成30年 / 月 15 日 16 17	継続
総合所見	今回の検査は、重大事故等対処設備の改造などの工事に係る検査であり、品質管理の方法等に関する事項に従い行われていることを確認するものである。次回以降の検査において、検査の計画及び実施等の状況について確認する。	
品質管理の方法等に関する所見	1 品質保証の実施に係る組織 工事及び検査に係る必要な人的資源、インフラストラクチャー及び作業環境が確保され、申請者部門間及び供給者との間の責任及び権限が明確にされていることを確認した。 設計部門と各部署の連携及び体制の構築等が規定されていることを確認した。	
品質管理の方法等に関する所見	2 保安活動の計画 工事及び検査に係る業務の計画として、要求事項及びプロセスが明確にされていることを確認した。 供給者（調達物品や役務を含む。）の管理方法が規定されていることを確認した。 工事計画対象設備に係る検査の計画において、抜けなく確認するための手段及び方法を定めていることを確認した。	
品質管理の方法等に関する所見	3 保安活動の実施 設計及び検査計画の作成について、規程類により定めていることを確認した。	

	<p>4 保安活動の評価</p> <p>調達物品や役務、原子炉施設が要求事項に適合していることを実証するためのプロセスが明確にされており、評価することが定められていることを確認した。</p> <p>不適合が発生した場合の処置、供給者から申請者への報告についても定められていることを確認した。</p>
	<p>5 保安活動の改善</p> <p>予防処置又は不適合に対する是正処置を通じて、品質管理の方法等の継続的改善が定められていることを確認した。</p>
備 考	

美浜発電所第3号機		
使用前検査記録 品質管理の方法等に関する検査		
検査場所：関西電力株式会社美浜発電所		
検査範囲：工事に係る品質管理の方法等に関する事項 美浜発電所第3号機 発電用原子炉施設 原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、 計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉 格納施設、その他発電用原子炉の附属施設		
判定基準	検査年月日	検査結果
工事及び検査に係る保安活動が、認可した工事計画に定められた品質管理の方法等に関する事項に従って行われていること。	令和2年 12月22日 23日 24	継続
総合所見	本検査は、重大事故等対処設備の改造等に関する工事に係る検査であり、品質管理の方法等に関する事項に従い行われていることを確認した。引き続き、次回以降の検査において、検査の計画及び実施等の状況について確認する。	
品質管理の方法等に関する所見	1 品質保証の実施に係る組織 工事及び検査に係る必要な人的資源、インフラストラクチャー及び作業環境が確保され、申請者部門間及び供給者との間の責任及び権限が明確にされていることを確認した。 設計部門と各部署の連携及び体制の構築等が規定されていることを確認した。 供給者の選定や管理が規定類に従って行われていることを確認した。	
	2 保安活動の計画 工事及び検査に係る要求事項や組織体制等が明確にされ、対象設備について全体工程や各工程段階における監視、測定、検証、妥当性確認、試験及び検査が漏れなく実施されるよう計画（手順や合否判定基準を含む。）が定められていることを確認した。 また、供給者（調達物品や役務を含む。）の管理についても、「工事仕様書」等により実施していることを確認した。	

	<p>3 保安活動の実施</p> <p>計画に基づいた工事及び検査の実施について、申請書の規定類に従って行われていることを確認した。</p>
	<p>4 保安活動の評価</p> <p>工事及び検査結果の評価について、申請者の規定類に従って行われていることを確認した。</p> <p>また、適合性確認検査において発生した不適合処置について、申請者の規定類に従って行われていることを確認した。</p>
	<p>5 保安活動の改善</p> <p>適合性確認検査において発生した不適合に対する是正処置を通じて、品質管理の方法等の継続的改善が申請者の規定類に従って行われていることを確認した。</p>
備 考	

美浜発電所第3号機		
使用前検査記録 品質管理の方法等に関する検査		
検査場所：関西電力株式会社美浜発電所		
検査範囲：工事に係る品質管理の方法等に関する事項 美浜発電所第3号機 発電用原子炉施設 原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉格納施設、その他発電用原子炉の附属施設		
判定基準	検査年月日	検査結果
工事及び検査に係る保安活動が、認可した工事計画に定められた品質管理の方法等に関する事項に従って行われていること。	令和3年 6月16日 17	継続
総合所見	本検査は、重大事故等対処設備の改造等に関する工事に係る検査であり、品質管理の方法等に関する事項に従い行われていることを確認した。引き続き、次回以降の検査において、検査の計画及び実施等の状況について確認する。	
品質管理の方法等に関する所見	1 品質保証の実施に係る組織 設計部門と発電所内各部署の連携及び体制の構築等について、申請者の規程類にしたがって行われていることを確認した。 また、供給者の選定や管理が規定類に従って行われていることを確認した。	
	2 保安活動の計画 工事及び検査に係る要求事項や組織体制等が明確にされ、対象設備について全体工程や各工程段階における監視、測定、検証、妥当性確認、試験及び検査が漏れなく実施されるよう計画（手順や合否判定基準を含む。）が定められていることを確認した。 また、供給者（調達物品や役務を含む。）の管理についても、「工事仕様書」等により実施していることを確認した。	
	3 保安活動の実施 計画に基づいた工事及び検査の実施について、申請書の規定類に従って行われていることを確認した。	

	<p>4 保安活動の評価</p> <p>工事及び検査結果の評価について、申請者の規定類に従って行われていることを確認した。</p> <p>なお、前回検査以降に不適合が発生していないことを確認した。</p>
	<p>5 保安活動の改善</p> <p>適合性確認検査において発生した不適合に対する是正処置を通じて、品質管理の方法等の継続的改善が申請者の規定類に従って行われていることを確認した。</p>
備 考	

美浜発電所第3号機		
使用前検査記録 品質管理の方法等に関する検査		
検査場所：関西電力株式会社美浜発電所		
検査範囲：工事に係る品質管理の方法等に関する事項 美浜発電所第3号機 発電用原子炉施設 原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、 計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉 格納施設、その他発電用原子炉の附属施設		
判定基準	検査年月日	検査結果
工事及び検査に係る保安活動が、認可した工事計画に定められた品質管理の方法等に関する事項に従って行われていること。	令和3年 7月19日 20日 21日	良
総合所見	本検査は、重大事故等対処設備の改造等に関する工事に係る検査であり、品質管理の方法等に関する事項に従い行われていることを確認した。	
品質管理の方法等に関する所見	1 品質保証の実施に係る組織 設計部門と発電所内各部署の連携及び体制の構築等について、申請者の規程類にしたがって行われていることを確認した。 また、供給者の選定や管理が規定類に従って行われていることを確認した。	
	2 保安活動の計画 工事及び検査に係る要求事項や組織体制等が明確にされ、対象設備について全体工程や各工程段階における監視、測定、検証、妥当性確認、試験及び検査が漏れなく実施されるよう計画（手順や合否判定基準を含む。）が定められていることを確認した。 また、供給者（調達物品や役務を含む。）の管理についても、「工事仕様書」等により実施していることを確認した。	
	3 保安活動の実施 計画に基づいた工事及び検査の実施について、申請書の規定類に従って行われていることを確認した。	

	<p>4 保安活動の評価</p> <p>工事及び検査結果の評価について、申請者の規定類に従って行われていることを確認した。</p> <p>なお、前回検査以降に不適合が発生していないことを確認した。</p>
	<p>5 保安活動の改善</p> <p>適合性確認検査において発生した不適合に対する是正処置を通じて、品質管理の方法等の継続的改善が申請者の規定類に従って行われていることを確認した。</p>
備 考	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

使用前検査において確認した関連文書一覧表

関連文書の名称等	備考
<p>1 品質保証の実施に係る組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原子力発電の安全に係る品質保証規程 ・ 監視機器・測定機器管理通達 ・ 教育・訓練通達 ・ 検査・試験通達 ・ 原子力部門における調達管理通達 ・ 原子力部門における文書・記録管理通達 ・ 保守管理通達（施設管理通達）※¹ ・ 要員・組織計画通達 ・ 教育・訓練要綱 ・ 原子力発電所保守業務要綱 ・ 原子力部門における調達管理要綱 ・ 請負会社他品質監査業務要綱 ・ 文書・記録管理要綱 ・ 原子力発電所請負工事一般仕様書に関する要綱指針 ・ 美浜発電所 請負会社他品質監査業務所則※² ・ 美浜発電所 保守業務所則 ・ 美浜発電所 保守業務所則指針 ・ 美浜発電所 文書・記録管理所達 <p>2 保安活動の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原子力発電の安全に係る品質保証規程 ・ 検査・試験通達 ・ 原子力部門における調達管理通達 ・ 原子力部門における文書・記録管理通達 ・ 内部コミュニケーション通達 ・ 品質目標通達 ・ 保守管理通達（施設管理通達）※¹ ・ 原子力発電業務要綱 	<p>※1：2020年6月4日付けで「保守管理通達」の名称を「施設管理通達」に変更</p> <p>※2：「美浜発電所請負会社他品質監査業務所則」については2020年7月1日付けで廃止</p>

- ・品質保証会議運営要綱
- ・品質目標管理要綱
- ・文書・記録管理要綱
- ・美浜発電所 技術業務所則
- ・美浜発電所 保修業務所則
- ・美浜発電所 保修業務所則指針
- ・美浜発電所 品質マネジメントシステムに係る発電所レビュー他運営所達
- ・美浜発電所 文書・記録管理所達

3 保安活動の実施

- ・原子力部門における調達管理通達
- ・監視機器・測定機器管理通達
- ・原子力部門における文書・記録管理通達
- ・内部コミュニケーション通達
- ・品質保証会議運営要綱
- ・原子力発電所保修業務要綱
- ・原子力部門における調達管理要綱
- ・請負会社他品質監査業務要綱
- ・文書・記録管理要綱
- ・原子力発電所請負工事一般仕様書に関する要綱指針
- ・原子力発電所設備変更管理要綱指針
- ・美浜発電所 技術業務所則
- ・美浜発電所 請負会社他品質監査業務所則^{※2}
- ・美浜発電所 定期検査工程管理所則
- ・美浜発電所 保修業務所則
- ・美浜発電所 保修業務所則指針
- ・美浜発電所 品質マネジメントシステムに係る発電所レビュー他運営所達
- ・美浜発電所 文書・記録管理所達

4 保安活動の評価

- ・データ分析通達
- ・検査・試験通達
- ・原子力部門における調達管理通達

<ul style="list-style-type: none"> ・ 不適合管理および是正処置通達 ・ データ分析要綱 ・ 原子力事業本部他業務委託取扱要綱 ・ 原子力部門における調達管理要綱 ・ 不適合管理および是正処置要綱 ・ 是正処置プログラムに係る要綱 ・ 原子力発電所請負工事一般仕様書に関する要綱指針 ・ 美浜発電所 品質マネジメントシステムに係る不適合管理 および是正処置所達 <p>5 保安活動の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データ分析通達 ・ 不適合管理および是正処置通達 ・ 予防処置通達（未然防止処置通達）※3 ・ 原子力発電業務要綱 ・ データ分析要綱 ・ 不適合管理および是正処置要綱 ・ 是正処置プログラムに係る要綱 ・ 美浜発電所 品質マネジメントシステムに係る発電所レビ ュー他運営所達 ・ 美浜発電所 品質マネジメントシステムに係る不適合管理 および是正処置所達 ・ 美浜発電所 品質マネジメントシステムに係る予防処置所 達（美浜発電所 品質マネジメントシステムに係る未然防 止処置所達）※3 	<p>※3：2020年6月 4日付けで「予防 処置通達」の名称 を「未然防止処置 通達」に、「美浜発 電所 品質マネジ メントシステムに 係る予防処置所 達」の名称を「美 浜発電所 品質マ ネジメントシステ ムに係る未然防 止処置所達」に変更</p>
--	---

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1712152号99
成績書管理番号：1-02

令和2年8月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-02

- 1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年8月6日
至 令和2年8月6日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

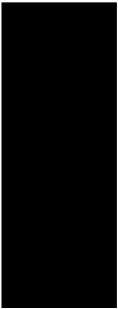
検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第343号(平成29年12月15日) 関原発第427号(平成30年 3月16日) 関原発第 62号(平成30年 4月20日) 関原発第158号(平成30年 6月25日) 関原発第201号(平成30年 7月 4日) 関原発第414号(平成30年12月 5日) 関原発第517号(平成31年 2月 6日) 関原発第 61号(2019年 5月16日) 関原発第121号(2019年 6月28日) 関原発第167号(2019年 7月25日) 関原発第216号(2019年 9月 2日) 関原発第640号(2020年 3月24日) 関原発第650号(2020年 3月30日) 関原発第 30号(2020年 4月 7日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月6日	良	北村博史 森田 豊二	ボイラー・タービン 主任技術者 	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-02

検査年月日：令和2年 8 月 6 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良 ー	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良 ー	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良 ー	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02

検査年月日：令和2年8月6日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02

検査年月日：令和2年 8月 6日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 余熱除去設備※1 主要弁 3MOV-8701A、B 主配管 弁(3MOV-8702A、B)～弁(3MOV-8701A、B)			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0216(その1) ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照 ※1：別紙1～4			

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録
 (一号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：1-02

検査年月日：令和2年8月6日

検査場所： 関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
主要弁 3MOV-8701A、B	外観検査	-	良	目視
主要弁 3MOV-8701A、B	組立て及び据付け 状態を確認する検 査	-	良	
主配管 弁(3MOV-8701B)から 上流第5溶接線間の配管	外観検査	-	良	
主配管 弁(3MOV-8702A、B) ～弁(3MOV-8701A、B)	組立て及び据付け 状態を確認する検 査	-	良	
備考				

設備概要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

6 余熱除去設備に係る次の事項

(6) 主要弁の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、駆動方法、個数及び取付箇所

・常設

名称(注1)		変更前	変更後
種類	—	3MOV-8701A、B(注2)	
最高使用圧力	MPa	止め弁(注3)	
最高使用温度	℃	17.16(注4.5)	
呼び径(注6)	—	343(注4)	
弁箱厚さ	mm	12B	
弁ふた厚さ	mm		
材料(注9)	—	ASTM A351 CF8M (SCS14A相当)(注10)	
駆動方法(注11)	—	ASTM A351 CF8M (SCS14A相当)(注7)	変更なし
個数(注12)	—	電気作動(注13)	
系統名(注14)	—	2	
設置床	—	3MOV-8701A A余熱除去ポンプ入口ライン(注14)	3MOV-8701B B余熱除去ポンプ入口ライン(注14)
溢水防護上の番号	—		
溢水防護上の配感が必要な高さ	—		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁名称」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3-8701A、B」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切弁」と記載

(注4) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は既工事計画書の主配管「弁 (3-8702A、B) ～弁 (3-8701A、

B) 」及び「弁 (3-8701A、B) ～レジューサ (14×12) および合流点」による。

(注5) SI単位に換算したものである。

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「口径」と記載

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) 公称値

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体材料」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ステンレス鋼」と記載

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「駆動方式」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「取付個所」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ入ロライン」と記載

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料
 ・常設

変 更 前				変 更 後								
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚 度 (mm)	径 厚 比	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚 度 (mm)	材 料
(注1) 弁 (3MOV-8702A、B) ～ 弁 (3MOV-8701A、B)	(注2) 17.16	343	323.9	(注3)	(注3.4)	SUS32TP	(注6) 弁 (3MOV-8702A、B) ～ 弁 (3MOV-8701A、B)	変更なし (注7)	変更なし (注7)	360	変更なし	変更なし
				(注3)	(注3.4)							
(注8) 弁 (3MOV-8701A、B) ～ 格納容器貫通部 PEN#277、227	(注2) 4.1	200	323.9	(注3)	(注3.4)	SUS32TP	余熱除去設備					
				(注3)	(注3.4)							

2

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8702A, B) ～弁 (3-8701A, B)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注6) 新たに原子炉炉冷却材圧力バウンダリ範囲となる。
- (注7) 重大事故等時における使用時の値
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8701A, B) ～レジュューサ (14×12) および合流点」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8701A, B) ～レジュューサ (14×12) および合流点」及び「レジュューサ (14×12) ～A、B余熱除去ポンプ」と記載
- (注10) SUS32TP同等材 (SUS316TP) への取替えを行う。
- (注11) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (14×12) ～A、B余熱除去ポンプ」と記載
- (注13) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B余熱除去ポンプ出口レジュューサ (10×8) ～A、B余熱除去クーラ」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B余熱除去クーラ～弁 (3-HCV-603A, B)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「267.4/267.4/ー」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注18) 重大事故等時に使用
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「9.3/9.3/ー」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-HCV-603A, B) ～余熱除去クーラ出口ラインと余熱除去ポンプミニマムフローラインとの分岐点」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8812A, B) ～燃料取換用水タンク出口ラインとの合流点」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8809A, B) ～余熱除去ポンプ入口ラインとの合流点」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプミニマムフローライン分岐点～弁 (3-8818A, B) 及び弁 (3-8819)」と記載

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名：原子炉冷却系統施設
原子炉格納施設

系統名：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）
ポンプ（常設）

要領書番号：原規規収第1712152号1-03-1

令和2年8月

原子力規制委員会

使用前検査成績書



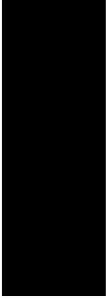




- 1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機
- 2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号
関原発第343号 (平成29年12月15日)
関原発第427号 (平成30年3月16日)
関原発第62号 (平成30年4月20日)
関原発第158号 (平成30年6月25日)
関原発第201号 (平成30年7月4日)
関原発第414号 (平成30年12月5日)
関原発第517号 (平成31年2月6日)
関原発第61号 (令和元年5月16日)
関原発第121号 (令和元年6月28日)
- 4 検査期日 自 令和元年7月5日 関原発第167号 (2019年7月25日)
至 令和2年8月20日 関原発第216号 (2019年9月2日)
関原発第640号 (2020年3月24日)
関原発第650号 (2020年3月30日)
関原発第30号 (2020年4月7日)
- 5 検査場所 関西電力株式会社美浜発電所
福井県三方郡美浜町丹生
三菱重工業株式会社 高砂製作所
兵庫県高砂市荒井町
- 6 検査範囲 美浜発電所第3号機
発電用原子炉施設
原子炉冷却系統施設
原子炉格納施設
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備)
ポンプ (常設)
恒設代替低圧注水ポンプ 1個
原子炉下部キャビティ注水ポンプ 1個
- 7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり

8 検査結果 検査結果一覧表のとおり

9 添付資料 使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 材料検査記録
- 3 外観検査記録
- 4 組立て及び据付け状態を確認する検査記録
- 5 耐圧検査、漏えい検査記録
- 6 検査用計器一覧表

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和元年 7月5日	 平井 隆  須貝 実	ボイラー・タービン  主任技術者 	なし
令和2年 8月20日	原子力検査官 平沢 浩 	ボイラー・タービン  主任技術者 	なし
年 日 月 日	主任技術者		

検査結果一覧表

系統名：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）
 ポンプ（常設）

検査項目	材料検査	外観検査	組立て及び据付け状態を確認する検査	耐圧検査、漏えい検査	備考
検査日	令和元年 7月5日	年 月 日	年 月 日	令和元年 7月5日	
結果	良			良	
検査日	年 月 日	令和2年 8月20日	令和2年 8月20日	年 月 日	
結果		良	良		
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
結果					

美浜発電所第3号機 使用前検査記録 検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和元年 7月5日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		令和2年 8月20日	良	
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	令和元年 7月5日	良	
		令和2年 8月20日	良	
		年 月 日		
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	令和元年 7月5日	良	
		令和2年 8月20日	良	
		年 月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査前確認事項

材料検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 7月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 7月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和2年 8月20日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和2年 8月20日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和2年 8月20日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和2年 8月20日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査前確認事項

耐圧検査、漏えい検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 7月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 7月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	令和元年 7月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	令和元年 7月5日	良	
	立会/ 記録確認	年 月 日		
	立会/ 記録確認	年 月 日		

検査対象		材料	検査年月日	検査結果	検査方法
美浜発電所第3号機					
材料検査記録					
検査場所： 関西電力株式会社美浜発電所 三菱重工業株式会社 高砂製作所					
検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個					
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。					
恒設代替低圧注水ポンプ		[REDACTED]	令和元年 7月5日	良	記録確認
	ケーシング カバー				
原子炉下部キャビティ 注水ポンプ		[REDACTED]	令和元年 7月5日	良	記録確認
	ケーシング カバー				
備考					
<ul style="list-style-type: none"> 記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 					
※：適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0108					

美浜発電所第3号機			
外観検査記録			
検査場所：関西電力株式会社美浜発電所 三菱重工業株式会社 高砂製作所			
検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個			
判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ	令和2年 8月20日	良	目視 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	令和2年 8月20日	良	目視 記録確認
備考			
<ul style="list-style-type: none"> ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 ※：適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0108 			

美浜発電所第3号機			
組立て及び据付け状態を確認する検査記録			
検査場所：関西電力株式会社美浜発電所			
検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個			
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ	令和2年 8月20日	良	目視 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	令和2年 8月20日	良	目視 記録確認
備考			
<ul style="list-style-type: none"> ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 ※：適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0108			

美浜発電所第3号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

三菱重工株式会社 高砂製作所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）

ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個

原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。

・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 MPa	耐圧検査 規定圧力 MPa	耐圧検査時 圧力 MPa	保持 時間 分	漏えい 検査時圧力 MPa	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査 結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ						水圧	令和元年 7月5日	良	目視 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	2.7 ^{*1}	2.7	2.80	11	2.80	水圧	令和元年 7月5日	良	目視 記録確認

備考：

※1：重大事故等時における使用時の値。

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0108

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日：令和元年 7 月 5 日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査、 漏洩検査	圧力計	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	2019年1月8日 2019年7月31日	
耐圧検査、 漏洩検査	圧力計				2019年1月8日 2019年7月31日	
以下余白						

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第1712152号99
成績書管理番号 : 1-03-2

令和2年8月
原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-03-2

- 1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年6月8日
至 令和2年8月6日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録




検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第343号 (平成29年12月15日) 関原発第427号 (平成30年 3月16日) 関原発第 62号 (平成30年 4月20日) 関原発第158号 (平成30年 6月25日) 関原発第201号 (平成30年 7月 4日) 関原発第414号 (平成30年12月 5日) 関原発第517号 (平成31年 2月 6日) 関原発第 61号 (2019年 5月16日) 関原発第121号 (2019年 6月28日) 関原発第167号 (2019年 7月25日) 関原発第216号 (2019年 9月 2日) 関原発第640号 (2020年 3月24日) 関原発第650号 (2020年 3月30日) 関原発第 30号 (2020年 4月 7日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月8日	良	大江 勇人 	ボラー、クービー  主任技術者 	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6月 8日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6月 8日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6月 8日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、蒸気タービンの附属設備※1、圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） 主配管 E. L. 約■■■m 側復水タンク海水補給水ライン接続口～復水タンク海水補給水ライン合流点 E. L. 約■■■m 側復水タンク海水補給水ライン接続口～弁（3CW-100） 弁（3CW-100）～復水タンク ※2			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0620 ・目視で確認した範囲：— ※1：本検査対象を除く。本検査は、使用前検査管理番号1-36-1総合設備検査にて実施。 ※2：別紙1～4参照			

設備概要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前				変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	1.6	40	165.2	7.1	SUS304TP
									267.4	9.3	SUS304TP
									165.2	7.1	

変更前					変更後						
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	料	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	料
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備											
	(注6) E.L.約1m側 復水タンク海水 補給水ライン 接続口 ～ 弁 (3CW-100)	(注4) 1.6	(注4) 40	(注4) 165.2	(注3) 7.1			(注4) 165.2	(注3) 7.1		SUS304TP
	(注5) 弁 (3CW-100) ～ 復水タンク	(注4) 0	(注4) 40	(注4) 165.2 / / / 165.2	(注3) 7.1 / / / 7.1			(注4) 165.2	(注3) 7.1		SUS304TP

2




3

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (3-8926)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注7) 重大事故等時に使用
- (注8) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備及び原子炉格納施設のうちの圧力低減設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」及び「逆止弁 (3-8926) 出口分岐点～弁 (3-8927)」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」と記載
- (注11) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8927) ～逆止弁 (3-8926) 入口合流点」と記載
- (注13) 原子炉格納施設のうちの圧力低減設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口集合母管～レジュューサ (4×3)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×3) ～レジュューサ (4×3)」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×3) ～弁 (3-8803A、B) および弁 (3-8816)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×3) ～弁 (3-8815) 及び弁 (3-8814)」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8815) ～分岐点」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8942A、B、C)」と記載
- (注21) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8942A、B、C) ～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注23) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注24) エルボを示す。
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注26) 公称値は既工事計画書に記載がないため適正化を行う。

- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8935A、B)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8973A、B、C) ～逆止弁 (3-8945A、B、C)」と記載
- (注56) 記載内容は、既工事計画届出書（平成24年度2月7日付け関原発第466号工事計画届出書）による。なお、本工事計画は、届出した工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。
- (注57) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8935A、B) ～逆止弁 (3-8940A、B)」と記載
- (注59) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注60) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年2月24日付け関工発第226号にて軽微変更届出した工事計画書の参考資料2「ア キュムレータ強度計算書（分割第4次申請分資料16）」による。
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8808A、B、C) ～逆止弁 (3-8948A、B、C)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (3-5400)」と記載
- (注63) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注64) 本設備は既存の設備である。
- (注65) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月11,12日	良	大江 勇人 	成行一、タケシ  主任技術者 	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6月 11日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・－	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・－	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・－	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6月 12日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6月 12日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、圧力低減設備その他の安全設備 格納容器安全設備 主配管 原子炉下部キャビティ注水ポンプ～B 内部スプレクーラ出口合流点 ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0111 ・目視で確認した範囲： ※1：別紙5～8参照			

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和7年 6月 12日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 充てん流量計後分岐点～事故等時バイパスライン～弁（3MOV-8108）前合流点 ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0203 ・目視で確認した範囲： ※1：別紙9～11、15参照			

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6 月 12 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、化学体積制御設備、ほう酸注入機能を有する設備 主配管 充てん/高圧注入ポンプ出口ラインレジューサ (4×3) ~弁 (3MOV-8107) ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0203 ・目視で確認した範囲：— ※1：別紙12～15参照			

1

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設（蒸気タービンに係るものを除く。）に係るものについては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前				変更後								
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
						(注13)			114.3	6.0	SUS304TP	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			165.2	7.1	SUS304TP	
					原子炉下部 キャビティ注水 ポンプ		(注14)	2.7	165.2	7.1	—	SUS304TP
					B内部スプレ クター出口 合流点				114.3	6.0	—	
									165.2	7.1	—	
									165.2	7.1	SUS304TP	
									165.2	7.1	—	
									165.2	7.1	—	

変更前				変更後			
名	称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	さ材	料
(注13) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備							
原子炉下部 キャビタイ注水 ポンプ ～ B内部スプレ クローラ出口 合流点							
		(注14) 2.7	(注14) 150	(注3) 165.2	(注3, 21) 7.1	SUS304TP	1
				(注3) 216.3	(注3, 21) 8.2	SUS304TP	2
				(注3) 216.3 / 165.2	8.2 / 7.1	SUS304TP	2

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (3-8926)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注7) 重大事故等時に使用
- (注8) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」及び「逆止弁 (3-8926) 出口分岐点～弁 (3-8927)」と記載
- 載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」と記載
- (注11) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8927) ～逆止弁 (3-8926) 入口合流点」と記載
- (注13) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ集合母管～レジュース (4×3)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュース (4×3) ～レジュース (4×3)」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュース (4×3) ～弁 (3-8803A、B) および弁 (3-8816)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュース (4×3) ～弁 (3-8815) 及び弁 (3-8814)」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8815) ～分岐点」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8942A、B、C)」と記載
- (注21) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8942A、B、C) ～余熱除去クローラ出口合流点」と記載
- (注23) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

工事計画認可申請	第3-2-28区
美浜発電所第3号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備)(16/18) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後					
名称	最高使用圧	最高使用温度	外径	厚さ	名称	最高使用圧	最高使用温度	外径	厚さ	材料
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備										
					充てん流量計			(注3) 60.5	(注3, 21) 8.7	SUS304TP
					後分岐点			(注3) 89.1	(注3) 11.1	
					～			／	／	SUS304TP
					事故等時	(注14) 18.8	(注14) 150	60.5	8.7	
					パイプライン			(注3) 60.5	(注3) 8.7	
					～			／	／	
					弁 (3MOV-8108)			60.5	8.7	SUS304TP
					前合流点			／	／	
								—	—	

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (3-8926)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容
容は、設計図書による。
- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注7) 重大事故等時に使用。
- (注8) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備)
と兼用
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」及び「逆止弁 (3-8926) 出口分岐点～弁 (3-8927)」
と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」と記載
- (注11) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8927) ～逆止弁 (3-8926) 入口合流点」と記載
- (注13) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口集合母管～レジュューサ (4×3)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×3) ～レジュューサ (4×3)」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×3) ～弁 (3-8803A、B) および弁 (3-8816)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×3) ～弁 (3-8815) 及び弁 (3-8814)」と記載

- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8815) ～分岐点」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8942A、B、C)」と記載
- (注21) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8942A、B、C) ～余熱除去クローラ出口合流点」と記載
- (注23) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注24) エルボを示す。
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注26) 公称値は既工事計画書に記載がないため適正化を行う。
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8803A、B) ～ほう酸注入タンク入口レジェューサ (6×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (6×3) ～ほう酸注入タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジェューサ (6×3) ～弁 (3-8801A、B)」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8801A、B) ～分岐点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8944A、B、C)」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8944A、B、C) ～余熱除去クローラ出口合流点」と記載
- (注33) 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成24年2月7日付け関原発第465号工事計画認可申請書、平成24年2月28日付け平成24・02・07原

第8号にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。

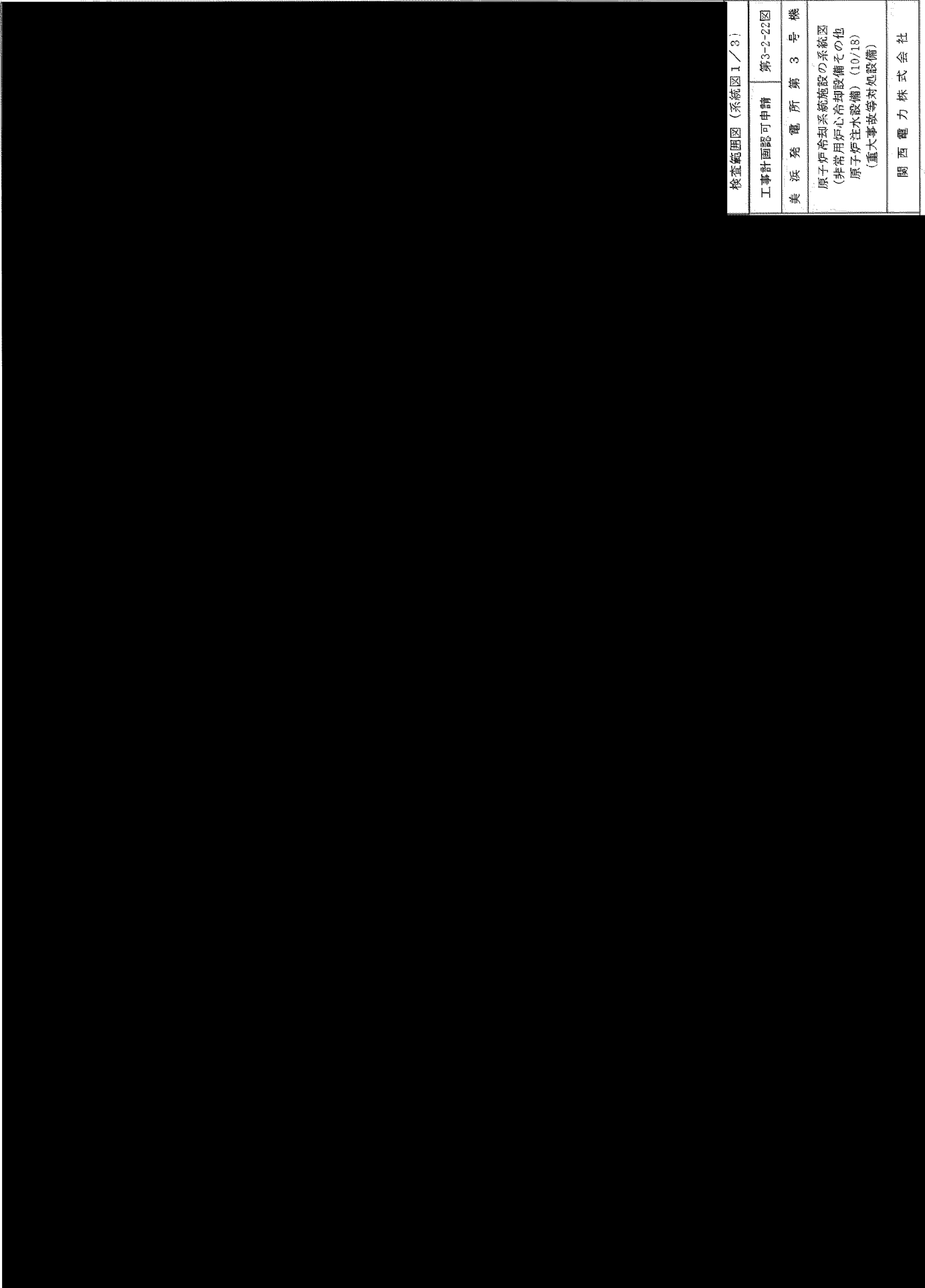
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー / (60.5) / (60.5)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー / (8.7) / (8.7)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー / (差し込み部の内径) (61.1) / (差し込み部の内径) (61.1)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー / (最小) 9.5 / (最小) 9.5」と記載

8 化学体積制御設備に係る次の事項
 (7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前				変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
(注24)						(注15)					
化学体積制御設備						化学体積制御設備					
充てん/高圧 注入ポンプ 出口ライン レギュレーサ (4×3) ～ 弁 (3MOV-8107)	18.8 (注10)	150	88.9 (注2)	11.1 (注2,4)	SUS27TP	充てん/高圧 注入ポンプ 出口ライン レギュレーサ (4×3) ～ 弁 (3MOV-8107)	変更なし	変更なし	88.9 (注2)	11.1 (注2)	SUS304TP
			88.9 (注2)	11.1 (注2)	(注11) SUS304TP				60.5 (注22)	8.7 (注22)	変更なし

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-LCV-460) ～抽出水再生クローレレジューサ (3×2)」と記載
- (注2) 公称値
- (注3) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
- (注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8149A、B、C) ～抽出水非再生クローラ」と記載
- (注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 6.1」と記載
- (注7) 公称値は既工事計画書に記載がないため適正化を行う。
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 6.1 / (最小) 6.1 / -」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-LCV-115B) ～レジューサ (8×4)」と記載
- (注10) SI単位に換算したものである。
- (注11) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-LCV-115B) ～レジューサ (8×4)」及び「レジューサ (8×4) ～充てん/高压注入ポンプ入ロライン集合母管」と記載
- (注13) 当該箇所については、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高压注入ポンプ入ロライン集合母管」と記載
- (注15) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8706A、B) ～充てん/高压注入ポンプ入ロライン集合母管」と記載
- (注17) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-LCV-115D、E) ～充てん/高压注入ポンプ入ロライン集合母管」と記載

- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口ライン集合母管～A、B、C充てん/高圧注入ポンプ」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C充てん/高圧注入ポンプ出口レギュレーサ (4×3) ～充てん/高圧注入ポンプ出口ライン集合母管」と記載
- (注21) SUS27TP同等材 (SUS304TP) への取替えを行う。
- (注22) 重大事故等時に使用
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口ライン集合母管レギュレーサ (4×3) ～レギュレーサ (4×3)」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×3) ～弁 (3-8107)」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8107) ～抽出水再生クーラ入口」と記載
- (注26) 重大事故等時における使用時の値
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「抽出水再生クーラ～弁 (3-8146)」と記載
- (注28) 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成24年2月7日付け関原発第465号工事計画認可申請書、平成24年2月28日付け平成24・02・07原第8号にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8146) ～弁 (3-8378B)」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×3) ～弁 (3-8105)」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8105) ～レギュレーサ (3×2)」と記載
- (注32) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (3×2) ～各冷却材ポンプ用封水の分岐点」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2×1) ～弁 (3-8369A、B、C) ～レギュレーサ (2×1)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2×1) ～レギュレーサ (2×1 1/2)」と記載



検査範囲図 (系統図 1 / 3)

工事計画認可申請	第3-2-22図
美浜発電所	第3号機
原子炉冷却系統施設の系統図 (非常用炉心格納設備その他 原子炉注水設備) (10/18) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号：I-03-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
<p>令和2年 6月23日</p>	<p>良</p>	<p>須貝 実 [印]</p>	<p>式行一、タービン [印] 主任技術者</p>	<p>なし</p>

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6 月 23 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6月 23日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・◎	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 6月 23日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備) 主配管 恒設代替低圧注水ポンプ～A内部スプレクーラ出口合流点 ※1 可搬式代替低圧注水ライン接続口～恒設代替低圧注水ポンプ出口配管合流点 ※2			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px 10px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0213 ・目視で確認した範囲： ※1：別紙16～18、22～24参照 ※2：別紙19～24参照			

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあっては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前				変更後			
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	厚さ (mm)	材料	料
				(注13)			
				非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			
				恒設代替低圧注水ポンプ	(注3)	(注3, 21)	SUS304TP
				～	114.3	6.0	
				A内部スプレークロー	(注14)		
				出口合流点	(注14)	95	
				2.7			
				165.2	(注3)	(注3, 21)	SUS304TP
				7.1			

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	厚さ材	料
		(注13)		(注3)	(注3)		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備							
	恒設代替低圧 注水ポンプ	(注14)	(注14)	165.2 /	7.1 /	SUS304TP	
	～ A内部スプレ クレー 出口合流点	2.7	95	114.3 /	6.0 /		
				114.3 /	6.0 /	SUS304TP	
				114.3	6.0		

変 更 前					変 更 後							
名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材 料	
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備						(注13)						
						恒設代替低圧 注水ポンプ ～ A内部スプレー クローラ 出口合流点	(注14) 2.7	(注14) 95	(注3) 114.3 / 114.3 / -	(注3) 6.0 / 6.0 / -	SUS304TP	
								(注14) 150	(注3) 165.2	(注3,21) 7.1	SUS304TP	

1

2

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備					(注3)	(注3)	
					114.3	114.3	(注3, 21) 6.0
	可搬式代替低圧注水ライン 接続口				(注3)	(注3)	(注3, 21) 7.1
						2.7	(注14) 40
							(注3)
						165.2	165.2
							7.1
						165.2	165.2
							7.1
						114.3	114.3
							(注3)
							SUS304TP

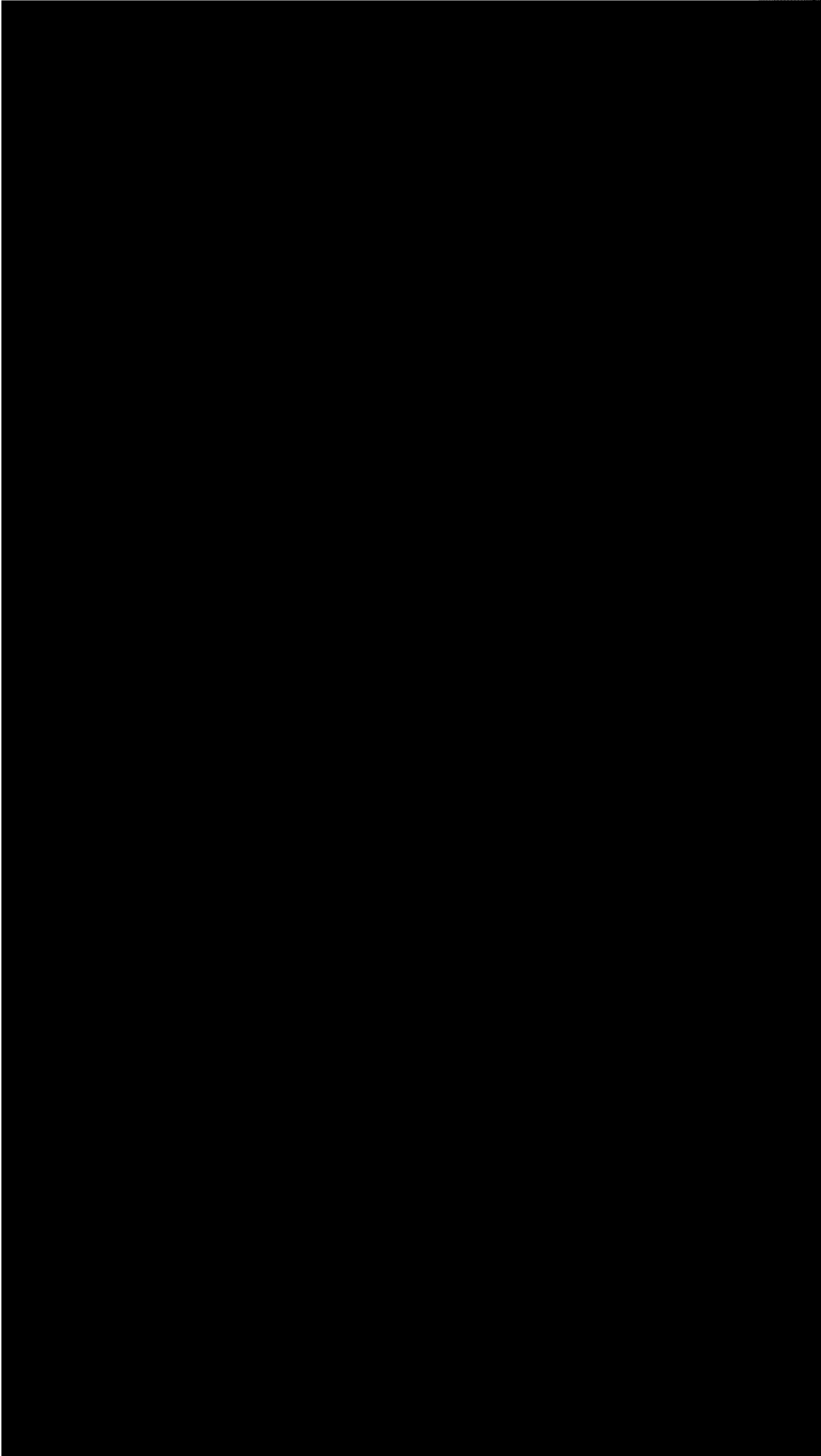
変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	さ材	料
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備							
	可搬式代替低圧 注水ライン 接続口 ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 出口配管合流点	(注14) 2.7	(注14) 40	(注3) 165.2 / 165.2 / 165.2	(注3) 7.1 / 7.1 / 7.1	SUS304TP	
				(注3) 165.2 / - / 165.2	(注3) 7.1 / - / 7.1	SUS304TP	

変更前					変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備						可搬式代替低圧注水ライン 接続口 ～ 恒設代替低圧注水ポンプ 出口配管合流点	(注14) 2.7	(注14) 95	(注3)	60.5	(注3, 21) 3.9	SUS304TP
									(注3)	165.2	(注3, 21) 7.1	SUS304TP
									(注3, 24)	114.3	(注3, 24) 6.0	SUS304TP
									(注3)	165.2	(注3) 7.1	SUS304TP
								(注3)	114.3	(注3) 6.0	SUS304TP	

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (3-8926)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS277P」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注7) 重大事故等時に使用
- (注8) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」及び「逆止弁 (3-8926) 出口分岐点～弁 (3-8927)」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」と記載
- (注11) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8927) ～逆止弁 (3-8926) 入口合流点」と記載
- (注13) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口集合母管～レギュレーサ (4×3)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×3) ～レギュレーサ (4×3)」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×3) ～弁 (3-8803A、B) および弁 (3-8816)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×3) ～弁 (3-8815) 及び弁 (3-8814)」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8815) ～分岐点」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8942A、B、C)」と記載
- (注21) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8942A、B、C) ～余熱除去クローラ出口合流点」と記載
- (注23) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注24) エルボを示す。
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注26) 公称値は既工事計画書に記載がないため適正化を行う。
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8803A、B) ～ほう酸注入タンク入口レギュレーサ (6×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (6×3) ～ほう酸注入タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レギュレーサ (6×3) ～弁 (3-8801A、B)」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8801A、B) ～分岐点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8944A、B、C)」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8944A、B、C) ～余熱除去クローラ出口合流点」と記載
- (注33) 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成24年2月7日付け関原発第465号工事計画認可申請書、平成24年2月28日付け平成24・02・07原第8号にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「— / (60.5) / (60.5)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「— / (8.7) / (8.7)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「— / (差し込み部の内径) (61.1) / (差し込み部の内径) (61.1)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「— / (最小) 9.5 / (最小) 9.5」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8816) ～分岐点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8937A、B、C)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8814) ～分岐点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8939A、B、C)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8937C) 及び逆止弁 (3-8939C) ～逆止弁 (3-8940C)」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8937A、B) 及び逆止弁 (3-8939A、B) ～余熱除去クローラ出口合流点」と記載





載



検査範囲図 (系統図1/1)	
工事計画認可申請	第3-2-28図
美浜発電所	第3号機
原子炉給排系統施設の系統図 (非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備) (16/18) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 7月13日	良	 中国 聡  及 台 恭 平	ぼいー、タービン 主任技術者  	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 7月 13日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 7月 13日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・⊖	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 7月 13日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、ほう酸注入機能を有する設備、圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) 主配管 ※1 弁 (3V-8926) ~ 恒設代替低圧注水ポンプ原子炉下部キャピティ注水ポンプ行分岐点 原子炉冷却系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) 主配管 ※1 恒設代替低圧注水ポンプ原子炉下部キャピティ注水ポンプ行分岐点及び電動補助給水ポンプ入口配管分岐点~原子炉下部キャピティ注水ポンプ及び恒設代替低圧注水ポンプ			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録 (※) による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0206 ・目視で確認した範囲： ※1：別紙25~39参照			

設 備 概 要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

（7）主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

（次ページより記載）

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	料
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注9) 弁 (3V-8926) ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ行 分岐点	(注2) 1.4	150	(注3)	(注3)	SUS27TP	変更なし
				219.1	8.2		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注9) 弁 (3V-8926) ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ行 分岐点	(注2) 1.4	150	(注3)	(注3)	SUS304TP	変更なし
				219.1	8.2		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注9) 弁 (3V-8926) ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ行 分岐点	(注2) 1.4	150	(注3, 4)	(注3, 4)	SUS304TP	変更なし
				219.1	8.2		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注9) 弁 (3V-8926) ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ行 分岐点	(注2) 1.4	150	(注3, 6)	(注3, 6)	SUS304TP	変更なし
				219.1	8.2		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注9) 弁 (3V-8926) ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ行 分岐点	(注2) 1.4	150	(注3, 6)	(注3, 6)	SUS304TP	変更なし
				219.1	8.2		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注9) 弁 (3V-8926) ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ行 分岐点	(注2) 1.4	150	(注7)	(注7)	SUS304TP	変更なし
				168.3	7.1		

1

変更前				変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	厚さ (mm)	材料	材料			
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備				(注3)	(注3)	(注3)	(注3)			
				恒設代替低圧注水ポンプ	267.4	9.3	SUS304TP	SUS304TP		
				原子炉下部キャビテイ注水ポンプ	(注3)	(注3,21)	(注3)	(注3,21)	SUS304TP	
				ポンプ分岐点及び電動補助給水ポンプ	(注3,24)	(注3,24)	(注3,24)	(注3,24)	(注3)	(注24)
				入口配管分岐点	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)	STPT370
				～	(注14)	(注14)	(注14)	(注14)	(注14)	(注14)
				原子炉下部キャビテイ注水ポンプ及び恒設代替低圧注水ポンプ	0	40	267.4	9.3	11.1	SUS304TP
				～						
				原子炉下部キャビテイ注水ポンプ及び恒設代替低圧注水ポンプ						
				～						

2

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	材料				
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備											
恒設代替低圧注水ポンプ 原子炉下部キャビテイ注水ポンプ 分岐点及び電動補助給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部キャビテイ注水ポンプ 及び 恒設代替低圧注水ポンプ	(注13) 0	(注14) 95	(注3) 165.2	(注3) 7.1	(注3) 7.1	(注3) 267.4	(注3) SUS304TP				
								(注3) 318.5	(注3) 10.3	(注3) 10.3	(注3) SUS304TP

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	さ材	料
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備							
	(注13) 恒設代替低圧 注水ポンプ			(注3) 355.6	(注3) 11.1	(注3) SUS304TP	
	原子炉下部 キャピタリ注水 ポンプ行分岐点 及び 電動補助 給水ポンプ	(注14) 0	(注14) 95	(注3) 267.4 / 165.2	(注3) 9.3 / 7.1	(注3) SUS304TP	
	入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャピタリ注水 ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ			(注3) 318.5 / 267.4	(注3) 10.3 / 9.3	(注3) SUS304TP	
				(注3) 355.6 / 318.5	(注3) 11.1 / 10.3	(注3) SUS304TP	

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備							
	(注13) 恒設代替低圧 注水ポンプ 原子炉下部 キャビテイ注水 ポンプ行分岐点 及び 電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビテイ注水 ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注14) 0	(注14) 95	(注3) 318.5 / 318.5 / 318.5	(注3) 10.3 / 10.3 / 10.3	SUS304TP	
				(注3) 355.6 / 355.6 / 267.4	(注3) 11.1 / 11.1 / 9.3	SUS304TP	

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材	料
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備							
	(注13) 恒設代替低圧 注水ポンプ			(注3) 216.3	(注3) 8.2	(注3) SUS304TP	
	原子炉下部 キャビティ注水 ポンプ行分岐点 及び 電動補助 給水ポンプ			(注3) 318.5	(注3, 21) 10.3	(注3) SUS304TP	
	入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ注水 ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注14) 1.4	(注14) 150	(注3) 318.5 ／ 216.3	10.3 ／ 8.2	SUS304TP	

変更前					変更後								
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備							(注9)						
							E.L.約	側					
							(注14)						
							復水タンク海水	補給水ライン	1.6	40	165.2	7.1	SUS304TP
							(注9)						
							弁 (3CW-100)	接続口					
							(注9, 21)						
							弁 (3CW-100)	復水タンク	0	40	165.2	7.1	SUS304TP

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (3-8926)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

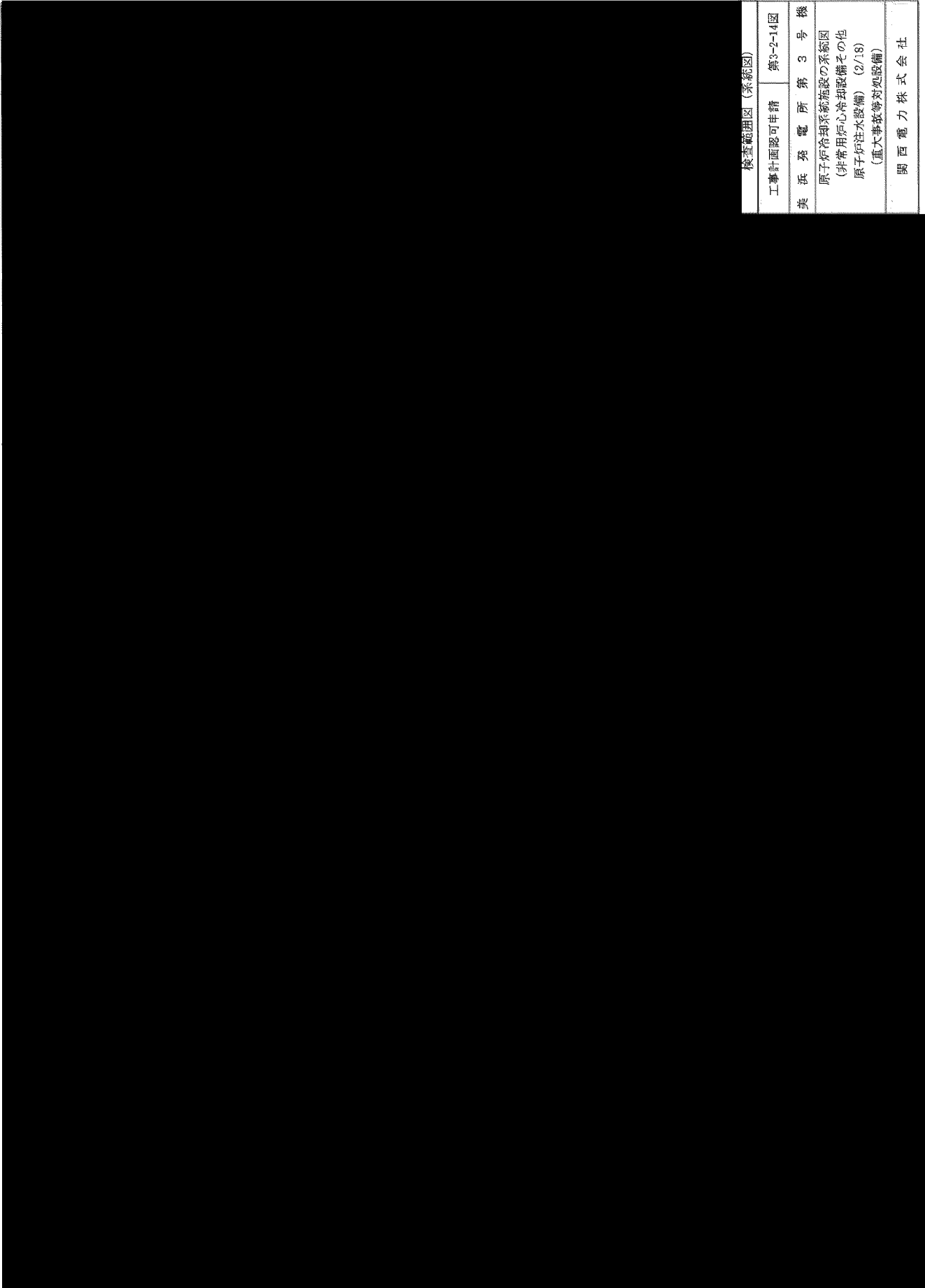
- (注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注7) 重大事故等時に使用
- (注8) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（3-8926）～弁（3-LCV-115D、E）」及び「逆止弁（3-8926）出口分岐点～弁（3-8927）」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（3-8926）～弁（3-LCV-115D、E）」と記載
- (注11) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（3-8927）～逆止弁（3-8926）入口合流点」と記載
- (注13) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～レジュューサ（4×3）」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ（4×3）～レジュューサ（4×3）」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ（4×3）～弁（3-8803A、B）および弁（3-8816）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ（4×3）～弁（3-8815）及び弁（3-8814）」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（3-8815）～分岐点」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（3-8942A、B、C）」と記載
- (注21) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（3-8942A、B、C）～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注23) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

- (注24) エルボを示す。
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注26) 公称値は既工事計画書に記載がないため適正化を行う。
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8803A、B) ～ほう酸注入タンク入口レギュレーサ (6×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (6×3) ～ほう酸注入タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レギュレーサ (6×3) ～弁 (3-8801A、B)」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8801A、B) ～分岐点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8944A、B、C)」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8944A、B、C) ～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注33) 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成24年2月7日付け関原発第465号工事計画認可申請書、平成24年2月28日付け平成24・02・07原第8号にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「— / (60.5) / (60.5)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「— / (8.7) / (8.7)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「— / (差し込み部の内径) (61.1) / (差し込み部の内径) (61.1)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「— / (最小) 9.5 / (最小) 9.5」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8816) ～分岐点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8937A、B、C)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8814) ～分岐点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8939A、B、C)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8937C) 及び逆止弁 (3-8939C) ～逆止弁 (3-8940C)」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8937A、B) 及び逆止弁 (3-8939A、B) ～余熱除去クーラ出口合流点」と記載

載

- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁 (3-8811A、B)」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8811A、B)～弁 (3-8812A、B)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (3-8958)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8958)～弁 (3-8809A、B)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプミニマムフローライン分岐点～弁 (3-8818A、B) 及び弁 (3-8819)」と記載
- (注49) SUS32TP同等材 (SUS316TP) への取替えを行う。
- (注50) 余熱除去設備と兼用
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8818A、B)～逆止弁 (3-8971A、B) を経てブループロボールドレグ注入ラインの分岐点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ブループロボールドレグ注入ラインの分岐点～逆止弁 (3-8973A、B、C)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8819)～分岐点」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8935A、B)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8973A、B、C)～逆止弁 (3-8945A、B、C)」と記載
- (注56) 記載内容は、既工事計画届出書(平成24年度2月7日付け関原発第466号工事計画届出書)による。なお、本工事計画は、届出した工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。
- (注57) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8935A、B)～逆止弁 (3-8940A、B)」と記載
- (注59) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注60) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年2月24日付け関工発第226号にて整備変更届出した工事計画書の参考資料2「アキムレータ強度計算書(分割第4次申請分資料16)」による。
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8808A、B、C)～逆止弁 (3-8948A、B、C)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (3-5400)」と記載

- (注63) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注64) 本設備は既存の設備である。
- (注65) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用





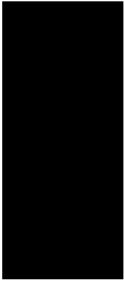

検査範囲図 (系統図)	
工事計画認可申請	第3-2-14図
美浜発電所	第3号線
原子炉冷却系統施設の系統図 (非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備) (2/18) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

検査範囲図（系統図）	
工事計画認可申請	第3-2-26図
美浜発電所第3号機	原子炉冷却系統施設の系統図 （非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備）（14/18） （重大事故等対処設備）
関西電力株式会社	

検査範囲図（系統図）	
工事計画認可申請	第3-2-28図
美浜発電所第3号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 （非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備）（16/18） （重大事故等対応設備）	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号: 1-03-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月4.6日	良	森田 憲二  北村 博史 	ボイラー・タービン 主任技術者  	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 8月4,6日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 8月4、6日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 8月 4日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、ほう酸注入機能を有する設備、圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備) 主配管 ※1 弁(3V-8926)～恒設代替低圧注水ポンプ原子炉下部キャピティ注水ポンプ行分岐点 原子炉冷却系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備) 主配管 ※1 恒設代替低圧注水ポンプ原子炉下部キャピティ注水ポンプ行分岐点及び電動補助給水ポンプ 入口配管分岐点～原子炉下部キャピティ注水ポンプ及び恒設代替低圧注水ポンプ			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0206 ・目視で確認した範囲：— ※1：別紙25～39(令和2年7月13日実施分)参照			

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 8月 4日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備) 主配管 原子炉下部キャビティ注水ポンプ～B 内部スプレクーラ出口合流点 ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0111 ・目視で確認した範囲：— ※1：別紙5～8(令和2年6月12日実施分)参照			

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 8月 4日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備) 主配管 恒設代替低圧注水ポンプ～A内部スプレクーラ出口合流点 ※1 原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 可搬式代替低圧注水ライン接続口～恒設代替低圧注水ポンプ出口配管合流点 ※2			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0213 ・目視で確認した範囲：— ※1：別紙16～18、22～24(令和2年6月23日実施分)参照 ※2：別紙19～24(令和2年6月23日実施分)参照			

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-03-2

検査年月日：令和2年 8月 6日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 ※1 A内部スプレクーラ出口配管分岐点～弁（3MOV-760） 弁（3MOV-760）～A余熱除去クーラ出口配管合流点			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0211 ・目視で確認した範囲：— ※1：別紙40～46参照			

設 備 概 要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

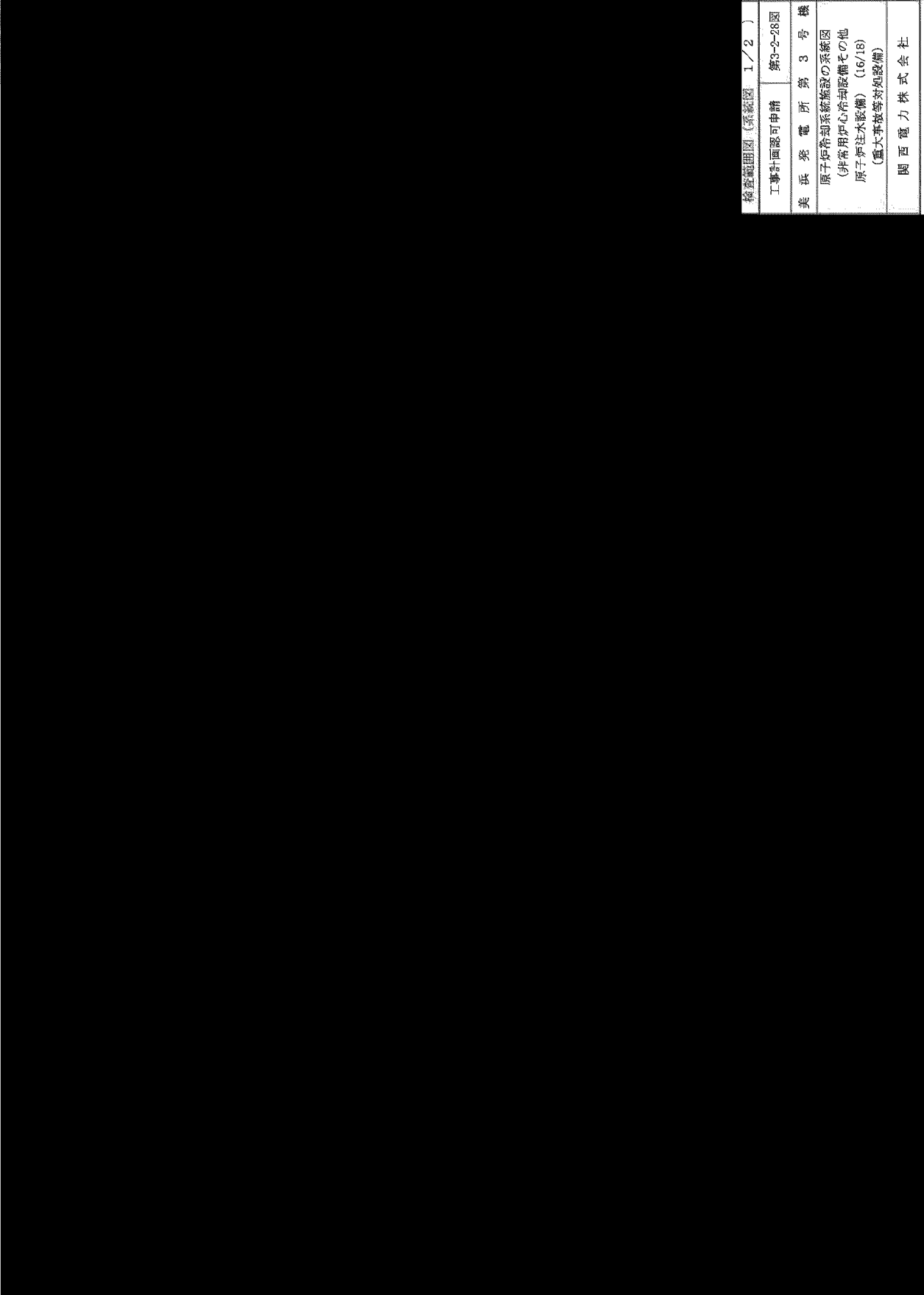
変 更 前				変 更 後							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備											
						(注4) A内部スプレ クローラ出口 配管分岐点 ～ 弁(3MOV-760)	(注4) 2.7	(注4) 150	(注3) 165.2 / / - / 165.2	(注3,21) 7.1 / - / 7.1	SUS304TP
						(注4) 弁(3MOV-760) ～ A余熱除去 クローラ出口 配管合流点	(注4) 4.1	(注4) 200	(注3) 165.2	(注3,21) 7.1	SUS304TP

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (3-8926)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注7) 重大事故等時に使用
- (注8) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」及び「逆止弁 (3-8926) 出口分岐点～弁 (3-8927)」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8926) ～弁 (3-LCV-115D、E)」と記載
- (注11) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8927) ～逆止弁 (3-8926) 入口合流点」と記載
- (注13) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口集合母管～レギュレーサ (4×3)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×3) ～レギュレーサ (4×3)」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×3) ～弁 (3-8803A、B) および弁 (3-8816)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×3) ～弁 (3-8815) 及び弁 (3-8814)」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8815) ～分岐点」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8942A、B、C)」と記載

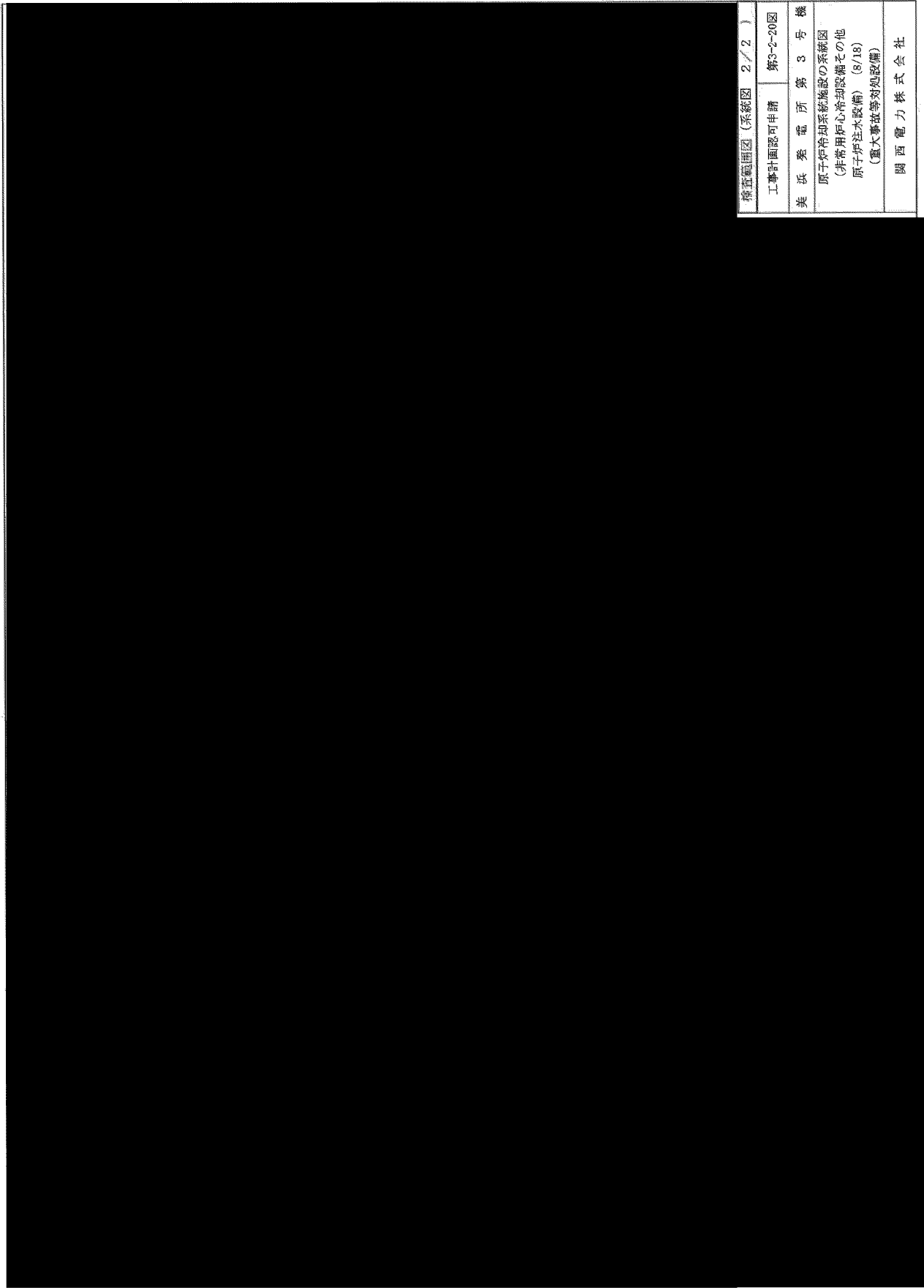
- (注21) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8942A、B、C) ～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注23) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注24) エルボを示す。
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注26) 公称値は既工事計画書に記載がないため適正化を行う。
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8803A、B) ～ほう酸注入タンク入口レジェューサ (6×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (6×3) ～ほう酸注入タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジェューサ (6×3) ～弁 (3-8801A、B)」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8801A、B) ～分岐点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8944A、B、C)」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8944A、B、C) ～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注33) 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成24年2月7日付け関原発第465号工事計画認可申請書、平成24年2月28日付け平成24・02・07原第8号にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー / (60.5) / (60.5)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー / (8.7) / (8.7)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー / (差し込み部の内径) (61.1) / (差し込み部の内径) (61.1)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー / (最小) 9.5 / (最小) 9.5」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8816) ～分岐点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8937A、B、C)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8814) ～分岐点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8939A、B、C)」と記載

- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8937C) 及び逆止弁 (3-8939C) ～逆止弁 (3-8940C)」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8937A, B) 及び逆止弁 (3-8939A, B) ～余熱除去クローラ出口合流点」と記載
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁 (3-8811A, B)」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8811A, B) ～弁 (3-8812A, B)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (3-8958)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8958) ～弁 (3-8809A, B)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプミニマムフローライン分岐点～弁 (3-8818A, B) 及び弁 (3-8819)」と記載
- (注49) SUS32TP同等材 (SUS316TP) への取替えを行う。
- (注50) 余熱除去設備と兼用
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8818A, B) ～逆止弁 (3-8971A, B) を経てBループコールドレグ注入ラインの分岐点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「Bループコールドレグ注入ラインの分岐点～逆止弁 (3-8973A, B, C)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8819) ～分岐点」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (3-8935A, B)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (3-8973A, B, C) ～逆止弁 (3-8945A, B, C)」と記載
- (注56) 記載内容は、既工事計画届出書 (平成24年度2月7日付け関原発第466号工事計画届出書) による。なお、本工事計画は、届出した工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。
- (注57) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-8935A, B) ～逆止弁 (3-8940A, B)」と記載
- (注59) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

- (注60) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年2月24日付け関工発第226号にて軽微変更届出した工事計画書の参考資料2「アキユムレータ強度計算書（分割第4次申請分資料16）」による。
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（3-8808A、B、C）～逆止弁（3-8948A、B、C）」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁（3-5400）」と記載
- (注63) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注64) 本設備は既存の設備である。
- (注65) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用



検査範囲図(系統図 1/2)
工事計画認可申請 第3-28図
美浜発電所 第3号機
原子炉冷却系統施設の系統図 (非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備) (16/18) (風力事故警対処設備)
関西電力株式会社



検査範囲図 (系統図 2/2)
工事計画認可申請 第3-2-20図
美浜発電所 第3号機
原子炉冷却系統施設の系統図 (非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備) (8/18) (重大事故等対処設備)
関西電力株式会社

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1712152号99

成績書管理番号：1-05

令和2年8月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-05

- 1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 ~~令和~~ 2 年 6 月 1 日
至 令和 2 年 8 月 21 日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第343号(平成29年12月15日) 関原発第427号(平成30年3月16日) 関原発第62号(平成30年4月20日) 関原発第158号(平成30年6月25日) 関原発第201号(平成30年7月4日) 関原発第414号(平成30年12月5日) 関原発第517号(平成31年2月6日) 関原発第61号(2019年5月16日) 関原発第121号(2019年6月28日) 関原発第167号(2019年7月25日) 関原発第216号(2019年9月2日) 関原発第640号(2020年3月24日) 関原発第650号(2020年3月30日) 関原発第30号(2020年4月7日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-05

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月1日	良	大江 勇人	ボイラ-、タービン主任技術者	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 6月 1日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 6月 1日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・⊖	


関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 6 月 1 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管：一式※1			
検査項目※1	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0304(その1) ※1：別紙1～16参照 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>			

設備概要

<凡例>

- (): 設備概要の()内の番号と
検査範囲図中の()内の番号は一致する。
- : 設備概要の□内の番号と
検査範囲図中の□内の番号は一致する。

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの(蒸気タービンに係るものを除く。)にあつては、次の事項

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前		変更後		変更後		変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 B燃料ピット クローラ戻り配管 合流点 ～ Bヘッド1次系 冷却水戻り母管 合流点	(150)		(1317)	(1317)	(1317)	原子炉補機冷却設備 変更なし					
	0.98	95	267.4	9.3	STPT38		267.4	9.3	STPT38		
			(1350)	(1350)	(1350)		(1350)	(1350)	(1350)	(1350)	(1350)
			267.4	9.3	STPT370		267.4	9.3	STPT370		
		(133)	(133)	(133)	(133)	(133)	(133)	(133)	(133)	(133)	(133)
			273.1	9.3	STPG42	273.1	9.3	STPG42			
			(136)	(136)	(136)	(136)	(136)	(136)	(136)	(136)	(136)
						273.1	15.1	STPG42			

(1)

1

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	B燃料ピットクー ラ冷却水 入口配管分岐点	(13)	(13)	340	3.4	SIF1370	
	~	(15)	(15)	340	4.2 (4.5)	S25C	
	可搬型原子炉 補機冷却水循環 ポンプ入口配管 分岐点	1.2	95	340	3.4		
				340	3.4	SIF1370	

(2)

2

<凡例>

(): 設備概要の()内の番号と
検査範囲図中の()内の番号は一致する。

□ : 設備概要の□内の番号と
検査範囲図中の□内の番号は一致する。

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
						B燃料ピット クローラ冷却水 入口配管分岐点	(0.35)	(110)	340	3.4	(S35)
						可搬型原子炉 補機冷却水循環 ポンプ入口配管 分岐点	1.2	95	-	-	SIP1370
						可搬型原子炉 補機冷却水循環ボ ンプ入口配管 分岐点	(0.33)	(115)	340	3.4	(S35)
						可搬型原子炉 補機冷却水循環 ポンプ入口 接続口	0.33	40	340	3.4	SIP1370

<凡例>

- () : 設備概要の()内の番号と
検査範囲図中の()内の番号は一致する。
- : 設備概要の□内の番号と
検査範囲図中の□内の番号は一致する。

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	可搬型原子炉 補機冷却水循環 ポンプ出口 接続口	(115)	40	340	3.4	STPT370	(115)	(115)	(115)	(115)	(115)
							(115)	(115)	(115)	(115)	(115)
							(115)	(115)	(115)	(115)	(115)
	可搬型原子炉 補機冷却水循環 ポンプ出口配管 合流点	(115)	95	340	3.4	STPT370	(115)	(115)	(115)	(115)	(115)
							(115)	(115)	(115)	(115)	(115)
							(115)	(115)	(115)	(115)	(115)
	可搬型原子炉 補機冷却水循環 ポンプ出口配管 合流点 格納容器 雰囲気ガス サンプリング 冷却器	(115)	85	340	3.4	STPT370	(115)	(115)	(115)	(115)	(115)
							(115)	(115)	(115)	(115)	(115)
							(115)	(115)	(115)	(115)	(115)

<凡例>

- () : 設備概要の()内の番号と
検査範囲図中の()内の番号は一致する。
- : 設備概要の□内の番号と
検査範囲図中の□内の番号は一致する。

変更前				変更後													
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料						
原子炉補機冷却設備	可搬型原子炉補機冷却水循環ポンプ入口配管分岐点	1.2	95	340	3.4	SIP1370	可搬型原子炉補機冷却水循環ポンプ出口配管合流点	0.33	40	340	4.2	S25C					
													格納容器	0.33	340	3.4	SIP1370
	格納容器	0.33	340	3.4	SIP1370												
						燃料ピットクレープ戻り配管合流点	0.33	340	4.2	S25C							

(6)

6

(7)

7

<凡例>

- () : 設備概要の()内の番号と
検査範囲図中の()内の番号は一致する。
- : 設備概要の□内の番号と
検査範囲図中の□内の番号は一致する。

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備							
	格納容器			340	3.4	SIP1370	
	雰囲気ガス			340	3.4		
	サンプリング			340	3.4		
	冷却器	1.2	95	340	3.4		
	B燃料ヒート			340	3.4		
	クローラ戻り配管			340	3.4		
	合流点			340	3.4		

(7)

7

<凡例>

- () : 設備概要の()内の番号と
検査範囲図中の()内の番号は一致する。
- : 設備概要の□内の番号と
検査範囲図中の□内の番号は一致する。

変更前				変更後				
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	口径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備								
	格納容器							
	蒸気ガス	(15)	(15)			(15)	(15)	
	サンプリング	0	95	34.0	3.4			SIP1370
	冷却器							
	出口配管分岐点							
	格納容器							
	蒸気ガス	(15)	(15)			(15)	(15)	
	サンプリング	1.2	95	34.0	3.4			SIP1370
	冷却水屋外排水用							
	ホース接続口							

8

<凡例>

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 重大事故等時における使用時の値

(注6) 本設備は既存の設備である。

(注7) エルボを示す。

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー中間建屋入口～30B管との分岐点」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「直管JWWA G105 異形管JWWA G106」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。

() : 設備概要の()内の番号と
検査範囲図中の()内の番号は一致する。

□ : 設備概要の□内の番号と
検査範囲図中の□内の番号は一致する。

- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダ-30B管と36B管との分岐点～弁 (3・6509B)」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダ-30B管と36B管との分岐点～B1次系冷却水クローラ入口分岐点」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～A、B1次系冷却水クローラ」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「C1次系冷却水クローラ入口分岐点～レジェューサ (30×24)」及び「レジェューサ (30×24) ～C1次系冷却水クローラ」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C1次系冷却水クローラ～海水母管合流点」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B1次系冷却水クローラ出口合流点～A、Bヘッダ-フランジ (30×28)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジェューサ (10×8)」と記載
- (注17) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電装置入口連絡管」と記載
- (注19) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (10×8) ～ディーゼル発電装置」と記載
- (注21) STPG42同等材料 (STPG410) への取替えを行う
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電装置～レジェューサ (12×8)」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×8) ～チラーユニット出口合流点」及び「合流点～海水母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C1次系冷却水クローラ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラ出口連絡管」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダティ：(20×20×16) ～レジェューサ (20×14)」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (20×14) ～内部スプレクローラ」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「Cヘッダ：ティ (16×16×16) ～レジェューサ (16×12)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (16×12) ～レジェューサ (12×10)」と記載
- (注30) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「Cヘッダ：レジェューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダ：内部スプレクローラ～レジェューサ (20×14)」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダ：レジェューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～A、B、C、D1次系冷却水ポンプ」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジェューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載

- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、D1次系冷却水ポンプ出口パイ (20×20×16) ～A、C1次系冷却水クーラー入口パイ (20×20×16)」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラー入口連絡管」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「パイ (20×20×16) ～A、B、C1次系冷却水クーラー」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～A、B余熱除去クーラー (RH-2)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B余熱除去クーラー (RH-2) ～戻り管合流点」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～A、B、C冷却材ポンプへの分岐点」と記載
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C冷却材ポンプからの合流点～弁 (3-FCV-1241)」と記載
- (注45) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上の厚さのものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C冷却材ポンプからの合流点～レジェューサ (8×6)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (3-5105A、B)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B1次系機器冷却水母管分岐点～燃料ピットクーラー」と記載
- (注50) STPT38同等材 (SIPT370) への取替えを行う。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラー～A、B1次系機器冷却水戻り管合流点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラー」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラー～1次系機器冷却水戻り母管」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～IA-1A、IA-1B計器用空気圧縮機パッケージ入りレジェューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「IA-1A、IA-1B計器用空気圧縮機パッケージ入りレジェューサ (2×1 1/2) ～1次系機器戻り母管」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入りレジェューサ (3×2)」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点およびレジェューサ (3×2)」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジェューサ (4×2)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載

- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジェーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ入口レジェーサ (1 1/2×1/2)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジェーサ (1×1/2)」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジェーサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却戻ライン合流点」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (2×1 1/2) ～レジェーサ (3×2)」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジェーサ (12×10)」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (12×10) ～レジェーサ (10×6)」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジェーサ (6×4)」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (10×6) ～レジェーサ (6×4)」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (6×4) および分岐点～レジェーサ (4×2)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注73) 当該箇所については、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジェーサ (4×2) および合流点」と記載
- (注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (4×2) ～レジェーサ (6×4) および合流点」と記載
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (6×4) ～合流点」及び「VS-89A戻り管～合流点」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (12×10) ～1次系機器冷却水戻り管合流点」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～ポンプ入口」と記載
- (注80) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷水管との連絡管」と記載
- (注81) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ～出口合流点」と記載
- (注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置戻ライン合流点」と記載
- (注83) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェーサ (4×3) ～レジェーサ (4×3)」と記載
- (注84) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。



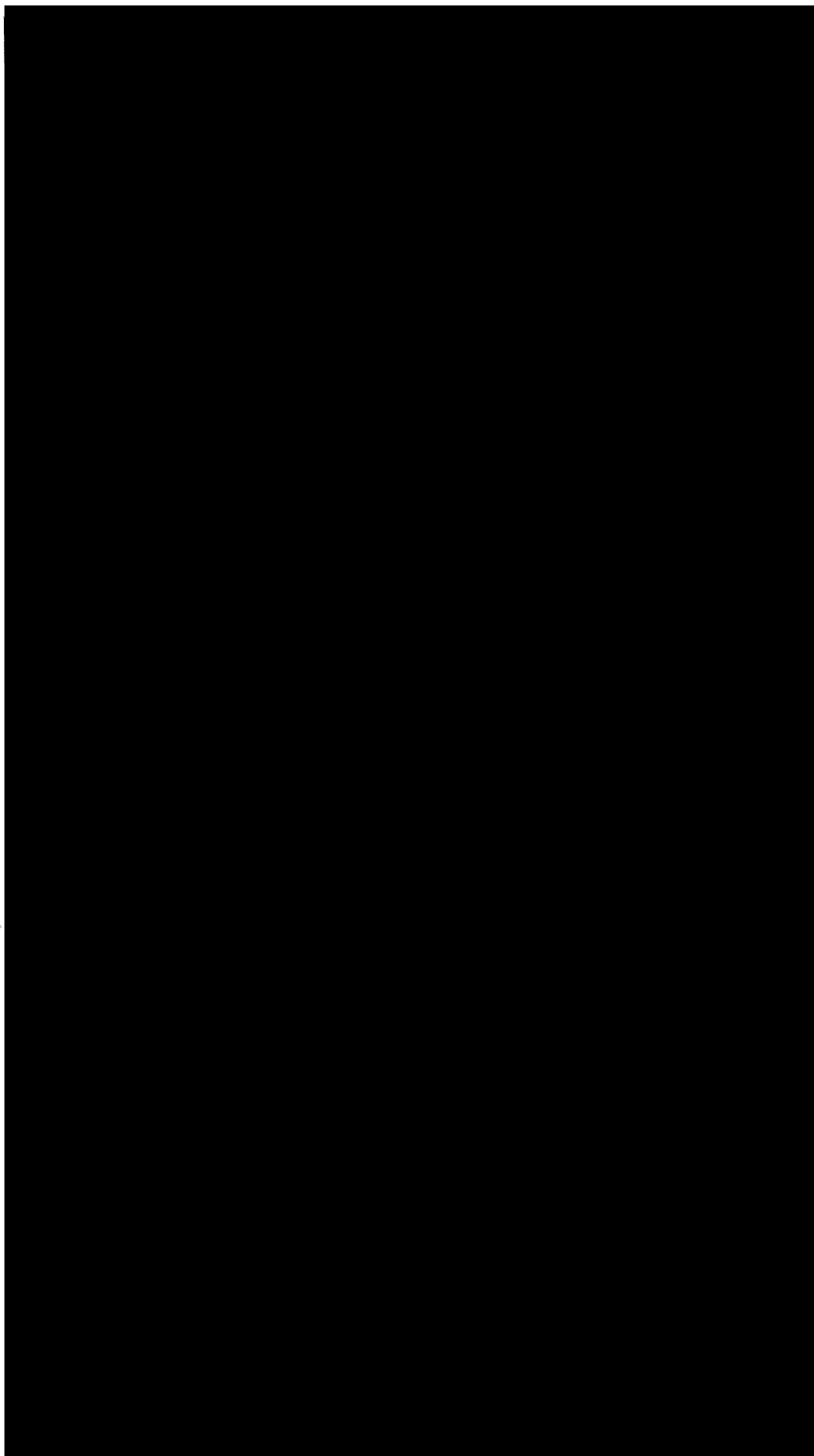
検査範囲図(1/6) (系統図)
工事計画認可申請 第3-2-39図
美浜発電所第3号機
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備) (6/14) (重大事故等対処設備)
関西電力株式会社

検査編図図(2/6) (配置図 1/5)

工事計画認可申請	第3-1-120図
美浜発電所	第3号機
原子炉冷却系配管系統施設に係る機器の配置を明示した図面 (原子炉補機冷却設備) (13/56)	
関西電力株式会社	

検査範囲図(3/6) (配置図 2/5)

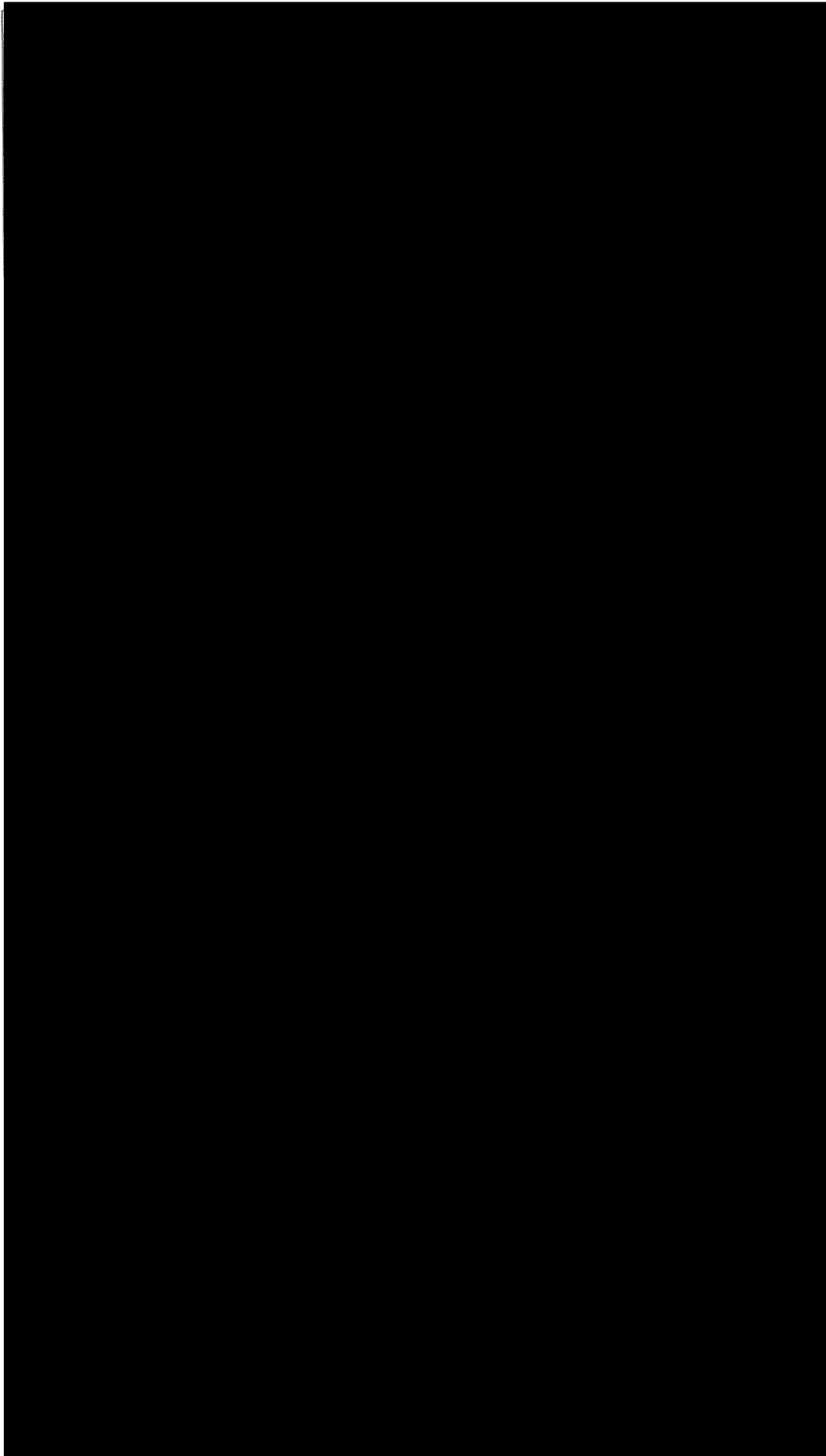
工事計画認可申請	第3-1-152図
美浜発電所	第3号機
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明とした図面 (原子炉箱機冷却設備) (45/56)	
関西電力株式会社	



検査範囲図 (4/6) (配置図 3/5)	
工事計画認可申請	第3-1-153図
美浜発電所第3号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の配置を明示した図面 (原子炉補機給油設備) (46/56)	
関西電力株式会社	

検査範囲図(5/6) (配置図 4/5)



工事計画認可申請	第3-1-154図
美浜発電所	第3号機
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (原子炉補機冷却設備) (47/56)	
関西電力株式会社	



検査範囲図(6/6) (配置図 5/5)	
工事計画認可申請	第3-1-155図
美浜発電所第3号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の配置を明示した図面 (原子炉相線冷却設備) (48/56)	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-05

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月8日	良	大江 勇人 	ボイラー・タービン 主任技術者 	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 6 月 8 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 6月 8日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 6月 8日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 A1、A2 海水ストレーナ海水供給接続口～A1、A2 海水ストレーナ ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0505 ・目視で確認した範囲： ※1：別紙17～18参照			

設 備 概 要

原子炉冷却系統施設

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

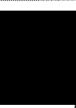

変 更 前				変 更 後									
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚 径 (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚 径 (mm)	材 料		
原子炉補機冷却設備	-	-				A1、A2 海水ストレーナ 海水供給接続口 ～ A1、A2 海水ストレーナ	1.2	40	(注3)	(注3,84)	STPT370		
									267.4	9.3	267.4	9.3	STPT370
									267.4	9.3	267.4	9.3	STPT370
									267.4	9.3	267.4	9.3	STPT370

1

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 重大事故等時における使用時の値
- (注6) 本設備は既存の設備である。
- (注7) エルボを示す。
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー中間建屋入口～30B管と36B管との分岐点」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「直管JWWA G105 異形管JWWA G106」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー30B管と36B管との分岐点～弁 (3-6509B) 」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー30B管と36B管との分岐点～B1次系冷却水クローラ入口分岐点」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～A、B1次系冷却水クローラ」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「C1次系冷却水クローラ入口分岐点～レジューサ (30×24) 」及び「レジューサ (30×24) ～C1次系冷却水クローラ」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C1次系冷却水クローラ～海水母管合流点」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B1次系冷却水クローラ出口合流点～A、Bヘッダーフランジ (30×28) 」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジューサ (10×8) 」と記載
- (注17) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電装置入口連絡管」と記載
- (注19) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×8) ～ディーゼル発電装置」と記載
- (注21) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-05

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月12日	良	大江 勇人 	ボウ-タービン 主任技術者 	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 6 月 11 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 6月 12日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年6月12日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 弁（3V-8485C）出口分岐点～C 充てん／高压注入ポンプ冷却水入口配管合流点及びC 充てん／高压注入ポンプ冷却水入口配管合流点（油冷却器側） ※1 C 充てん／高压注入ポンプ出口配管分岐点及びC 充てん／高压注入ポンプ出口配管分岐点（油冷却器側）～弁（3MOV-8706B）後合流点 ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0203 ・目視で確認した範囲：— ※1：別紙19～26参照			

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備							
	弁 (3V-8485C) 出口分岐点 ～ C充てん/ 高圧注入ポンプ 冷却水入口配管 合流点 及び C充てん/ 高圧注入ポンプ 冷却水入口配管 合流点 (油冷却器側)	(注) 0.98	(注) 95	(注) 48.6 (注) 48.6 (注) 60.5 (注) 60.5 (注) 89.1	(注) 3.7 (注) 3.7 (注) 3.9 (注) 3.9 (注) 5.5	STPT370 SUS304TP STPT370 SUS304TP SUS304TP	

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備							
	弁 (3V-8485C) 出口分岐点 ～ C充てん/ 高圧注入ポンプ 冷却水入口配管 合流点 及び C充てん/ 高圧注入ポンプ 冷却水入口配管 合流点 (油冷却器側)	(注5) 0.98	(注5) 95	(注5) 89.1 / 48.6	(注5) 5.5 / 3.7	SUS304TP	
				(注5) 89.1 / 89.1 / 60.5	(注5) 5.5 / 5.5 / 3.9	SUS304TP	
				(注5) 48.6 / =	(注5) 3.7 / -	SPT370	
				48.6	3.7		

変更前				変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
						弁 (3V-8485C) 出口分岐点 ～ C充てん/ 高圧注入ポンプ 冷却水入口配管 合流点 及び C充てん/ 高圧注入ポンプ 冷却水入口配管 合流点 (油冷却器側)	(注) 0.98	(注) 95	(注) 60.5 / / 60.5	(注) 3.9 / / 3.9	SPTT370
厚手炉補機冷却設備											
							(注) 18.8	(注) 150	(注) 89.1 / / 89.1	(注) 11.1 / / 11.1	SUS304TP

変更前					変更後										
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	料	名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備															
									C充てん/ 高圧注入ポンプ 出口配管分岐点 及び C充てん/ 高圧注入ポンプ 出口配管分岐点(油冷 却器側) ～ 弁 (3MOV-8706B) 後合流点	(注) 0.98	(注) 95	(注) 48.6	(注) 3.7	(注) SIF370	(注) SIF370
										(注) 0.98	(注) 95	(注) 48.6	(注) 3.7	(注) SUS304TP	(注) SUS304TP
										(注) 0.98	(注) 95	(注) 60.5	(注) 3.9	(注) SIF370	(注) SIF370
										(注) 0.98	(注) 95	(注) 60.5	(注) 3.9	(注) SUS304TP	(注) SUS304TP
										(注) 0.98	(注) 95	(注) 89.1	(注) 5.5	(注) SUS304TP	(注) SUS304TP

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	料
原子炉補給冷却設備							
	C充てん/ 高圧注入ポンプ 出口配管分岐点 及び			89.1 / 60.5	5.5 / 3.9	SUS304TP	
	C充てん/ 高圧注入ポンプ 出口配管分岐点(油冷 却器側)	0.98	95	89.1 / 89.1 / 48.6	5.5 / 5.5 / 3.7	SUS304TP	
	弁 (3MOV-8706B) 後合流点			48.6 / - / 48.6	3.7 / - / 3.7	STPT370	

変更前				変更後								
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
					原字炉補機冷却設備	C充てん／高圧注入ポンプ出口配管分岐点及び	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	SPT370
									0.98	95	60.5	3.9
					原字炉補機冷却設備	C充てん／高圧注入ポンプ出口配管分岐点(油冷却器側)～弁 (3MOV-8706B) 後合流点	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	SUS304TP
									1.4	150	89.1	5.5
												SUS304TP
									89.1	5.5		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS4U」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 重大事故等時における使用時の値

(注6) 本設備は既存の設備である。

(注7) エルボを示す。

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー-中間建屋入口～30B管と36B管との分岐点」と記載

- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジェューサ (2×1 1/2)」と記載
(注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ入口レジェューサ (1 1/2×1/2)」と記載
(注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
(注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジェューサ (1×1/2)」と記載
(注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
(注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジェューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却戻ライン合流点」と記載
と記載
(注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) ～レジェューサ (3×2)」と記載
(注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジェューサ (12×10)」と記載
(注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×10) ～レジェューサ (10×6)」と記載
(注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジェューサ (6×4)」と記載
(注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (10×6) ～レジェューサ (6×4)」と記載
(注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (6×4) および分岐点～レジェューサ (4×2)」と記載
(注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
(注73) 当該箇所については、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
(注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジェューサ (4×2) および合流点」と記載
(注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) ～レジェューサ (6×4) および合流点」と記載
(注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (6×4) 合流点」及び「NS-39A戻り管～合流点」と記載
(注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×10) ～1次系機器冷却水戻り管合流点」と記載
(注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん高圧注入ポンプ分岐点」と記載
(注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～ポンプ入口」と記載
(注80) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷水ラインとの連絡管」と記載
(注81) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ～出口合流点」と記載
(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置戻りライン合流点」と記載
(注83) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×3) ～レジェューサ (4×3)」と記載
(注84) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。


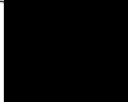




検査範囲図 (系統図)

工事計画認可申請	第3-2-47図
美浜発電所	第3号機
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補修待機設備) (13/14) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号: 1-05

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 7月14日	良	 中田 聡  足立 恭二	ボイラー・タービン 主任技術者  	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 7月 13日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	Ⓔ・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	Ⓔ・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	Ⓔ・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年7月¹³/₁₄/₁₅日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 7月 15日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 ろ過装置 海水ストレーナ ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0506 ※1：別紙27～28、121参照			

設 備 概 要

原子炉冷却系統施設

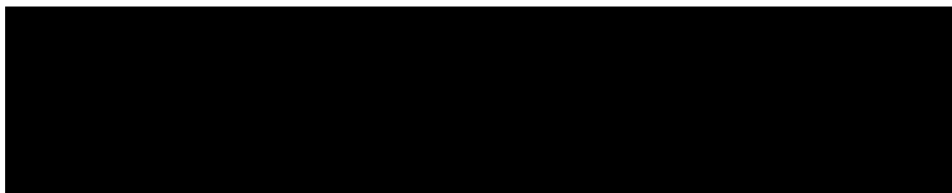
加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(6) ろ過装置の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数

		変 更 前 ^(注1)	変 更 後	
名 称		海水ストレーナ	変更なし	
種 類	—	たて置円筒形		
容 量 ^(注2)	m ³ /h/個		変更なし ^(注4)	
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.7		
最 高 使 用 温 度	℃	40	変更なし	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm		
	胴 板 厚 さ	mm		
	鏡 板 厚 さ	mm		
	鏡板の形状に係る寸法	mm		
	ふ た 板 厚 さ	mm		
	ふた板の形状に係る寸法	mm		
	ふたフランジ厚さ	mm		
	入 口 管 台 外 径	mm		
	入 口 管 台 厚 さ	mm		
	出 口 管 台 外 径	mm		
	出 口 管 台 厚 さ	mm		
	ドレン管台外径	mm		
	ドレン管台厚さ	mm		
	胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm		
高 さ	mm			
材 料	胴 板	—		
	鏡 板	—		
	ふ た 板	—		
	ふ た フ ラ ン ジ	—		
	胴 フ ラ ン ジ	—		
個 数	—	4		

1



(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料
 ・常設

変更前			変更後								
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注1) 海水ポンプ ～ A1, A2 海水ストレーナ 及び 中間建屋入口 (B系)	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 10.0	(注4) SS400	変更なし	(注5) 0.7	40	(注3, 6, 7) 914.4	(注3, 6, 7) 12.0	(注6, 7) SS400
			(注3) 914.4	(注3) 12.0	(注4) SS400						
(注1) A1, A2 海水ストレーナ ～ 中間建屋入口 (A系)	(注2) 0.7	40	(注3) 914.4	(注3) 12.0	(注4) SS400	変更なし	変更なし	40	変更なし		
									(注5) 1.2	(注5) 1.2	(注3, 6, 7) 914.4

原子炉補機冷却設備

原子炉補機冷却設備

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	中間建屋入口 (A系) レジューサ (36×30)	0.7 (注2)	40	914.4 (注3)	12.7 (注3)	SS100 (注4)	変更なし
原子炉補機冷却設備							
変更なし							
		1.2 (注5)	40 (注5)	914.4 (注3,6,7)	12.7 (注3,6,7)	SS400 (注6,7)	変更なし
		1.2 (注5)	40 (注5)	914.4 (注3,6)	12.7 (注3,6)	SS400 (注6)	変更なし

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	中間建屋入口 (B系) ~ 1次系冷却水 クーラー及び2次系 冷却水クーラー行き 分岐点 (B系)	(注2) 0.7	40	(注3) 914.4	(注3) 12.7	(注4) SS400	変更なし
		(注9) 939	(注9) 13.0	(注9) FCD	(注3,6) 914.4	(注3,6) 12.7	
原子炉補機冷却設備		(注5) 0.7	40	(注5)	(注3,6) 914.4	(注3,6) 12.7	(注6) SS400
原子炉補機冷却設備		(注5) 0.7	40	(注5)	762.0	12.0	12.0

5

変更前		変更後				
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備	(注10) 1次系冷却水 クローラ及び2次系 冷却水クローラ行き 分岐点 (A系) ~ 1次系冷却水 クローラ及び2次系 冷却水クローラ行き 分岐点 (B系)	(注2) 0.7	40	(注3) 914.4	(注3) 12.7	(注4) SS400
		変更なし				
原子炉補機冷却設備	変更なし	(注5) 0.7	(注5) 40	(注3, 6, 7) 914.4	(注3, 6, 7) 12.7	(注6, 7) SS400
				(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
				914.4	12.7	SS400

6

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	0.7	40	762	12.0	SS400	原子炉補機冷却設備	変更なし	1.2	変更なし	変更なし	変更なし
							レジュューサ (36×30) ~ クーラ 入口海水母管 分岐点	1.2	40	762.0	12.0
原子炉補機冷却設備	1.2	40	762.0	12.0	SS400	原子炉補機冷却設備	変更なし	40	762.0	12.0	SS400
							変更なし	40	762.0	12.0	SS400
							変更なし	40	762.0	12.0	SS400

変更前						変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
	原子炉補機冷却設備	(注1)						原子炉補機冷却設備			(注3,6)
レジャーサ (36×30) ～ B1次系冷却水 クレーラ 入口海水母管 分岐点						変更なし	(注5) 1.2	(注5) 40	762.0 / 762.0	12.0 / 12.0	SS400

7

変更前			変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備	(注1)	(注2)	(注3)	(注3)	(注4)	変更なし
	1次系冷却水	0.7	762	12.0	SS400	
クレー及び2次系冷却水クレー行き分岐点 (B系) ~ B1次系冷却水クレー入口海水母管分岐点	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	変更なし
		0.7	762.0	12.0	SS400	
		40	762.0	12.0	SS400	

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注12)	(注2)	40	(注3)	(注3)	(注4)	原子炉補機冷却設備	変更なし	0.7	609.6	12.0	SS400
A1次系冷却水 クォー 入口海水母管 分岐点 ～ A1次系冷却水 クォー	0.7	40	609.6	12.0	SS400						
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備					変更なし
								(注5)	(注3, 6, 7)	(注3, 6, 7)	(注6, 7)
								40	609.6	12.0	SS400
								(注5)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
								0.7	609.6	12.0	SS400
									609.6	12.0	SS400
									—	—	—

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注12)	(注2)	(注3)	(注3)	(注4)	原子炉補機冷却設備	変更なし	(注5)	(注3, 6)	(注3, 6, 7)	(注6)
	B1次系冷却水 クレー 入口海水母管 分岐点 ～ B1次系冷却水 クレー 入口配管分岐点 (海水側)	0.7	40	609.6	12.0		SS400	1.2	40	609.6	12.0

変更前		変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注13)	40	609.6	12.0	変更なし
	(注2)				
C1次系冷却水 クレー 入口海水母管 分岐点 ～ C1次系冷却水 クレー	-	40	762	12.0	変更なし
C1次系冷却水 クレー	-	40	609.6	12.0	変更なし
C1次系冷却水 クレー	-	40	609.6	12.0	変更なし

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注14) 1次系冷却水 クローラ ～ A、B、C 1次系冷却水 クローラ 出口海水母管 合流点	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12.0	(注4) SS400	変更なし	(注5) 0.7	(注5) 40	(注3, 6, 7) 609.6	(注3, 6, 7) 12.0	(注6) SS400
(注15) B1次系冷却水 クローラ 出口海水母管 合流点 ～ フランジ (30×28)	(注2) 0.7	40	(注3) 762	(注3) 12.0	(注4) SS400	変更なし	(注5) 0.7	(注5) 40	(注3, 6, 7) 762.0	(注3, 6, 7) 12.0	(注6) SS400

12

13

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	さ材	料
原子炉補機冷却設備	B1次系冷却水 クーラ 出口海水母管 合流点 ～ フランジ (30×28)			—	—		(注15)
原子炉補機冷却設備	変更なし	0.7 (注5)	40 (注5)	762.0 — 762.0 — 609.6 (注3,6)	12.0 — 12.0 — 12.0 (注3,6)	SS400 (注6)	(注6)

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	フランジ (30×28)	(注2)	40	(注3)	(注3)	(注9)	変更なし
	～ フランジ (30×28)	0.7		733	11.0	FCD	
原子炉補機冷却設備	フランジ (30×28)	(注2)	40	(注3)	(注3)	(注3)	変更なし
	～ ラプチャディスプレイ への分岐点	0.7		762	12.0	SS41	
				変更なし			
				(注5)	(注5)	(注3,6)	(注6)
				0.7	40	762.0	12.0
						762.0	12.0
						—	—
						—	—

変更前					変更後								
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	さ材	料	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	さ材	料
原子炉補機冷却設備	フランジ (30×28) ～ ラプチャディイスク への分岐点												
				-				(注5) 0.7	40	762.0	12.0		(注6) SS41
										(注3,6) 609.6			

14

変更前			変更後		
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 A、C1次系 冷却水クローラ ～ A、C1次系冷却水 クローラ出口合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41
変更なし					
原子炉補機冷却設備	(注3)	95	(注3, 6, 7) 406.4	(注3, 6, 7) 9.5	(注6, 7) SS41
	(注3)		(注3, 6) 508.0	9.5	(注6) SS41
	(注3)		508.0	9.5	SS41
	(注3)		406.4	9.5	SS41
変更なし					
	0.98		(注3, 6) 508.0	(注3, 6) 9.5	(注6) SS41
			(注3, 6) 508.0	(注3, 6) 9.5	(注6) SS41
			(注3, 6) 406.4	(注3, 6) 9.5	(注6) SS41

変更前					変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注24)											
原子炉補機冷却設備 B1次系 冷却水クローラ ～ 弁 (3V-5122B) 前合流点	(注22)	95	406.4	9.5	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	95	406.4	9.5	SS41
		0.98									

変更前				変更後								
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
(注24)	(注2)	95	406.4	9.5	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	(注5)	変更なし			
弁 (3V-5122B)	0.98						1.2					
前合流点 ～ B1次系 冷却水クローラ 出口合流点 及び 弁 (3MOV-5125)						原子炉補機冷却設備	(注6)	(注5)	(注3, 6, 7)	(注3, 6)	(注6, 7)	(注6, 7)
原子炉補機冷却設備						変更なし	1.2	95	406.4	9.5	SS41	(注6)
							(注6)	(注5)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
							1.2	95	508.0	9.5	SS41	(注6)
							(注6)	(注5)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
							1.2	95	508.0	9.5	SS41	(注6)
							(注6)	(注5)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
							1.2	95	406.4	9.5	SS41	(注6)

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注26) A1次系冷却水 クーラ出口合流点 ～ レジューサ (20×14)	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41		変更なし	変更なし			
(注26) C1次系冷却水 クーラ出口合流点 ～ レジューサ (20×14)	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし (注5) 1.2	変更なし			
						変更なし	(注5) 1.2	95	(注3,6,7) 508.0	(注3,6,7) 9.5	(注6,7) SS41
							(注5) 1.2	(注3,6) 95	(注3,6) 508.0	(注3,6) 9.5	(注6) SS41
									／	／	／
									355.6	9.5	9.5

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)
(注28)	(注2)	95	(注3)	(注3)	変更なし		
0.98	406.4	9.5	406.4	9.5	(注3, 6, 7)	(注3, 6, 7)	(注6, 7)
406.4	9.5	SS41	変更なし				
406.4	9.5	SS41	変更なし				
323.9	9.5	SS41	変更なし				
95	95	95	変更なし				
406.4	9.5	SS41	変更なし				
406.4	9.5	SS41	変更なし				
—	—	—	変更なし				

原子炉補機冷却設備

弁 (3MOV-5125)
 ~
 格納容器循環
 冷暖房ユニット
 冷却ライン
 レジューサ
 (16×12)

原子炉補機冷却設備

変更なし

変 更 前				変 更 後							
名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材 料
(注31) 原子炉補機冷却設備 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り母管合流点 ～ 弁 (3MOV-5131)	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	(注5) 161	406.4	(注3,6,7) 9.5	(注6,7) SS41
	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41		変更なし	(注5) 161	(注3,6,7) 406.4	(注3,6,7) 9.5	(注6,7) SS41
(注31) 原子炉補機冷却設備 弁 (3MOV-5131) ～ Cヘッド 1次系冷却水 戻り母管合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	(注5) 161	406.4	(注3,6,7) 9.5	(注6,7) SS41
	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41		変更なし	(注5) 161	(注3,6,7) 406.4	(注3,6,7) 9.5	(注6,7) SS41

20

21

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	最高使用温度 (°C)	最高使用圧 (MPa)
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし	
						Bヘッダ1次系冷却水戻り母管合流点 ～ Bヘッダ1次系冷却水タンク連絡配管合流点	(注6) 95
原子炉補機冷却設備						変更なし	

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注33) A、Bヘッド 1次系冷却水 タンク連絡配管 合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし	(注6) 0.98	(注5) 95	(注3, 6, 7) 508.0	(注3, 6, 7) 9.5	(注6, 7) SS41
(注34) A、Bヘッド 1次系冷却水 戻り母管合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし	(注6) 0.98	(注5) 95	(注3, 6, 7) 508.0	(注3, 6, 7) 9.5	(注6, 7) SS41
A1次系冷却水 ポンプ入口分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
D1次系冷却水 ポンプ入口分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	161	変更なし	変更なし	変更なし

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注3,4)									(注3,6)		
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備					
A1次系冷却水 ポンプ入口分岐点						変更なし	(注5) 0.98	(注5) 161	508.0	9.5	(注6) SS41
~									/	/	
D1次系冷却水 ポンプ入口分岐点									508.0	9.5	(注6) SS41
									/	/	
									406.4	9.5	(注6) SS41
									(注3,6)		
									508.0	9.5	(注6)
									/	/	
									/	/	
									406.4	9.5	(注6) SS41

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注36)											
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備					
A、B、C、D 1次系冷却水 ポンプ入口分岐点	(注2) 0.98	95	406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	161	406.4	9.5	変更なし
A、B、C、D 1次系冷却水 ポンプ			-				(注6) 0.98	(注5) 161	(注3、6、7) 406.4	(注3、6、7) 9.5	(注6、7) SS41

25

変更前				変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注36)										
A、B、C、D 1次系冷却水 ポンプ出口 レジューサー (16×12) ～	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5		変更なし	変更なし (注5) 161		変更なし	
原子炉補機冷却設備										
A、B、C、D 1次系冷却水 ポンプ出口合流点						(注8) 0.98	(注3) 161	(注3,6,7) 406.4	(注3,6,7) 9.5	(注6) SS41
								(注3,6)	(注3,6) 9.5	(注6) SS41
									323.9	9.5

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし		変更なし	
	A1次系冷却水 ポンプ出口合流点 ～ D1次系冷却水 ポンプ出口合流点							(注5) 0.98	161	(注3,6) 508.0	(注3,6) 9.5
							(注5) 0.98	161	(注3,6) 508.0	(注3,6) 9.5	(注6) SS41
									406.4	9.5	

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 A、D1次系 冷却水ポンプ 出口合流点 ～ A、C1次系 冷却水クローラ 入口分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	(注5) 161	(注3,6,7) 508.0	(注3,6,7) 9.5	(注6,7) SS41
							0.98	(注5) 161	(注3,6) 508.0	(注3,6) 9.5	(注6) SS41
									(注3,6) 508.0	(注3,6) 9.5	(注6) SS41
										406.4	9.5

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	(注3)	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	
	A1次系冷却水 クローラ入口 分岐点 ～ C1次系冷却水 クローラ入口 分岐点						
	変更なし	変更なし	変更なし (注5) 161	(注3,6,7) 508.0	(注3,6,7) 9.5	SS41	(注6,7)
		(注5) 0.98	161	(注3,6) 508.0	(注3,6) 9.5	SS41	(注6)

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注2)	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	406.4	9.5	変更なし
	0.98						161				
A、B、C1次系冷却水クローラ入口分岐点											
原子炉補機冷却設備						変更なし	(注5) 0.98	(注6) 161	(注3, 6, 7) 406.4	(注3, 6, 7) 9.5	(注6, 7) SS41
母管分岐点	(注2)	95	(注3) 355.6	(注3) 9.5	STPG42				(注3, 6) 508.0	(注3, 6) 9.5	(注6) SS41
A、B余熱除去クローラ											

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	A、Bヘッド 1次系冷却水 タンク連絡配管 合流点 ～ 弁 (3V-5105A、B)	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	
		変更なし					
		(注5) 0.98	(注5) 95	(注3, 6, 7) 114.3	(注3, 6, 7) 6.0	STPT42	(注6, 7)
				(注3, 6) 114.3	(注3, 6) 8.6	STPG42	(注6)

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	材料
(注48) 弁 (3V-5105A、B) ～ 1次系 冷却水タンク	(注2) 0.34	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	変更なし		
	—				(注5) 0.34	(注3,6,7) 114.3	(注3,6,7) 6.0
原子炉補機冷却設備							
(注49) 1次系冷却水 母管分岐点 (A燃料ピット クレーラ行) ～ A燃料 ピットクレーラ	(注2) 0.98	95	(注3) 273.1	(注3) 9.3	変更なし		
原子炉補機冷却設備							

32

変更前		変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料			
原子炉補機冷却設備	(注49)	95	(注3,17)	(注3,17)	(注17)			
			267.4	9.3	STPT38			
			(注3,50)	(注3,50)	(注50)			
			267.4	9.3	STPT370			
1次系冷却水 母管分岐点 (B燃料ピット クォーラ行) ～ B燃料 ピットクォーラ 冷却水 入口配管分岐点	(注2)	95	(注3)	(注3)	(注3)			
			273.1	9.3	STPG42			
			—	—	—			
原子炉補機冷却設備	変更なし (注6)	1.2	267.4	9.3	変更なし (注6,7)			
						(注5)	(注5)	(注6,7)
						273.1	9.3	STPT42
						(注5)	(注5)	(注6)
原子炉補機冷却設備	変更なし	1.2	273.1	15.1	STPG42			
						(注3,6)	(注3,6)	(注6)
						273.1	15.1	STPG42

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料		
原子炉補機冷却設備	(注51)	95	(注3,17)	(注3,17)	変更なし	95	267.4	9.3	STPT38		
			0.98	267.4						9.3	STPT370
			(注2)	267.4						9.3	STPT370
			0.98	273.1						9.3	STPG42
B燃料ピット クレーン戻り配管 合流点 ～ Bへッダ1次系 冷却水戻り母管 合流点	(注5)	95	(注3,17)	(注3,17)	変更なし	95	267.4	9.3	STPT38		
			0.98	267.4						9.3	STPT370
			(注2)	267.4						9.3	STPT370
			0.98	273.1						9.3	STPG42

34

34

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 1次系冷却水 母管分岐点 ～ Bスプレ 余熱除去ポンプ室 冷却房ユニット 冷却ライン 入口配管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	変更なし 原子炉補機冷却設備	変更なし (注5) 1.2	95	88.9 / 88.9	5.5 / 5.5	STPT42 STPT42
							(注3,6,7) 88.9	(注3,6,7) 5.5	(注3,6,7) 88.9	(注3,6,7) 5.5	(注5,7) STPT42
							(注3,6) 88.9	(注3,6) 7.6	(注3,6) 88.9	(注3,6) 7.6	(注6) STPG42
							(注3,6) 88.9	(注3,6) 5.5	(注3,6) 88.9	(注3,6) 5.5	(注6) STPT42

変更前		変更後									
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注58) 1次系冷却水 母管分岐点 ～ A充てん/高圧 注入ポンプ室 冷却房ユニット 冷却ライン分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42			変更なし			
(注58) 1次系冷却水 母管分岐点 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ室 冷却房ユニット 冷却ライン分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	変更なし (注5)	1.2	95	(注3, 5, 7) 114.3	(注3, 5, 7) 6.0	(注3, 5, 7) STPT42
			-			変更なし (注5)	1.2	95	(注3, 6) 114.3	(注3, 6) 8.6	(注6) STPG42

変更前					変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備					
(注58) 1次系冷却水 母管分岐点 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ室 冷暖房ユニット 冷却ライン分岐点			—			変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	114.3 / 114.3 / —	6.0 / 6.0 / —	(注6) STPT42
(注58) 充てん/高圧 注入ポンプ室 冷暖房ユニット 冷却ライン分岐点 ～ レジューサ (4×2)	(注2) 0.98	95	114.3	6.0	STPG42			—			(注19)

36

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)
原子炉補機冷却設備	(注60) Bスプレ	(注2) 0.98	(注3) 60.3	(注3) 3.9	変更なし	変更なし	1.2
	余熱除去ポンプ室			STPG42			
原子炉補機冷却設備	冷却房ユニット	95	-	-	変更なし	変更なし	95
	冷却ライン						
原子炉補機冷却設備	入口配管分岐点	-	-	-	変更なし	変更なし	95
	~						
原子炉補機冷却設備	B余熱除去ポンプ	-	-	-	変更なし	変更なし	95
	冷却ライン分岐点						
				(注3, 6, 7) (差し込み部の内径) 61.1 (注6, 7) (最小) 6.0 (注3) (S25C相当) (6.0)			

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備					
Bスプレ						変更なし					
余熱除去ポンプ室											
冷暖房ユニット											
冷却ライン											
入口配管分岐点											
~											
B余熱除去ポンプ											
冷却ライン分岐点											

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備							
	(注60) Bスプレ 余熱除去ポンプ室 冷却房ユニット 冷却ライン 入口配管分岐点 ~ B余熱除去ポンプ 冷却ライン分岐点			—			
	原子炉補機冷却設備	(注5) 1.2	95	(注3, 6) 88.9 — (差し込み 部の内径) 61.1	(注6) 4.8 — (最小) 6.0 (注3) (5.5 — 6.0)	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注61)				(注6,7)	(注6,7)	(注6,7) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
	B余熱除去ポンプ 冷却ライン分岐点 ~ B余熱除去ポンプ				(注3,6,7) (差し込み 部の内径) 48.7	(注3) 5.5 (5.5)	
原子炉補機冷却設備					(注3,6)	(注6)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
					(注5)		
					1.2		
		95					
					(穴径) 15.4	(最小) 4.0	
					15.4	(最小) 4.0	
					(穴径) 15.4	(注3) (4.0)	
						4.0	

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注61)					原子炉補機冷却設備			(注3, 6)	(注6)	(注6)
B余熱除去ポンプ 冷却ライン分岐点 ~ B余熱除去ポンプ			-			変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	(穴径) 40.5	(最小) 5.5	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

変更前						変更後					
名称	最高圧	最高温度	外径	径厚	材料	名称	最高圧	最高温度	外径	径厚	材料
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	(mm)		(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	(mm)
原子炉補機冷却設備	(注61)					原子炉補機冷却設備					
	B余熱除去ポンプ 冷却ライン分岐点 ~ B余熱除去ポンプ			—		変更なし	(注6) 1.2	(注6) 95	(注6) 48.7 — —	(注6) 5.5 — — —	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注6)	B余熱除去ポンプ ～ 出口配管分岐点	-			原子炉補機冷却設備	1.2	95	48.3	3.7	STPT410
						変更なし			(差し込み部の内径)	4.0	

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注6)					原子炉補機冷却設備					(注6,7) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
B余熱除去ポンプ ～ 出口配管分岐点						変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	(注3,6,7) (差し込み部の内径) 48.7	(注6,7) (最小) 5.5 (注3) (5.5)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
									(注3,6)	(注3,6) (最小) 4.0 /	(注3) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
											(注3) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
											(注3) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
											(注3) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	B余熱除去ポンプ ～ 出口配管分岐点	(注6)					(注6)
							(注6)
原子炉補機冷却設備							
	変更なし	(注5) 1.2	95	(注5) 48.7	(注6) 5.5	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	(注6)
				(差し込み 部の内径)	(差し込み 部の内径)		
				48.7	48.7		

39

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし	(注5) 1.2	95	(注3, 6, 7) 323.9	(注3, 6, 7) 9.5	変更なし
格納容器循環 冷却房ユニット レジューサ (16×12) ～ 弁 (3MOV-5160A)	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	(注3, 6, 7) 323.9	(注3, 6, 7) 9.5	(注6, 7) STPT42
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし	(注5) 1.2	(注5) 138	変更なし		
格納容器貫通部 PEN#256	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし	(注5) 1.2	(注5) 138	変更なし		

40

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 格納容器貫通部 PEN#256 A格納容器循環 冷却房ユニット 冷却ライン 入口分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	(注3,6,7) 323.9	(注3) 138	(注3,6,7) 323.9	(注3,6,7) 9.5	(注6,7) STPT42
							(注3,6) 273.1	(注6) 1.2	(注3,6) 273.1	(注3,6) 9.3	(注6) STPT42
							(注3,6) 168.3		(注3,6) 273.1	(注3,6) 9.3	(注6) STPT42

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注68) A格納容器循環 冷却房ユニット 冷却ライン 入口分岐点 ～ レジューサ (10×6)	(注2) 0.98	95	(注3) 273.1	(注3) 9.3	STPG42		—	(注19) —			
(注69) A格納容器循環 冷却房ユニット 冷却ライン 入口分岐点 ～ レジューサ (6×4)	(注2) 0.98	95	(注3) 168.3	(注3) 7.1	STPG42	変更なし	1.2	138	(注6) 168.3	(注5) 7.1	(注6,7) STPT42
原子炉補機冷却設備											
42											

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注59)									(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
A格納容器循環 冷暖房ユニット 冷却ライン 入口分岐点 ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット行 レジューサ (6×4)						原子炉補機冷却設備	1.2	138	168.3	7.1	STPT42
原子炉補機冷却設備						変更なし			168.3	7.1	STPT42
									(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
									168.3	7.1	STPT42
									114.3	6.0	
									(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
									168.3	7.1	STPT42
									168.3	7.1	STPT42
									114.3	6.0	

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備							
(注69) A格納容器循環 冷却房ユニット 冷却ライン 入口分岐点 ~ A格納容器循環 冷却房ユニット行 レジューサ (6×4)			—		168.3 / 168.3 / —	7.1 / 7.1 / —	(注6) STPT42
(注70) レジューサ (10×6) ~ B格納容器循環 冷却房ユニット行 レジューサ (6×4)	(注12) 0.98	95	(注3) 168.3	(注3) 7.1			(注19) —

42

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 A格納容器循環 冷却房ユニット行 レジュューサ (6×4) 及び分岐点 ～ レジュューサ (4×2)	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	(注3) 1.2	138	114.3	6.0	STPT42
									(注3, 6) 114.3	(注3, 6) 5.2	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
									(差し込み 部の内径) 61.1	(注3) 6.0	

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3, 17) 60.3	(注3, 17) 3.9	(注17) STPG42	変更なし	(注6) 1.2	(注6) 138	変更なし		
			(注3) 73.0	(注3) 5.2	STPG42		(注6) 1.2	(注6) 138	(注3, 6) (差し込み部の内径) 61.1	(注6) 7.3	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C相当)
レジャーサ (4×2) 及び分岐点 ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット			—			原子炉補機冷却設備					

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	レジャーサ (4×2) 及び分岐点 ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット	(注72)			(注3,6)		
					(注6)		
	変更なし	(注5) 1.2	(注5) 138	(差し込み 部の内径) 61.1	(注6) (最小) 6.0	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	
				(差し込み 部の内径) 61.1	(注3) (6.0)		

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注76) レジュューサ (4×2) ～	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	変更なし	1.2	161	(注5) 114.3	(注3,6,7) 6.0	(注6,7) STPT42
A格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り母管合流点											
(注75) B、C格納容器循環 冷暖房ユニット レジュューサ (4×2) ～ レジュューサ (6×4) 及び合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	原子炉補機冷却設備		—			
原子炉補機冷却設備											

45

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 168.3	(注3) 7.1	STPG42	原子炉補機冷却設備	1.2	161	168.3	7.1	STPT42
	A格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り母管合流点 ～ A、B、C 格納容器循環 冷暖房ユニット 冷却水戻り合流点										
変更なし											
(注6)											
(注3,6)											
(注3,6,7)											

変更前						変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注16) A格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り母管合流点 ～ A、B、C 格納容器循環 冷暖房ユニット 冷却水戻り合流点						原子炉補機冷却設備					
								(注3)			(注6)
									168.3	7.1	STPT42
									—	—	—
									—	—	—
						変更なし	1.2	161	168.3	7.1	STPT42
									(注3,6)	(注3,6)	(注6)
									168.3	7.1	STPT42
									—	—	—
									114.3	6.0	

46

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備	(注5) 1.2	(注5) 161	(注3,6,7) 323.9	(注3,6,7) 9.5	変更なし
(注7) A、B、C 格納容器循環 冷却房ユニット 冷却水戻り合流点 格納容器貫通部 PEN#257						変更なし			(注3,6,7) 323.9	(注3,6,7) 9.5	(注6,7) STPT42

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注7)	0.98	323.9	(注3)	STPG42	変更なし	1.2	161	323.9	9.5	変更なし
	格納容器貫通部 PEN#257 ～ 弁 (3MOV-5160B)			(注3)							
原子炉補機冷却設備	(注7)	0.98	219.1	(注3, 17)	STPG42	変更なし	1.2	161	323.9	9.5	変更なし
	格納容器循環 冷暖房ユニット 冷却水出口配管 分岐点			(注2)							

48

変更前				変更後								
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備 弁 (3MOV-5160B) ～ 格納容器循環 冷却房ユニット 冷却水出口配管 分岐点	(注7)					原子炉補機冷却設備	(注3, 6, 7)	(注3, 6, 7)	(注3, 6, 7)	(注3, 6, 7)	(注6, 7)	(注6, 7)
							323.9	9.5	323.9	9.5	STPT42	STPT42
原子炉補機冷却設備			-			変更なし	(注3, 6)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)	(注6)
							323.9	9.5	323.9	9.5	STPT42	STPT42
原子炉補機冷却設備						変更なし	1.2	161	219.1	8.2		
							(注3)	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)
原子炉補機冷却設備						変更なし	323.9	9.5	323.9	9.5	9.5	STPT370
							323.9	9.5	323.9	9.5	9.5	STPT370
原子炉補機冷却設備						変更なし	165.2	7.1	165.2	7.1	7.1	7.1
							165.2	7.1	165.2	7.1	7.1	7.1

変更前				変更後								
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
(注7) 格納容器循環 冷暖房ユニット 冷却水出口配管 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし	(注5) 0.98	(注5) 161	(注3, 6, 7) 323.9	(注3, 6, 7) 9.5	変更なし	
原子炉補機冷却設備	原子炉補機冷却設備											
格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り母管合流点	-											
(注78) A充てん/高圧 注入ポンプ室 冷暖房ユニット 冷却ライン分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	変更なし						(注6, 7) STPT42
原子炉補機冷却設備	原子炉補機冷却設備											
B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点	変更なし											

50

変更前				変更後					
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料		
原子炉補機冷却設備	B充てん/高圧 注入ポンプ室 冷暖房ユニット 冷却ライン分岐点 ~ B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42			
		変更なし							
原子炉補機冷却設備	変更なし	1.2	95	88.9	5.5	STPT42	(注6.7) 88.9		
							(注3,6) 114.3	(注3,6) 6.0	(注6) STPT42
							(注3,6) 88.9	(注3,6) 5.5	(注6) STPT42

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注78) A充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ～ A充てん/高圧 注入ポンプ入口	(注2) 0.98	95	(注3) 48.3	(注3) 3.7	STPG42		変更なし	変更なし			変更なし
(注79) B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ入口	(注2) 0.98	95	(注3) 48.3	(注3) 3.7	STPG42	変更なし	変更なし	1.2	(注3, 6, 7) (差し込み部の内径) 48.7	(注6, 7) (最小) 5.5	(注6, 7) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	(注79)				(注3, 6)		
	B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ入口	(注5) 1.2	(注5) 95	(注5) —	(注6) (最小) 5.5 — — (注3) (5.5) — — 5.5	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	
原子炉補機冷却設備				変更なし			

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注7D)					原子炉補機冷却設備					
B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ入口			-			変更なし	(注5) 1.2	(注6) 95	(注3,6) 88.9 / (差し込み 部の内径) 48.7	(注6) 4.8 / (最小) 5.5 (注3) (5.5 / 5.5)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注80) 1次系冷却水供給母管分岐点 ～ 冷水供給ライン合流点 (Aヘッド側)	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42		変更なし	変更なし			
(注80) 1次系冷却水供給母管分岐点 ～ 冷水供給ライン合流点 (Bヘッド側)	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	変更なし	1.2	95	(注3, 6, 7) 88.9	(注3, 6, 7) 5.5	(注6, 7) STPT42
						変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	(注3, 6) 88.9	(注3, 6) 7.6	(注6) STPG42

変更前					変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注60) 1次系冷却水供給母管分岐点 ～ 冷水供給ライン合流点 (Bヘッド側)			—	—		変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	(注3,6) 88.9	(注3,6) 5.5	(注6) STPT42
(注61) A充てん/高圧注入ポンプ出口 ～ A充てん/高圧注入ポンプ出口合流点	(注2) 0.98	95	48.3	(注3) 3.7	STPG42						変更なし

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 48.3	(注3) 3.7	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし (注5) 1.2	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
	(注1) B充てん/高圧 注入ポンプ出口 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ 出口合流点							(注5) 1.2	(注9) 95	(注1,5,7) (差し込み部の内径) 48.7	(注6,7) (最小) 5.5

変更前		変更後				
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備	(注31)				(注3、6)	(注6)
	B充てん/高圧 注入ポンプ出口 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ 出口合流点	(注5) 1.2	(注5) 95	(差し込み 部の内径) 48.7	(最小) 5.5	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
	変更なし			(差し込み 部の内径) 48.7	(注9) (5.5)	

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注B1) 原子炉補機冷却設備 B充てん/高圧 注入ポンプ出口 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ 出口合流点			—			原子炉補機冷却設備 変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	(注3,6) 88.9 — (差し込み部の内径) 48.7	(注6) 4.8 — (最小) 5.5 (注3) (5.5 — 5.5)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし (注5) 1.2	95 (注6)	88.9 (注3, 6, 7)	5.5 (注3)	変更なし
	B充てん/高圧 注入ポンプ 出口合流点 ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 出口ライン分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5		STPG42				(注3, 6, 7) 88.9
55											

変更前				変更後								
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備	(注83)	(注2)	(注3)	(注3)	STPG42	変更なし	変更なし	(注6)	変更なし			
	冷水供給ライン 合流点 (Bヘッド側)	0.98	95	88.9	5.5		1.2	(注5)	(注5)	(注3, 6, 7)	5.5	STPT42
原子炉補機冷却設備	B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 (油冷却器側)	-	-	-	-	変更なし	(注5)	(注5)	(注3, 6)	5.5	(注6)	STPT42
							1.2	(注5)	(注3, 6)	88.9	5.5	88.9
原子炉補機冷却設備	冷水供給ライン 合流点 (Bヘッド側)	(注2)	(注3)	(注3)	STPG42	変更なし	-	-	-	-	-	-
原子炉補機冷却設備	Bヘッド供給側 レジューサ (4×3)	(注83)	(注2)	(注3)	STPG42	変更なし	-	-	-	-	-	-

56

変更前				変更後								
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし	(注5) 1.2	(注5)95	(注3, 6, 7) 88.9	(注3, 6, 7) 5.5	(注6, 7) STPT42
							変更なし	変更なし				

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注8) 原子炉補機冷却設備 B充てん/高圧 注入ポンプ 出口合流点 (油冷却器側) ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 出口ライン分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	(注3) 88.9 / / 60.5	(注3) 5.5 / / 3.9	STPT410 STPT42 (注6)

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	(注17) ラプチャディスク への分岐点 ～ ラプチャディスク	0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12.0	SS41	
	変更なし	(注5) 0.7	(注6) 40	(注3, 6, 7) 609.6	(注3, 6, 7) 12.0	(注5, 7) SS41	
	変更なし						
原子炉補機冷却設備	(注17) A、Bディーゼル 発電機 潤滑油冷却器 ～ 清水冷却器	0.7	40	(注3) 139.8	(注3) 6.6	STPG42	

58

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注16) A充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 (油冷却器側)	0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42		変更なし	変更なし			
A充てん/高圧 注入ポンプ入口 (油冷却器側)											変更なし
(注17) B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 (油冷却器側)	0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42		変更なし	変更なし	(注3, 6, 7) (差し込み部の内径) 61.1	(注6, 7) (最小) 6.0	(注6, 7) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
B充てん/高圧 注入ポンプ入口 (油冷却器側)										(注3)	(6.0)

変更前		変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注17)			(注3, 6)	(注6)	(注6)
B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 (油冷却器側)			73.0 / (差し込み部の内径)	4.5 / (最小) 6.0 (注3)	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
原子炉補機冷却設備			61.1	(5.2 / 6.0)	
~		(注5)			
B充てん/高圧 注入ポンプ入口 (油冷却器側)	1.2	95	88.9 / (差し込み部の内径)	4.8 / (最小) 6.0 (注3)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
原子炉補機冷却設備			61.1	(5.5 / 6.0)	
					変更なし

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注17) B充てん/高圧 注入ポンプ出口 (油冷却器側) ～ B充てん/高圧 注入ポンプ出口 合流点 (油冷却器側)						原子炉補機冷却設備			(注3, 6, 7) (差し込み部の内径) 61.1	(注6, 7) (注3) 6.0 (6.0)	(注6, 7) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
原子炉補機冷却設備			—			変更なし	(注5) 1.2	(注5) 95	(注3, 6) 73.0 — (差し込み部の内径) 61.1	(注6) 4.5 — (注6) 6.0 (注3) (5.2 — 6.0)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

60

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注17) B充てん/高圧 注入ポンプ出口 (油冷却器側) ～ B充てん/高圧 注入ポンプ出口 合流点 (油冷却器側)						変更なし	(注6) 1.2	(注6) 95	88.9 / (最小) 6.0 (差し込み部の内径) 61.1	(注6) 4.8 / (最小) 6.0 (注3) (5.5 / 6.0)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
原子炉補機冷却設備											
(注17) C充てん/高圧 注入ポンプ出口 (油冷却器側) ～ C充てん/高圧 注入ポンプ 出口配管分岐点 (油冷却器側)	0.98	95	60.3	3.9		変更なし	変更なし		60.3	3.9	(注3) STPT370

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備	大容量ポンプ	1.2 <small>(注5)</small>	40 <small>(注6)</small>	216.3 <small>(注3)</small>	8.2 <small>(注3, 84)</small>	8.2	STPT370
	海水供給接続口 ～ B内部スプレ クローラ 入口配管合流点		95 <small>(注6)</small>				

61

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備							
窒素マニホールド (1次系冷却水 タンク加圧用) 既設窒素供給 ラインとの合流点 ~ オリフイス フランジ							
				(注5,6) 27.2	(注3,6) 2.9	(注6) STPT38	
		(注5) 0.98	(注6) 95	(注3) 27.2	(注3) 2.9	(注3) STPT370	
				(注3) 27.2	(注3) 2.9		
				(注3) 27.2	(注3) 2.9		

変更前				変更後				
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	径厚	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	オリフェイス フランジ ～ 1次系冷却水 タンク	—				(注3,6)	(注3,6)	(注6)
						27.2	2.9	STPT38
						(注3,6)	(注3,6)	(注6)
		95	88.9	5.5	STPG42			
	0.34	(注6)	(注3,6,7)	(注3,6,7)	(注6,7)	(差し込み 部の内径)	(注6,7)	S25C
			27.7	4.3				
			(注3,6)	(注3,6)	(注6)	(差し込み 部の内径)	(注6)	S25C
			27.7	5.3				

64

変更前					変更後																			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材											
							原子炉補機冷却設備																	
							出口配管分岐点 ～ B余熱除去ポンプ 海水排出ライン 接続用座 (上流側)							(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	0.7	95	48.6	3.7
														(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	(注5)	1.2	95	48.6	3.7	STPT370

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備							
	B充てん/ 高圧注入ポンプ 出口ライン分岐点 及び	(注5)	(注5)	48.6	(注3) 3.7	STPT370	
	B充てん/ 高圧注入ポンプ 油冷却器	0	95	(注3) 60.5	(注3,84) 3.9	STPT370	
	出口ライン分岐点 ～ B充てん/ 高圧注入ポンプ 海水排出ライン 接続用座 (上流側) 及び	(注5)	(注5)	48.6	(注3) 3.7	STPT370	
	B充てん/ 高圧注入ポンプ 油冷却器海水 排出ライン 接続用座 (上流側)	1.2	95	(注3) 60.5	(注3,84) 3.9	STPT370	

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	さ材	料
原子炉補機冷却設備							
	B充てん/ 高压注入ポンプ 海水排出ライン 接続用座 (下流側) 及び B充てん/ 高压注入ポンプ 油冷却器海水 排出ライン 接続用座 (下流側) ～ 屋外放出端	(注5) 0	(注6) 95	(注3) 60.5 114.3 60.5 60.5 60.5	(注3) 3.9 6.0 3.9 3.9 3.9	STPT370 STPT370 STPT410	

変更前					変更後								
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材
原子炉補機冷却設備							B1次系冷却水 クローラ入口 配管分岐点 (海水側) ～ 弁 (3V-5122B) 前合流点	1.2	40	216.3	8.2	STPT370	(注3)
													(注3)
								95	216.3	8.2	STPT370	(注3, 84)	
												(注3, 84)	

変更前					変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備										
					B余熱除去ポンプ 海水排出ライン 接続用座 (下流側)	(注5) 0.7	(注5) 40	(注3) 48.6	(注3) 3.7	STPT370
					～ A海水戻り母管 合流点					
					1次系冷却水 タンク加圧用 窒素供給用 マニホールド 接続用座 (下流側)	(注5) 0.98	(注5) 95	(注3) 27.2	(注3,84) 2.9	STPT370
					～ 窒素マニホールド (1次系冷却水 タンク加圧用) 既設窒素供給 ラインとの合流点					

68

69

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 重大事故等時における使用時の値
- (注6) 本設備は既存の設備である。
- (注7) エルボを示す。
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー中間建屋入口～30B管と36B管との分岐点」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「直管JWWA G105 異形管JWWA G106」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー30B管と36B管との分岐点～弁 (3-6509B)」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー30B管と36B管との分岐点～B1次系冷却水クーラー入口分岐点」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～A、B1次系冷却水クーラー」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「C1次系冷却水クーラー入口分岐点～レジェューサ (30×24)」及び「レジェューサ (30×24) ～C1次系冷却水クーラー」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C1次系冷却水クーラー～海水母管合流点」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B1次系冷却水クーラー出口合流点～A、Bヘッダーフランジ (30×28)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジェューサ (10×8)」と記載
- (注17) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電装置入口連絡管」と記載
- (注19) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (10×8) ～ディーゼル発電装置」と記載
- (注21) STPG42同等材料 (STPG410) への取替えを行う
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電装置～レジェューサ (12×8)」と記載

- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～チラーユニット出口合流点」及び「合流点～海水母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C1次系冷却クローラ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却クローラ出口連絡管」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッド：テイ (20×20×16) ～レジュューサ (20×14)」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (20×14) ～内部スプレクローラ」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「Cヘッド：テイ (16×16×16) ～レジュューサ (16×12)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (16×12) ～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注30) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「Cヘッド：レジュューサ (16×12) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッド：内部スプレクローラ～レジュューサ (20×14)」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッド：レジュューサ (20×14) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「テイ (20×20×16) ～A、B、C、D1次系冷却水ポンプ」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジュューサ (16×12) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、D1次系冷却水ポンプ出口テイ (20×20×16) ～A、C1次系冷却クローラ入口テイ (20×20×16)」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却クローラ入口連絡管」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「テイ (20×20×16) ～A、B、C1次系冷却クローラ」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～A、B余熱除去クローラ (RH-2)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B余熱除去クローラ (RH-2) ～戻母管合流点」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～A、B、C冷却材ポンプへの分岐点」と記載

- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C冷却材ポンプからの合流点～弁 (3-FCV-1241)」と記載
- (注45) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
なお、記載内容は、設計図書による。
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C冷却材ポンプからの合流点～レジューサ (8×6)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (3-5I05A、B)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-5I05A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B1次系機器冷却水母管分岐点～燃料ピットクローラ」と記載
- (注50) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクローラ～A、B1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却水母管分岐点～余剰抽出水クローラ」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クローラ～1次系機器冷却水戻り母管」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～IA-1A、IA-1B計器用空気圧縮機パッケージ入口レジューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「IA-1A、IA-1B計器用空気圧縮機パッケージ出口レジューサ (2×1 1/2) ～1次系機器戻母管」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプロペポンプ室空調装置入口レジューサ (3×2)」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点およびレジューサ (3×2)」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (4×2)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプロペポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジューサ (2×1 1/2)」と記載

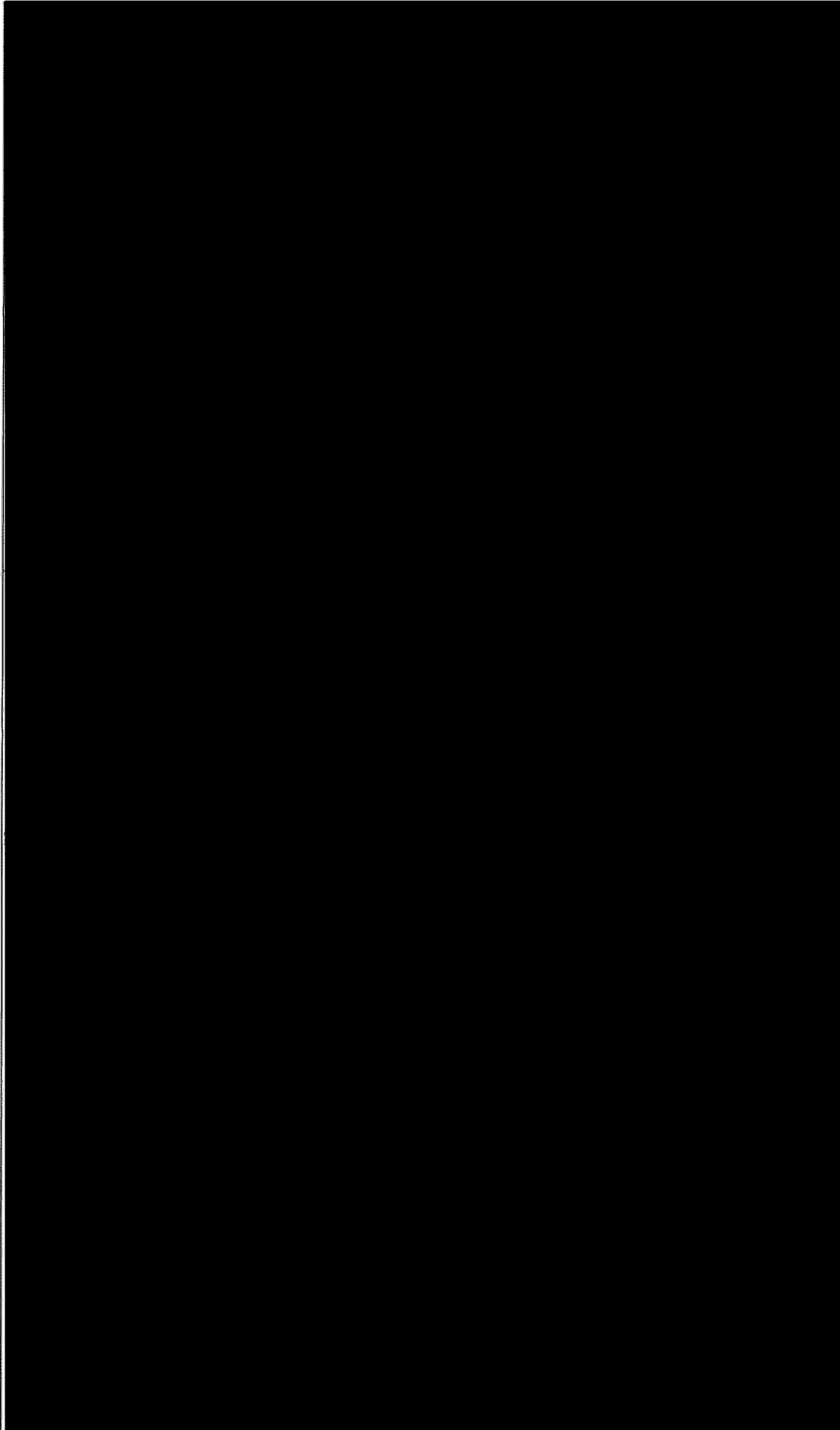
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ入口レギュレーサ (1 1/2×1/2)」と記載
- と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レギュレーサ (1×1/2)」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レギュレーサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却戻ライン合流点」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2×1 1/2) ～レギュレーサ (3×2)」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レギュレーサ (12×10)」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (12×10) ～レギュレーサ (10×6)」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レギュレーサ (6×4)」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (10×6) ～レギュレーサ (6×4)」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (6×4) および分岐点～レギュレーサ (4×2)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注73) 当該箇所については、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レギュレーサ (4×2) および合流点」と記載
- (注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×2) ～レギュレーサ (6×4) および合流点」と記載
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (6×4) ～合流点」及び「VS-39A戻り管～合流点」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (12×10) ～1次系機器冷却水戻り管合流点」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～ポンプ入口」と記載
- (注80) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷水ラインとの連絡管」と記載
- (注81) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ～出口合流点」と記載

- (注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置戻ライン合流点」と記載
- (注83) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×3) ～レジュューサ (4×3)」と記載
- (注84) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

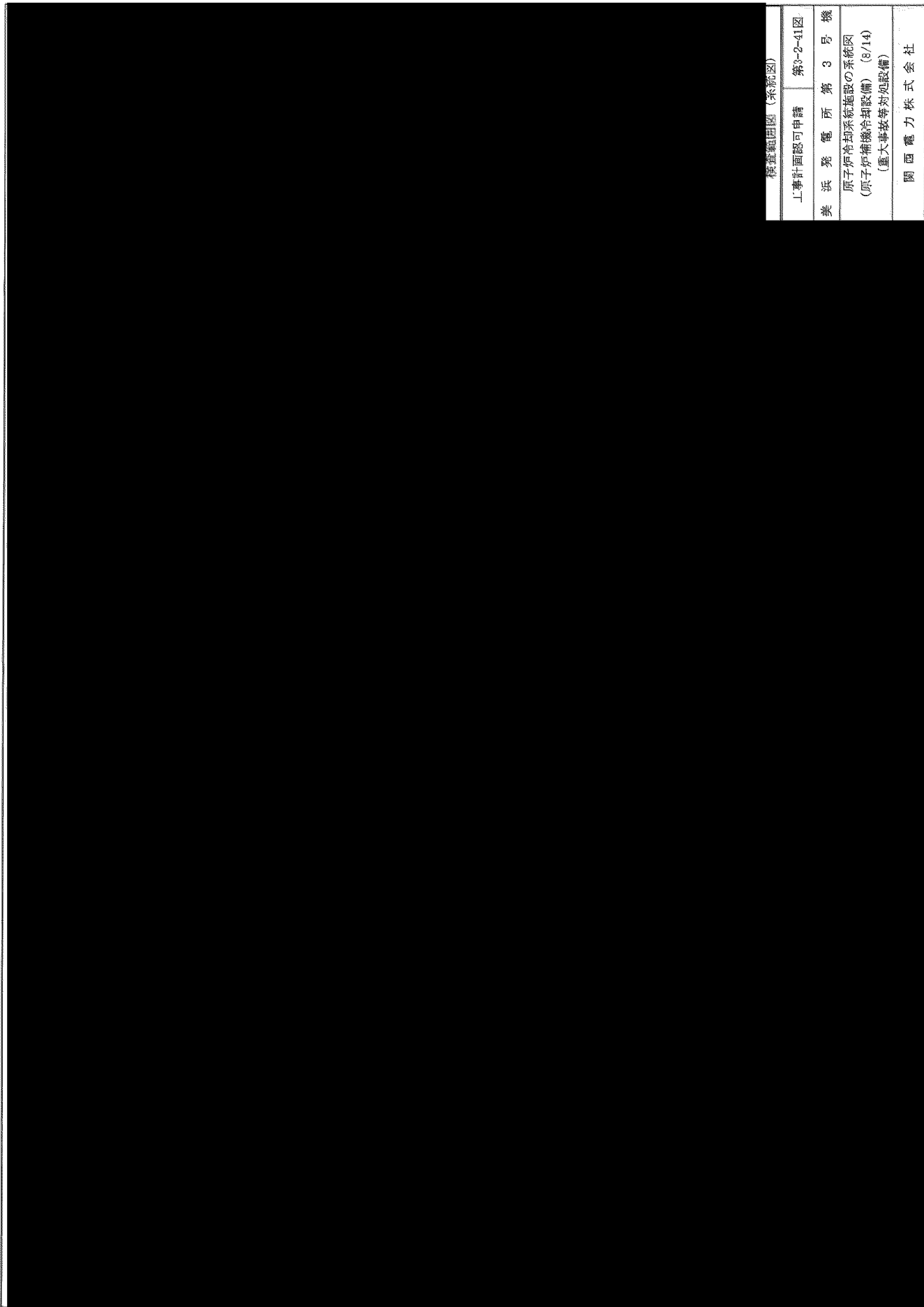


検査範囲図 (系統図)	第3-2-38図
上事計画認可申請	美浜発電所第3号機
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備) (2/14) (重大事故等対応設備)	
関西電力株式会社	

上野計画認可申請	第3-2-37図
美浜発電所	第3号機
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機給水設備) (4/14) (重大事象等対処設備)	
関西電力株式会社	



検査範囲図 (系統図)	
上専計画認可申請	第3-2-36図
美浜発電所第3号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉備置冷却設備) (6/14) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	



検査範囲図（系統図）	
上事計画認可申請	第3-2-41図
美浜発電所第3号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備) (8/14) (重大事故等対応設備)	
関西電力株式会社	





検査範囲図 (系統図)	
工事計画認可申請	第3-2-43図
美浜発電所 第3号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機給水設備) (10/14) (重大事故等対応設備)	
関西電力株式会社	

工事計画認可申請	第3-2-45図
美浜発電所 第3号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備) (12/14) (重大事故等対応設備)	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-05

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月6日	良	森田 寛二 	ボイラー・タービン 主任技術者 	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 8月 6日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 8月 6日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 8月 6日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 ※1 A格納容器循環冷暖房ユニット～レジューサ（4×2）及び合流点 格納容器循環冷暖房ユニット冷却水出口配管分岐点～屋外放出端			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0218 ※1：別紙127～135参照			

設 備 概 要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあっては、次の事項

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

		変 更 前				変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備	(注74)					原子炉補機冷却設備					
A格納容器循環 冷暖房ユニット レギュレーサ (4×2) 及び合流点						変更なし	(注5)	161	(注3,6,7) (差し込み 部の外径) 61.1	(注6,7) (最小) 6.1	(注6,7) S25C
							1.2		(注3,6,7) (差し込み 部の外径) 61.1	(注6) (最小) 7.3	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

1

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却設備											
(注74) A格納容器循環 冷暖房ユニット ～ レジューサ (4×2) 及び合流点			—			変更なし	(注5) 1.2	(注5) 161	(注3) 114.3 ／ (差し込み 部の内径) 61.1	(注6) 5.2 ／ (最小) 6.0 ／ (6.0 ／ 6.0)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
(注74) B、C格納容器循環 冷暖房ユニット ～ レジューサ (4×2) 及び合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 73.0	(注3) 5.2				(注9) —			
原子炉補機冷却設備											

1

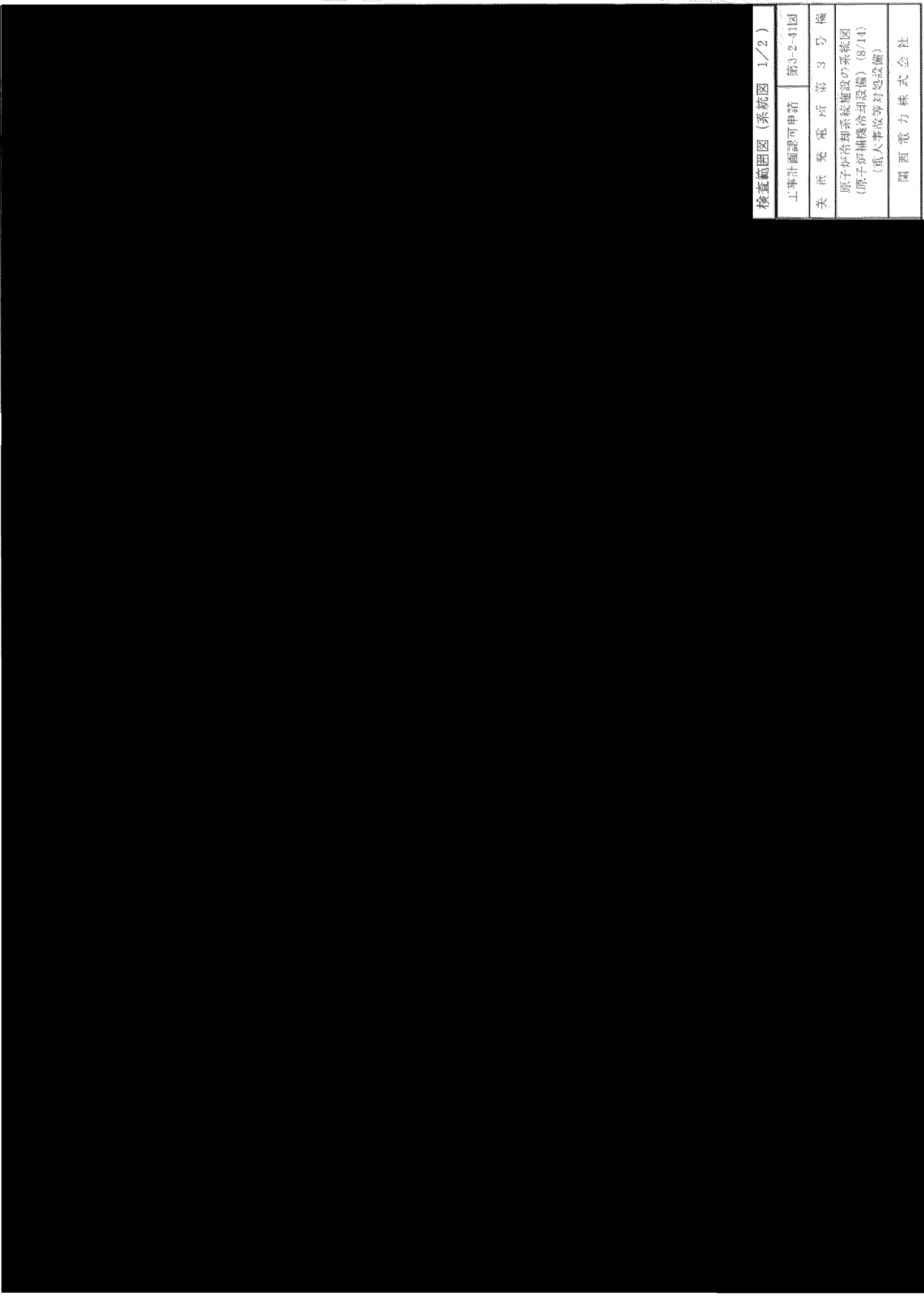
変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称
原子炉補機冷却設備	—	—	—	—	—	—	格納容器循環
							冷暖房ユニット
							冷却水出口配管 分岐点
							～ 屋外放出端
							最高使用圧 (MPa)
							最高使用温度 (°C)
							外径 (mm)
							径厚 (mm)
							厚さ (mm)
							材料
							最高使用圧 (MPa)
							最高使用温度 (°C)
							外径 (mm)
							径厚 (mm)
							厚さ (mm)
							材料
							最高使用圧 (MPa)
							最高使用温度 (°C)
							外径 (mm)
							径厚 (mm)
							厚さ (mm)
							材料

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 重大事故等時における使用時の値
- (注6) 本設備は既存の設備である。
- (注7) エルボを示す。
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー中間建屋入口～30B管と36B管との分岐点」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「直管JWWA G105 異形管JWWA G106」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー30B管と36B管との分岐点～弁 (3-6509B)」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー30B管と36B管との分岐点～B1次系冷却水クーラ入口分岐点」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～A、B1次系冷却水クーラ」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「C1次系冷却水クーラ入口分岐点～レジェューサ (30×24)」及び「レジェューサ (30×24) ～C1次系冷却水クーラ」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C1次系冷却水クーラ～海水母管合流点」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B1次系冷却水クーラ出口合流点～A、Bヘッダーフランジ (30×28)」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジェューサ (10×8)」と記載
- (注17) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電装置入口連絡管」と記載
- (注19) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (10×8) ～ディーゼル発電装置」と記載
- (注21) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電装置～レジェューサ (12×8)」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×8) ～チラーユニット出口合流点」及び「合流点～海水母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C1次系冷却水クーラ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダティ：(20×20×16) ～レジェューサ (20×14)」と記載

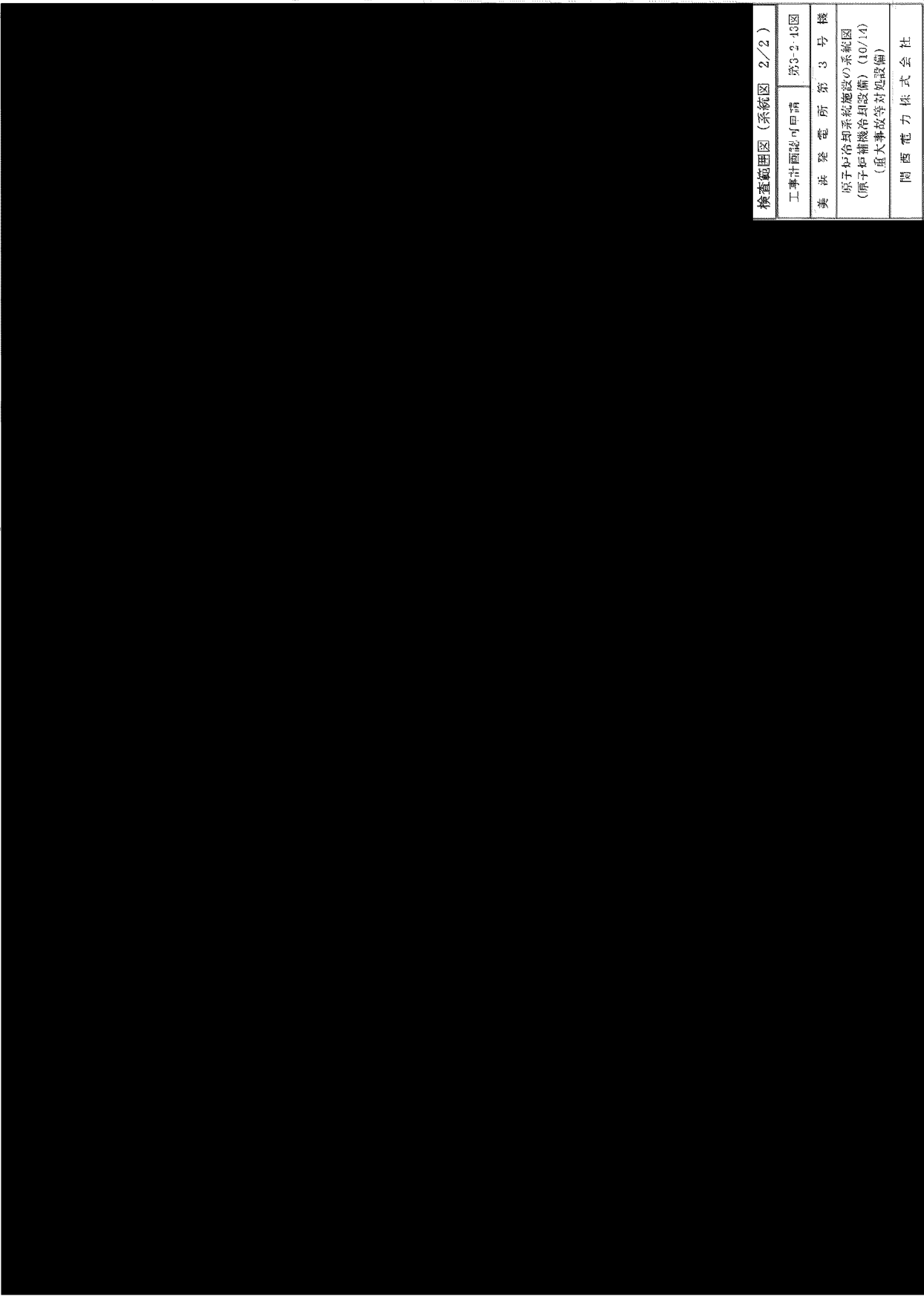
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (20×14) ～内部スプレクター」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「Cヘッド; ティ (16×16×16) ～レジェューサ (16×12)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (16×12) ～レジェューサ (12×10)」と記載
- (注30) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「Cヘッド; レジェューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A, Bヘッド; 内部スプレクター～レジェューサ (20×14)」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A, Bヘッド; レジェューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～A, B, C, D 1次系冷却水ポンプ」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジェューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A, D 1次系冷却水ポンプ出口ティ (20×20×16) ～A, C 1次系冷却水クラー入口ティ (20×20×16)」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クラー入口連絡管」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～A, B, C 1次系冷却水クラー」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～A, B余熱除去クラー (RH-2)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A, B余熱除去クラー (RH-2) ～戻母管合流点」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～A, B, C冷却材ポンプへの分岐点」と記載
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A, B, C冷却材ポンプからの合流点～弁 (3-FCV-1241)」と記載
- (注45) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上の厚さのものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A, B, C冷却材ポンプからの合流点～レジェューサ (8×6)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (3-5105A, B)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (3-5105A, B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A, B 1次系機器冷却水母管分岐点～燃料ピットクラー」と記載
- (注50) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクラー～A, B 1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載

- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却水母管分岐点～余剰抽水クローラ」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽水クローラ～1次系機器冷却水戻り母管」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～IA-1A、IA-1B計器用空圧縮機パッケージ入口レジェューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「IA-1A、IA-1B計器用空圧縮機パッケージ出口レジェューサ (2×1 1/2) ～1次系機器戻り母管」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジェューサ (3×2)」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点およびレジェューサ (3×2)」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジェューサ (4×2)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジェューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ分岐点～余熱除去ポンプ入口レジェューサ (1 1/2×1/2)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジェューサ (1×1/2)」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジェューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却ライン合流点」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) ～レジェューサ (3×2)」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジェューサ (12×10)」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×10) ～レジェューサ (10×6)」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジェューサ (6×4)」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (10×6) ～レジェューサ (6×4)」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (6×4) および分岐点～レジェューサ (4×2)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注73) 当該箇所については、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジェューサ (4×2) および合流点」と記載
- (注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) ～レジェューサ (6×4) および合流点」と記載

- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (6×4) ～合流点」及び「VS-39A戻り管～合流点」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×10) ～1次系機器冷却水戻り管合流点」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～ポンプ入口」と記載
- (注80) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷水ラインとの連絡管」と記載
- (注81) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ～出口合流点」と記載
- (注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置戻りライン合流点」と記載
- (注83) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×3) ～レジェューサ (4×3)」と記載
- (注84) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。



検査範囲図 (系統図 1/2)	
工事計画認可申請	第3-2-41回
発送発電所第3号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉機械冷却設備) (8/14) (重大事故等対応設備)	
関西電力株式会社	



検査範囲図 (系統図 2/2)	
工事計画図認可申請	第3-2-13図
美浜発電所 第3号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備) (10/14) (重大事故等対応設備)	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号：I-05

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月2日	良	平沢 淳 [Redacted]	ボイラー・タービン 主任技術者 [Redacted]	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和 2 年 8 月 21 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 8月 21日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	⊙・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	⊙・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	⊙・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・⊖	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05

検査年月日：令和2年 8月 21日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 A1、A2 海水ストレーナ海水供給接続口～A1、A2 海水ストレーナ ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0505 ・目視で確認した範囲： ※1：別添1参照			

設 備 概 要

原子炉冷却系統施設

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変 更 前					変 更 後							
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
原子炉補機冷却設備						A1、A2 海水ストレーナ 海水供給接続口 ～ A1、A2 海水ストレーナ	1.2 (注5)	40 (注5)	(注3)	267.4	(注3, 84)	STPT370
									(注3)	267.4	(注3)	9.3
									—	—	—	—
									(注3)	267.4	(注3)	9.3

1

令和2年8月21日実施令

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注5) 重大事故等時における使用時の値
- (注6) 本設備は既存の設備である。
- (注7) エルボを示す。
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー中間建屋入口～30B管と36B管との分岐点」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「直管JWWA G105 異形管JWWA G106」と記載。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー30B管と36B管との分岐点～弁 (3-6509B) 」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、Bヘッダー30B管と36B管との分岐点～B1次系冷却水クーラー入口分岐点」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～A、B1次系冷却水クーラー」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「C1次系冷却水クーラー入口分岐点～レジェューサ (30×24) 」及び「レジェューサ (30×24) ～C1次系冷却水クーラー」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C1次系冷却水クーラー～海水母管合流点」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B1次系冷却水クーラー出口合流点～A、Bヘッダーフランジ (30×28) 」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジェューサ (10×8) 」と記載
- (注17) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電装置入口連絡管」と記載
- (注19) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (10×8) ～ディーゼル発電装置」と記載
- (注21) STPG42同等材料 (STPG410) への取替えを行う

- (注80) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷水ラインとの連絡管」と記載
- (注81) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ～出口合流点」と記載
- (注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置戻ライン合流点」と記載
- 載
- (注83) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×3) ～レジューサ (4×3)」と記載
- (注84) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。



検査範囲図(配管図)	
工事計画認可申請	第3-1-108図
美浜発電所 第3号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の配置を明示した図面 (原子炉補機冷却設備) (1/56)	
関西電力株式会社	

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1712152号99

成績書管理番号：1-06-1

令和2年6月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-06-1

- 1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年6月3日
至 令和2年6月17日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第343号(平成29年12月15日) 関原発第427号(平成30年 3月16日) 関原発第 62号(平成30年 4月20日) 関原発第158号(平成30年 6月25日) 関原発第201号(平成30年 7月 4日) 関原発第414号(平成30年12月 5日) 関原発第517号(平成31年 2月 6日) 関原発第 61号(2019年 5月16日) 関原発第121号(2019年 6月28日) 関原発第167号(2019年 7月25日) 関原発第216号(2019年 9月 2日) 関原発第640号(2020年 3月24日) 関原発第650号(2020年 3月30日) 関原発第 30号(2020年 4月 7日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-06-1

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月3日	良	大江 勇人 [Redacted]	ボイラー・タービン 主任技術者 [Redacted]	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-06-1

検査年月日：令和2年 6 月 3 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-06-1

検査年月日：令和2年 6 月 3 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・⊖	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-06-1

検査年月日：令和2年 6月 3日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設 一次冷却材の循環設備、ほう酸注入機能を有する設備 主配管 蒸気発生器入口 50° 径違エルボ ※1 蒸気発生器出口 40° エルボ ※1 加圧器～弁 (3V-8010A、B、C) ※1 加圧器～弁 (3MOV-8000A、B) 入口レジューサ (6×4、4×3) ※1 1次冷却材管A、Bループ高温側余熱除去系への分岐点～ (3MOV-8702A、B) ※1 1次冷却材管Aループ高温側分岐点～加圧器 ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0214 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照 ※1：別紙1～17参照			

設備概要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

4 一次冷却材の循環設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前				変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉容器 出口管台 ～ 蒸気発生器 入口50° 径違 エルボ	17.16	343				原子炉容器 出口管台 ～ 蒸気発生器 入口50° 径違 エルボ	変更なし 18.5	変更なし 360		変更なし	
一次冷却材の循環設備						一次冷却材の循環設備					
蒸気発生器 入口50° 径違エルボ	17.16	343				蒸気発生器 入口50° 径違エルボ	変更なし 18.5	変更なし 360		変更なし	

変更前				変更後							
名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料	名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料
(2.1)											
蒸気発生器出口 40° エルボ	17.16	343				蒸気発生器出口 40° エルボ	変更なし	変更なし			変更なし
(2.2)											
次冷母材の補強設備											
蒸気発生器出口 40° エルボ	17.16	343				蒸気発生器出口 40° エルボ	変更なし	変更なし			変更なし
(2.3)											
次冷母材の補強設備											
蒸気発生器出口 90° エルボ						蒸気発生器出口 90° エルボ	18.5	360			変更なし

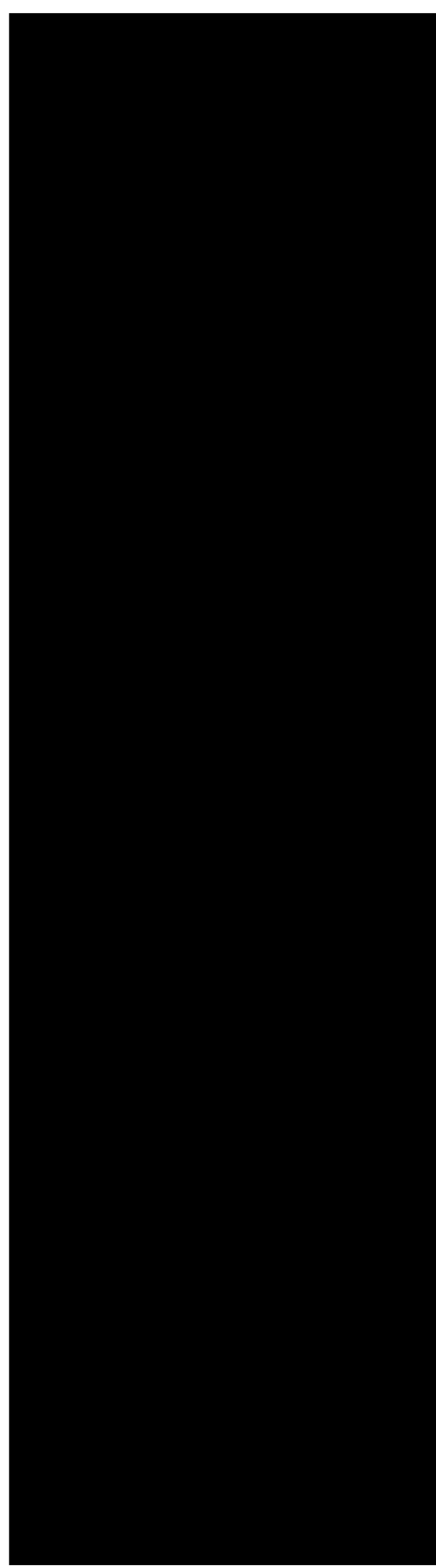
変 更 前				変 更 後							
名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材 料
一次冷却材の循環設備 加圧器 ～ 弁 (3V-8010 A、B、C)	17.16	360	168.3	18.3	SUS32TP	一次冷却材の循環設備 加圧器 ～ 弁 (3V-8010 A、B、C)	変更なし	18.5	168.3	18.3	変更なし
			168.3	18.3	SUS316TP						

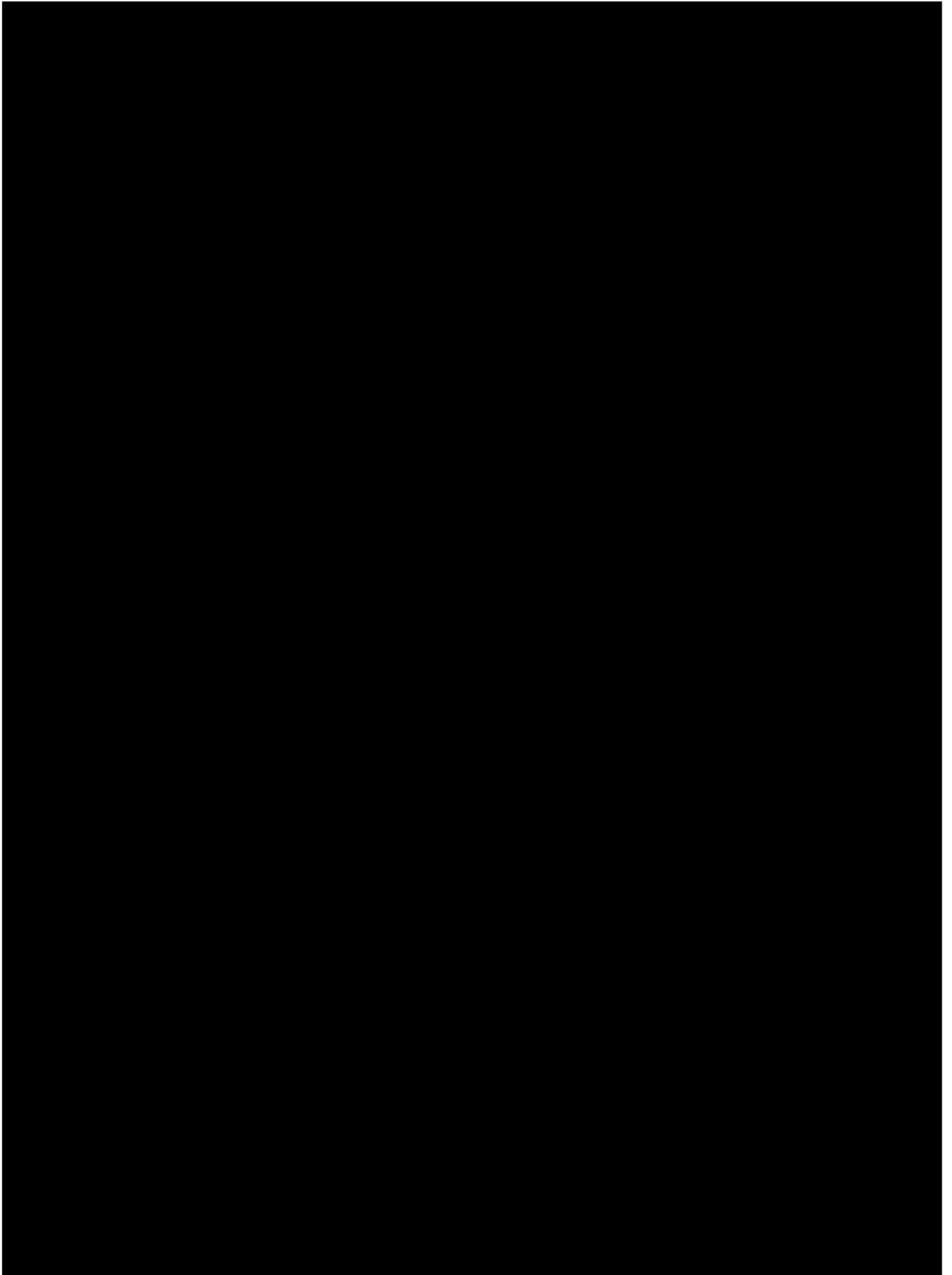
変更前				変更後								
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
一次冷却材の循環設備 加圧器 ～ 弁 (340V-8000A、B) 入口レジューサ (6×4、4×3)			168.3	18.3	SUS32TF	一次冷却材の循環設備 加圧器 ～ 弁 (340V-8000A、B) 入口レジューサ (6×4、4×3)						
			114.3	13.5	SUS32TF							
			88.9	11.1								
		17.16	360	168.3	18.3		SUS32TP					
			114.3	13.5								
			168.3	18.3								
			168.3	18.3	SUS32TP							
			168.3	18.3								
			168.3	18.3								

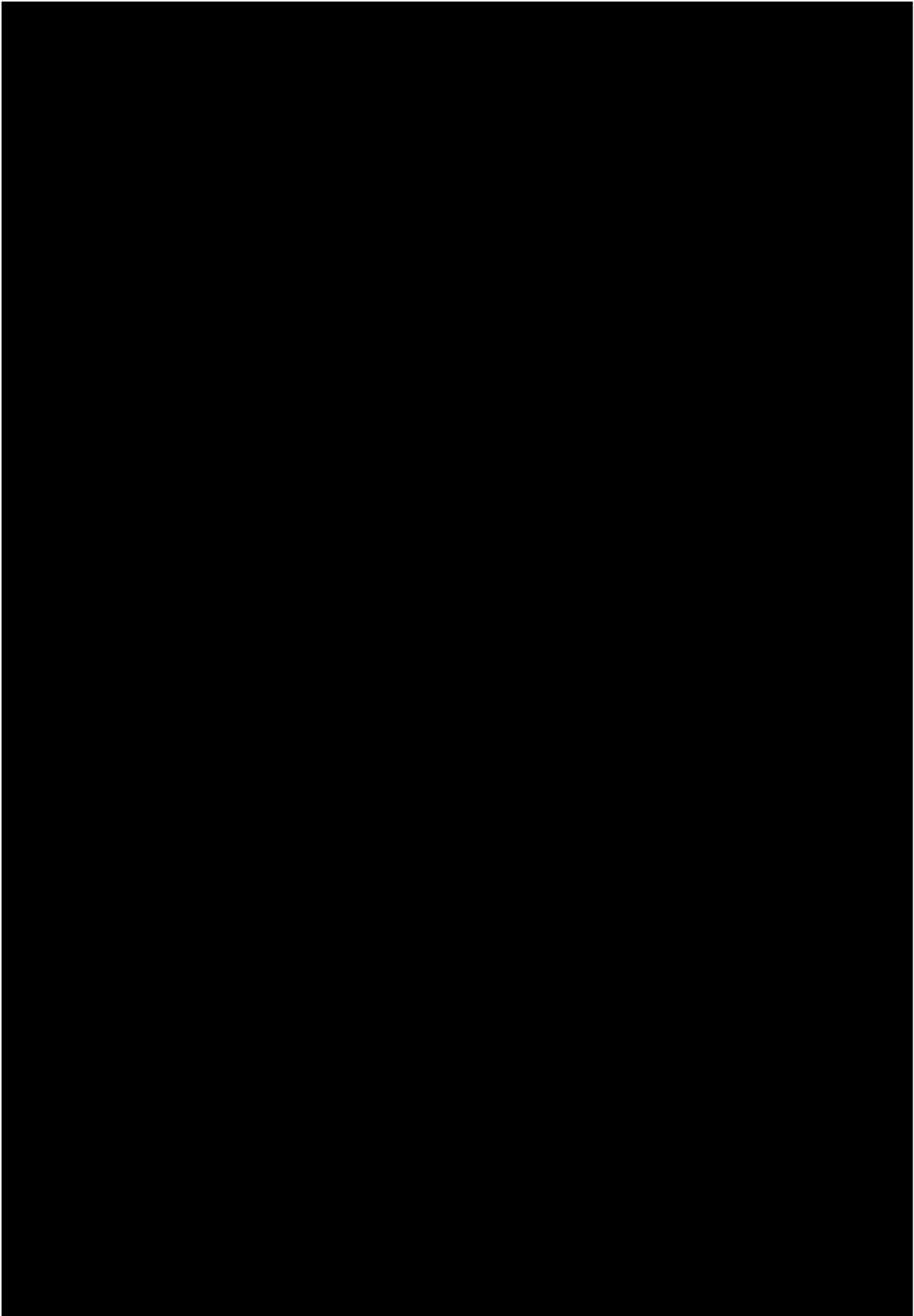
変更前		変更後									
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(E32) 1次冷却材管 A、Bループ高温側 余熱除去系への 分岐点 ～ 弁 (3MOV-8702A、B)	17.16	343	(E4) 323.9	(E4.15) 33.3	SUS32TP	変更なし	変更なし (E8)	360 (E8)		変更なし	
(E33.34) 弁 (3V-8940A、B、C) ～ 1次冷却材管 A、B、Cループ 高温側 安全注入系 よりの合流点	17.16	343	(E4) 168.3	(E4.20) 18.3	SUS32TP	一次冷却材の循環設備					変更なし
一次冷却材の循環設備											

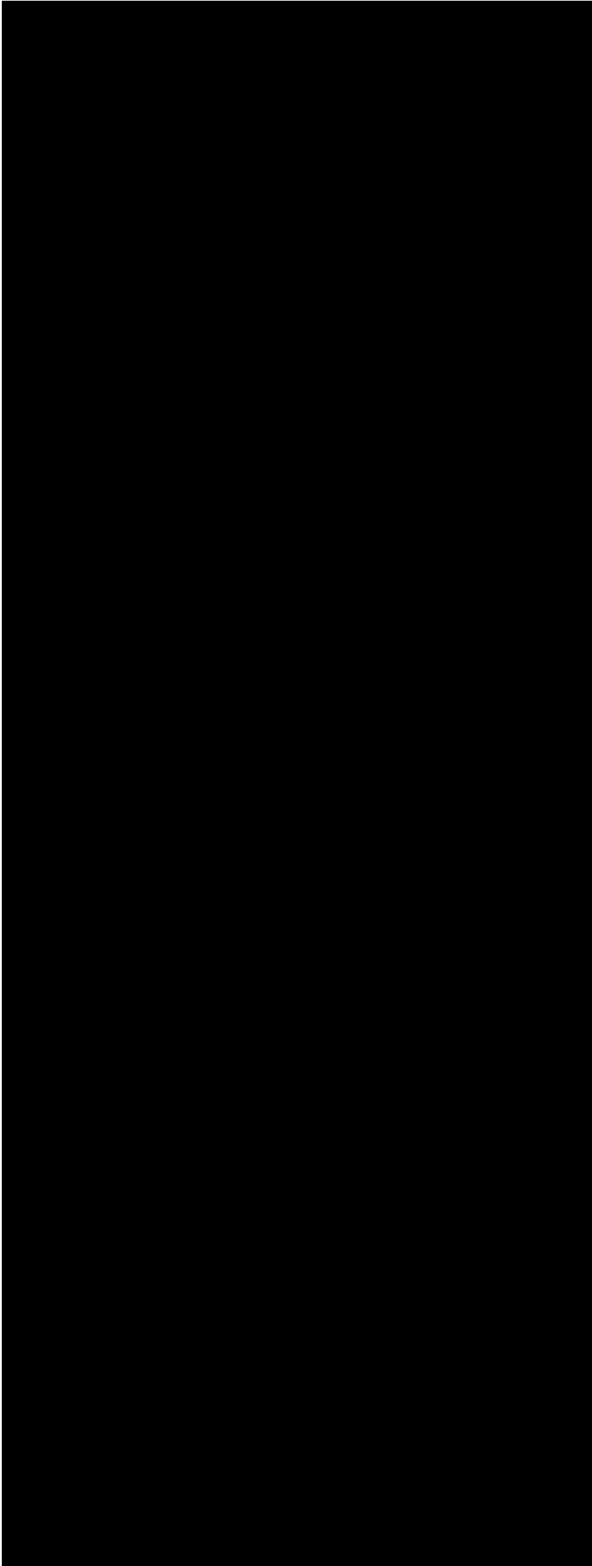
6

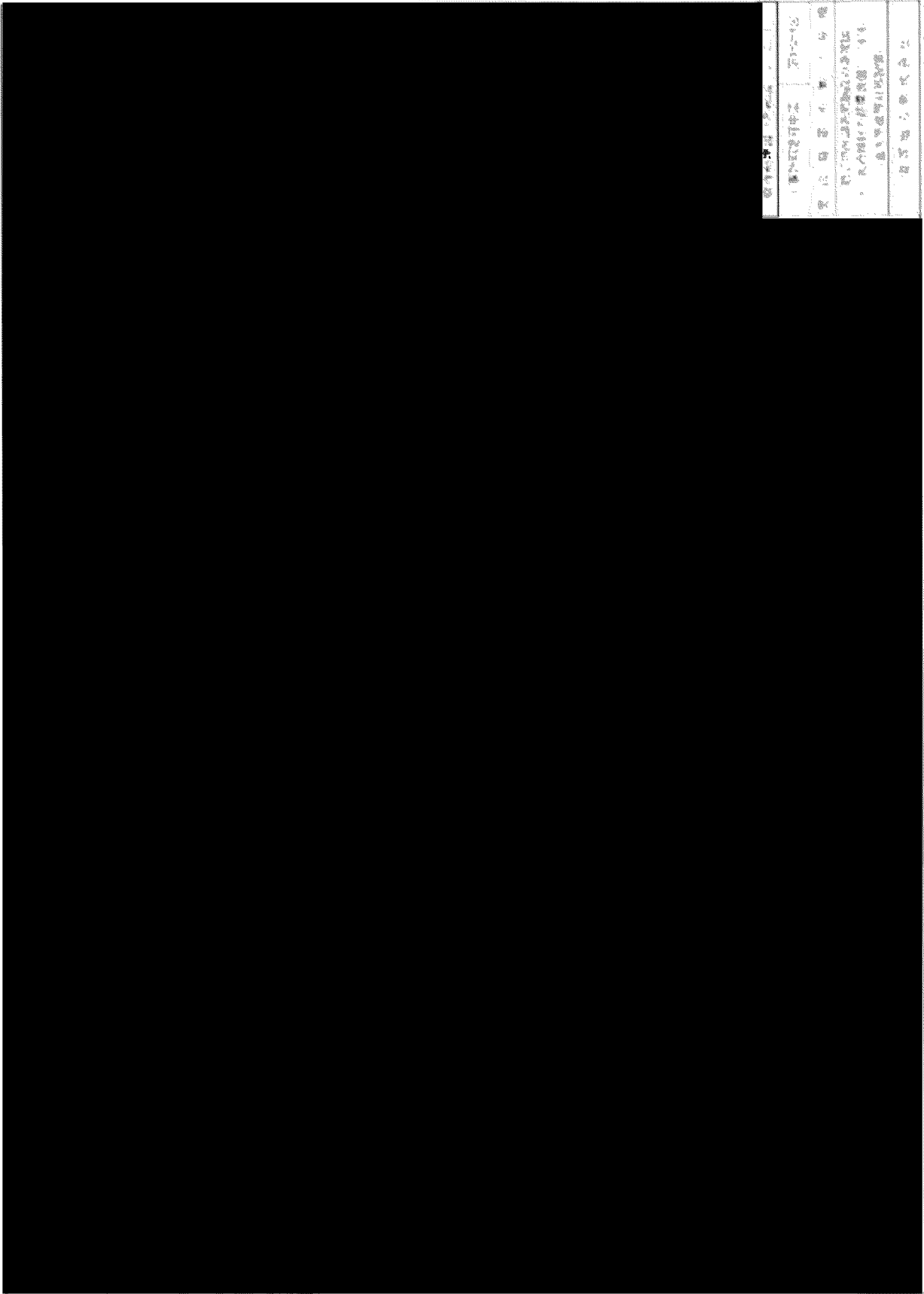
変更前				変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材料
1次冷却材管 Aルーブ高温側 分岐点 ～ 加圧器	17.16	360	355.6	35.7	SUS321P	1次冷却材管 Aルーブ高温側 分岐点 ～ 加圧器	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
1次冷却材の循環設備						1次冷却材の循環設備					



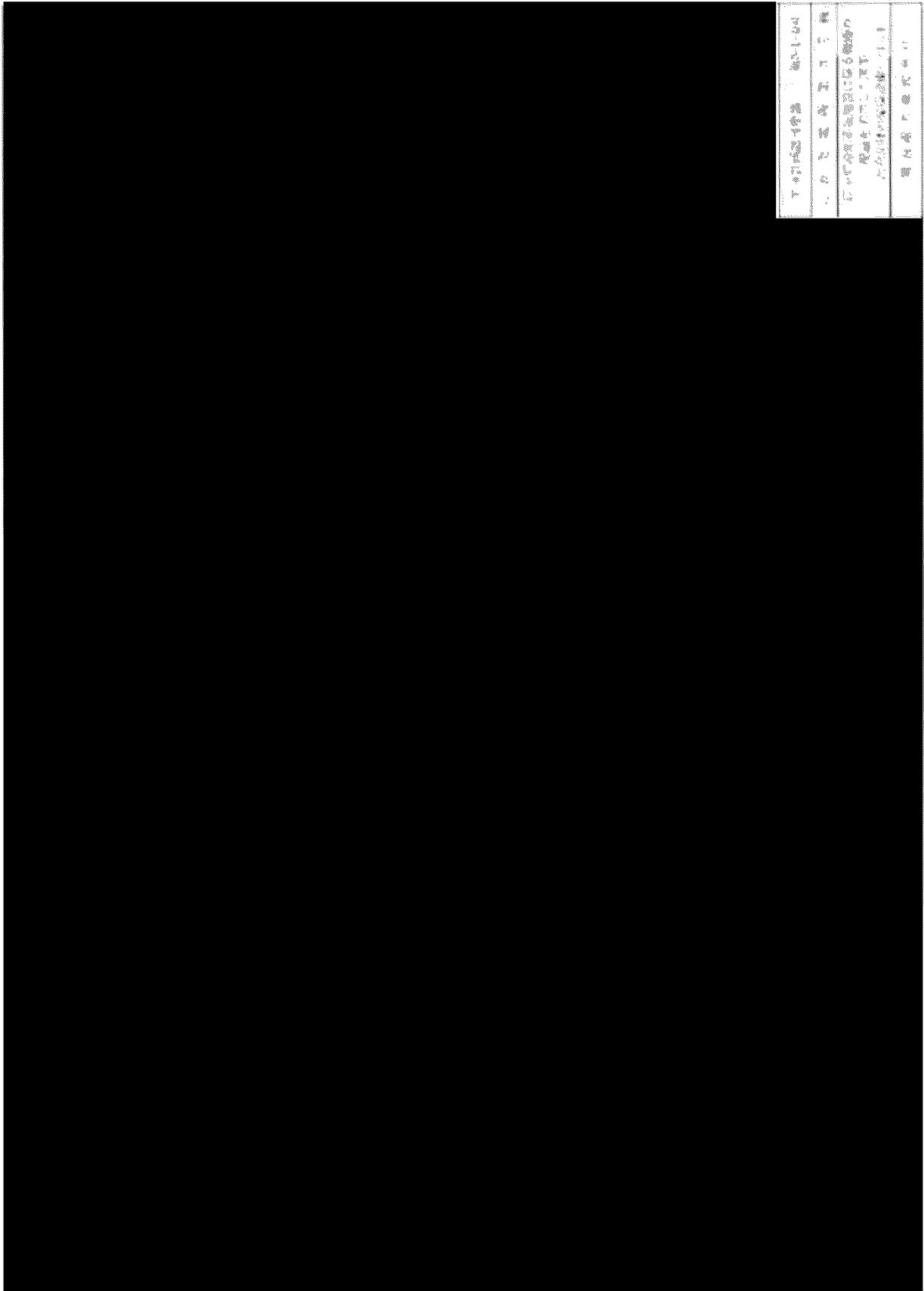




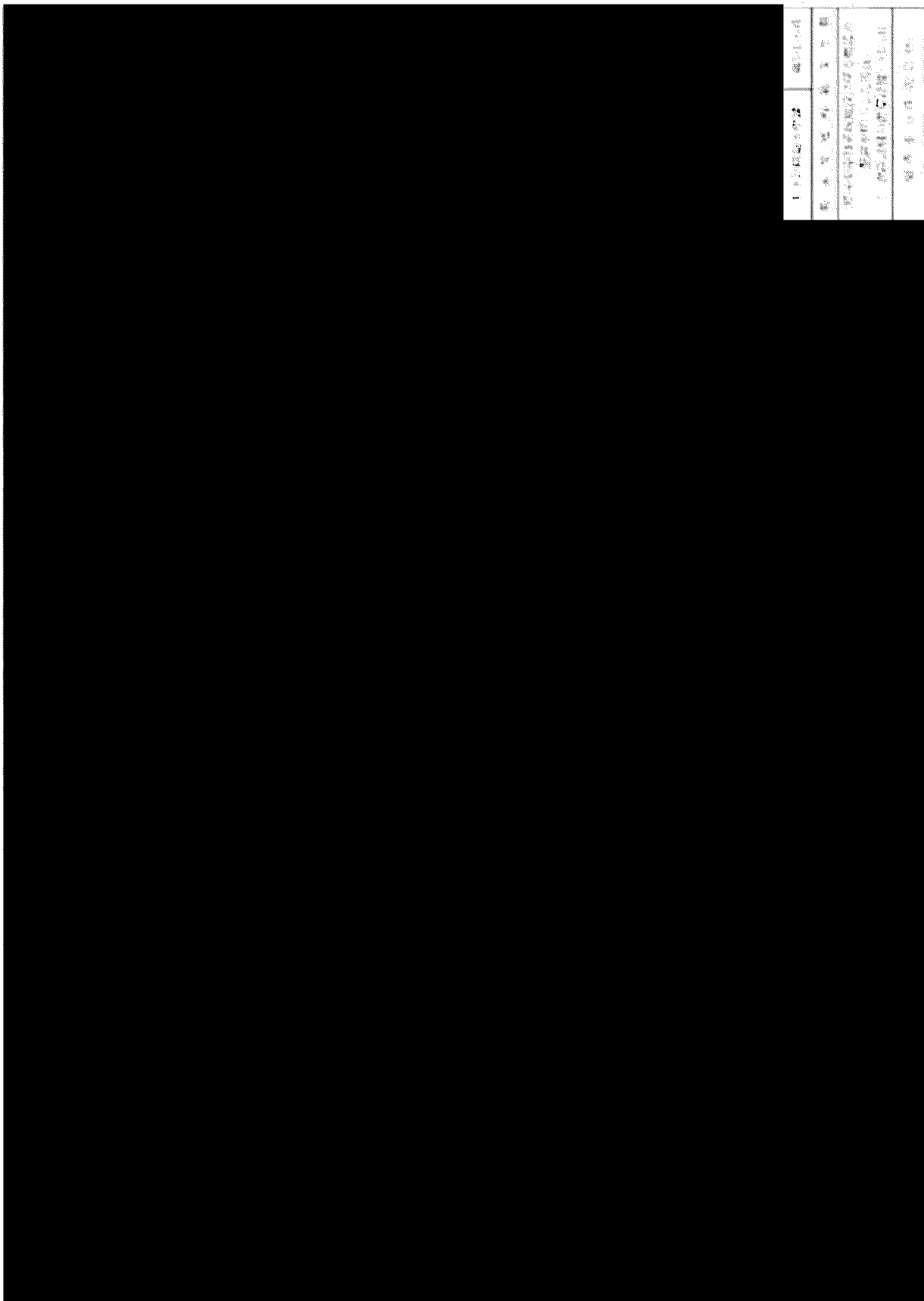




発行所 東京海上火災保険株式会社	発行所 東京海上火災保険株式会社
発行所 東京海上火災保険株式会社	発行所 東京海上火災保険株式会社
発行所 東京海上火災保険株式会社	発行所 東京海上火災保険株式会社
発行所 東京海上火災保険株式会社	発行所 東京海上火災保険株式会社



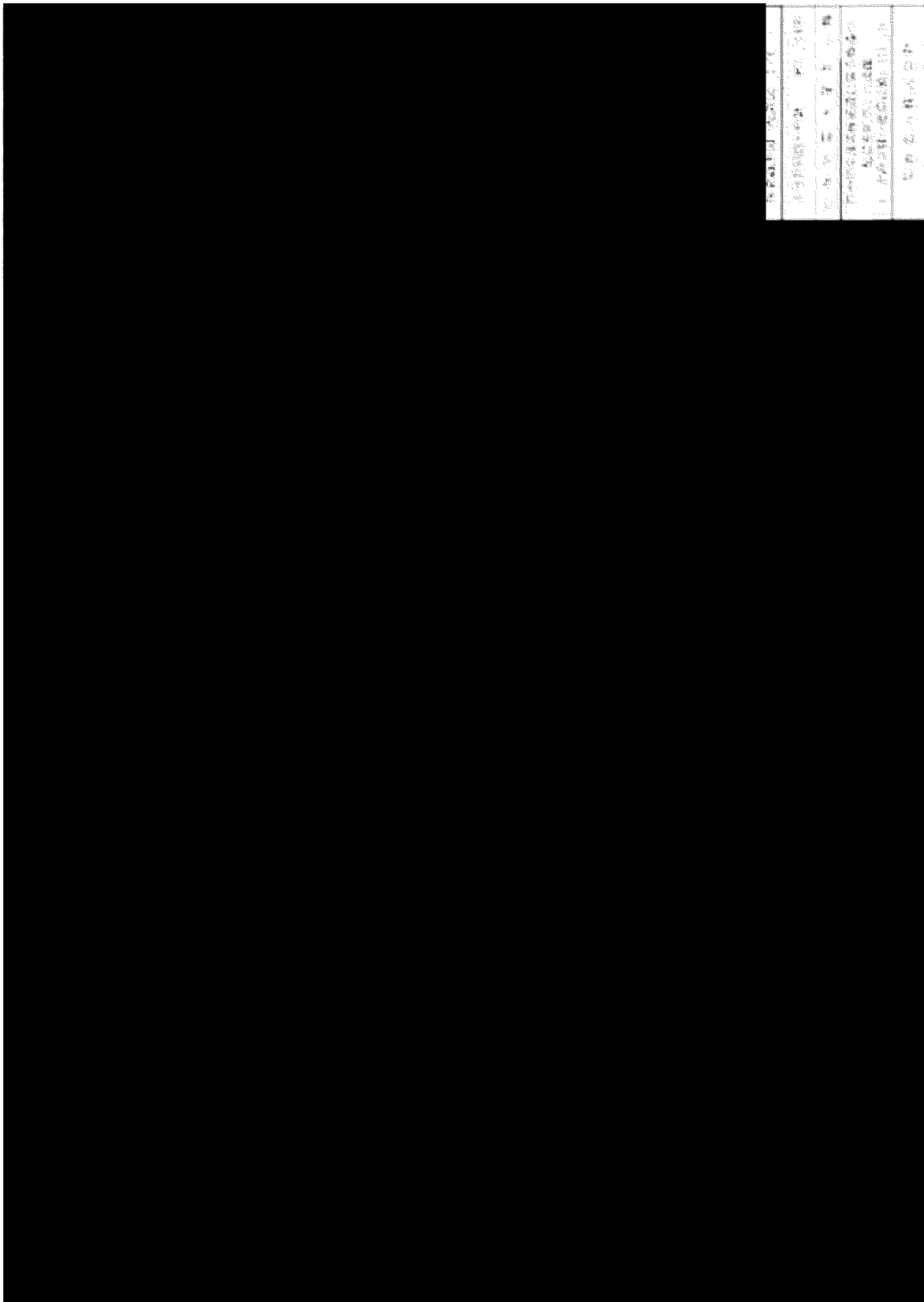
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1
株式会社 〇〇〇〇
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1
〇〇〇〇株式会社
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1
〇〇〇〇株式会社



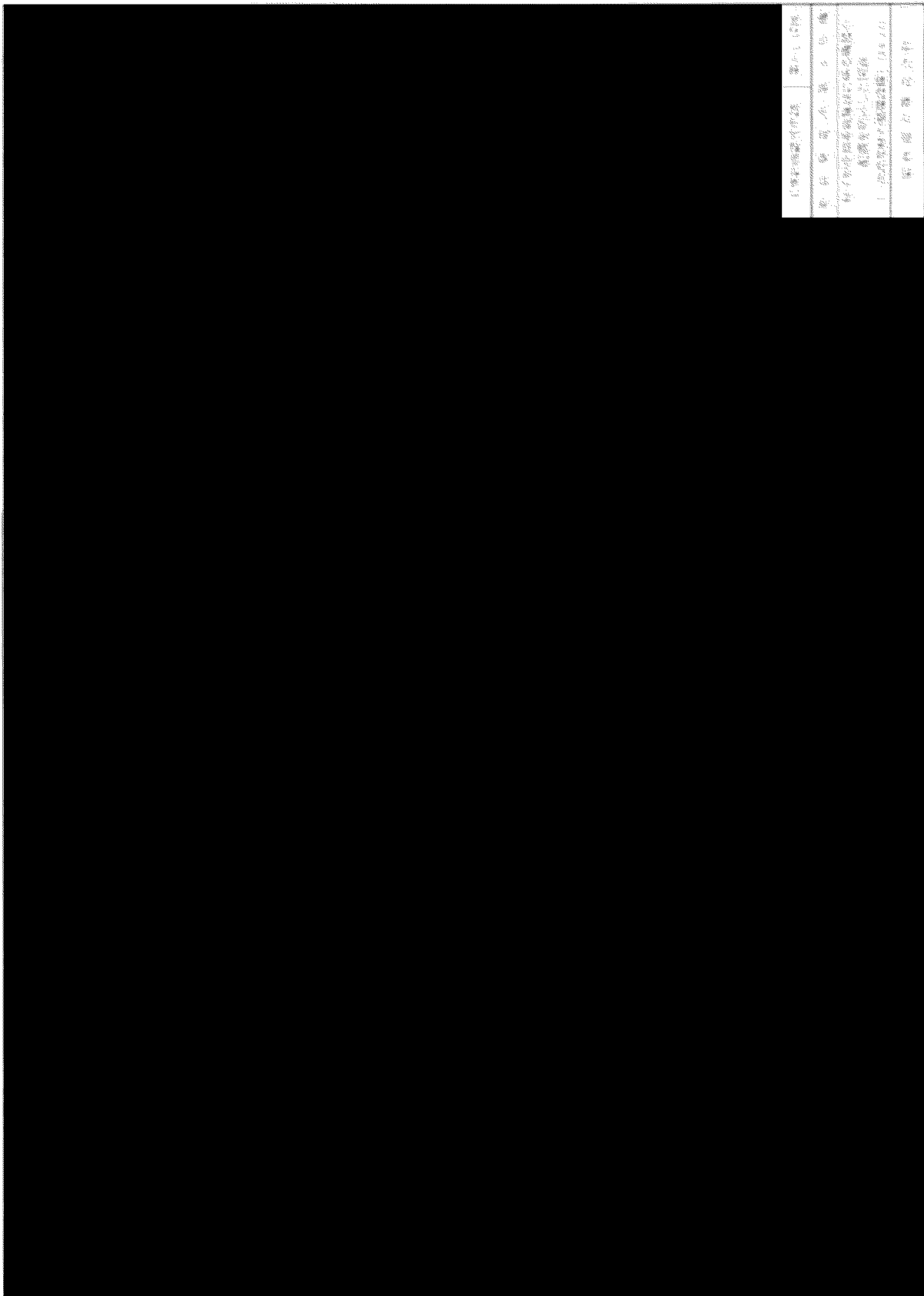
1. 申請書の件名	個人生活保護
2. 申請書の提出日	昭和57年11月15日
3. 申請書の提出場所	東京都葛飾区立花1-1-1
4. 申請書の提出者	東京都葛飾区立花1-1-1
5. 申請書の提出者住所	東京都葛飾区立花1-1-1
6. 申請書の提出者電話番号	03-562-XXXX
7. 申請書の提出者職業	無職
8. 申請書の提出者収入	なし
9. 申請書の提出者資産	なし
10. 申請書の提出者家族構成	単身
11. 申請書の提出者健康状態	健康
12. 申請書の提出者生活状況	生活保護受給中
13. 申請書の提出者備考	



： 株式会社
新 興 産 業 有 限 公 司
住 所 新 興 産 業 有 限 公 司
新 興 産 業 有 限 公 司
新 興 産 業 有 限 公 司
新 興 産 業 有 限 公 司





氏名	山本 太郎
性別	男
年齢	35
職名	主任
所属	第一課
印影	(印)



1. 本表は、（株）日本郵政の
 2. 2017年12月31日現在の
 3. 2017年12月31日現在の
 4. 2017年12月31日現在の
 5. 2017年12月31日現在の
 6. 2017年12月31日現在の
 7. 2017年12月31日現在の
 8. 2017年12月31日現在の
 9. 2017年12月31日現在の
 10. 2017年12月31日現在の

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-06-1

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月17日	良	森田 眞二 	ボイラー・タービン 主任技術者 	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-06-1

検査年月日：令和2年 6月 17日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-06-1

検査年月日：令和2年 6月 17日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・◎	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録
(一号検査)

成績書管理番号：1-06-1

検査年月日：令和2年 6月 17日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設 一次冷却材の循環設備、ほう酸注入機能を有する設備 加圧器 ※1			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0122 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照 ※1：別紙18～20参照（太線枠内の範囲）			

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項
 4 一次冷却材の循環設備に係る次の事項

(3) 加圧器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数 (1/3)

名称		変更前	変更後
種	類	加圧器	加圧器 (特)
容	量	たて置円筒形 (スプレイノズル付)	変更なし
最	高 使 用 圧 力	17.16	変更なし 18.5 (特)
最	高 使 用 温 度		
主要寸法			
胴	内 径	mm	
胴	板 厚 さ	mm	
鏡	板 厚 さ	mm	
内	張 り 厚 さ	mm	
ス	プ レ イ ラ イ ン 内 径	mm	
ス	プ レ イ ラ イ ン 厚 さ	mm	
安	全 弁 及 び 逃 が し 弁 内 径	mm	
安	全 弁 及 び 逃 が し 弁 厚 さ	mm	
サ	ー ジ 用 管 台 内 径	mm	
サ	ー ジ 用 管 台 厚 さ	mm	
マ	ン ホ ル 座 内 径	mm	
マ	ン ホ ル 座 厚 さ (特)	mm	

(2/3)

		変更前	変更後
鏡板内半径	mm		
全高	mm		
胴板	—		
鏡板	—		
スプレイルイン管用台	—		
安全弁及び 逃がし弁管用台	—		
サージ管用台	—		
ヒータスリッパ	—		
マンホール座	—		
マンホールふた (注12)	—		
内張り材	—		
個数	—		
主要寸法			
材料			

(3/3)

		変更前	変更後
(注) 取付箇所	系 (ラ イ ン 名)	-	
	設 置 床	-	
	溢 水 防 護 上 の 番 号	-	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 高 さ	-	

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名：原子炉冷却系統施

計測制御系統施設

系統名：一次冷却材の循環設備

ほう酸注入機能を有する設備

主配管

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

余熱除去設備

ほう酸注入機能を有する設備

主配管

要領書番号：原規規収第1712152号1-06-2

令和元年5月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機
- 2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号
関原発第343号(平成29年12月15日)
関原発第427号(平成30年3月16日)
関原発第62号(平成30年4月20日)
関原発第158号(平成30年6月25日)
関原発第201号(平成30年7月4日)
関原発第414号(平成30年12月5日)
関原発第517号(平成31年2月6日)
関原発第61号(令和元年5月16日)
- 4 検査期日 自 平成30年12月4日
至 令和元年5月17日
- 5 検査場所 関西電力株式会社美浜発電所
福井県三方郡美浜町丹生
三菱重工業株式会社 パワードメイン原子力事業部
兵庫県神戸市兵庫区和田崎町
- 6 検査範囲 美浜発電所第3号機
発電用原子炉施設
原子炉冷却系統施設
一次冷却材の循環設備
計測制御系統施設
ほう酸注入機能を有する設備
主配管 一式
原子炉冷却系統施設
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
余熱除去設備







計測制御系統施設

ほう酸注入機能を有する設備

主配管 一式

- 7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり
- 8 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 9 添付資料 使用前検査記録
- 1 検査前確認事項
 - 2 耐圧検査、漏えい検査記録
 - 3 検査用計器一覧表

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成30年 12月 4日	 村上恒夫  前原隆文	ボルト・クレーン  主任技術者	なし
令和元年 5月 16日	 雑賀康正  平井隆	ボルト・クレーン  主任技術者	なし
年 月 日		主任技術者	

検査結果一覧表

系統名：一次冷却材の循環設備、ほう酸注入機能を有する設備 主配管
 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、余熱除去設備、ほう酸注入機能を有する設備 主配管

検査項目	耐圧検査、漏えい検査	備考
検査日	平成30年12月4日	
結果	良	
検査日	令和元年5月16日	
結果	良	
検査日	年 月 日	
結果		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	平成30年 12月4日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	平成30年 12月4日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和元年 5月19日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年		
		月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであることを確認する。	記録確認	令和元年 5月19日	良	
		年		
		月 日		
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	令和元年 5月19日	良	
		年		
		月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

耐圧検査、漏えい検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成30年 12月4日	良	
		令和元年 5月16日	良	
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成30年 12月4日	良	
		令和元年 5月16日	良	
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成30年 12月4日	良	
		令和元年 5月16日	良	
		年 月 日		
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	平成30年 12月4日	良	
	立会 記録確認	令和元年 5月16日	良	
	立会/ 記録確認	年 月 日		

美浜発電所第3号機									
耐圧検査、漏えい検査記録									
検査場所：三菱重工業株式会社 パワードメイン原子力事業部									
検査範囲：原子炉冷却系統施設 一次冷却材の循環設備、計測制御系統施設 ほう酸注入機能を有する設備 主配管 原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備、計測制御系統施設 ほう酸注入機能を有する設備 主配管									
判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。 ・著しい漏えいがないこと。									
検査対象	最高使用 圧力 MPa	耐圧検査 規定圧力 MPa	耐圧検査時 圧力 MPa	保持 時間 分	漏えい 検査時圧力 MPa	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
弁 (3V-8945A、B、C) ～ 1次冷却材管 A、B、Cループ 低温側合流点	17.16 (18.5 ^{*1})	18.5	^{*2} 22.4	12	^{*2} 22.4	水圧	平成30年 12月4日	良	目視
弁 (3V-8944A、B、C) ～ 余熱除去クーラー出口合流点	17.16 (18.5 ^{*1})	18.5	^{*2} 22.4	12	^{*2} 22.4	水圧	平成30年 12月4日	良 ^{*3}	目視
備考 ※1：重大事故等時における使用時の圧力 ※2：設計基準対象施設の最高使用圧力(17.16MPa)の1.25倍以上が実施したことを確認した。 ※3：別紙の図示範囲を除く。									

美浜発電所第3号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：三菱重工株式会社 パワードメイン原子力事業部

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、原子炉冷却系統施設 余熱除去設備 主配管

原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備、原子炉冷却系統施設 余熱除去設備、計測制御系統施設 ほう酸注入機能を有する設備 主配管

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。
・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 MPa	耐圧検査 規定圧力 MPa	耐圧検査時 圧力 MPa	保持 時間 分	漏えい 検査時圧力 MPa	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
弁 (3V-8973A、B、C) ～ 余熱除去クローラ出口合流点	17.16 (18.5 ^{※1})	18.5	※2 22.4	12	※2 22.4	水圧	平成30年 12月4日	※3 良	目視
余熱除去クローラ出口合流点 ～ 弁 (3V-8945A、B、C)	17.16 (18.5 ^{※1})	18.5	※2 22.4	12	※2 22.4	水圧	平成30年 12月4日	※3 良	目視

備考

- ※1：重大事故等時における使用時の圧力
- ※2：設計基準対象施設の最高使用圧力(17.16MPa)の1.25倍以上を實施したことを確認した。
- ※3：別紙1の図示範囲を除く。

美浜発電所第3号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備、計測制御系統施設 ほう酸注入機能を有する設備 主配管
 原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備、原子炉注水設備、原子炉冷却系統施設 余熱除去設備 主配管
 原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備、原子炉注水設備、原子炉冷却系統施設 余熱除去設備、計測制御系統施設 ほう酸注入機能を有する設備 主配管

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。

・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 MPa	耐圧検査 規定圧力 MPa	耐圧検査時 圧力 MPa	保持 時間 分	漏えい 検査時圧力 MPa	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
弁 (3V-8944A、B、C) ～ 余熱除去クローラ出口合流点	17.16 (18.5 ^{*1})	18.5	22.1 ^{*2}	15	22.1 ^{*2}	水圧	令和元年 5月17日	良 ^{*3}	目視
弁 (3V-8973A、B、C) ～ 余熱除去クローラ出口合流点	17.16 (18.5 ^{*1})	18.5	22.1 ^{*2}	15	22.1 ^{*2}	水圧	令和元年 5月17日	良 ^{*3}	目視
余熱除去クローラ出口合流点 ～ 弁 (3V-8945A、B、C)	17.16 (18.5 ^{*1})	18.5	22.1 ^{*2}	15	22.1 ^{*2}	水圧	令和元年 5月17日	良 ^{*3}	目視

備考

※1：重大事故等時における使用時の圧力 ※2：設計基準向象施設の最高使用圧力(17.16MPa)の1.25倍以上で実施したことを確認した。
 ※3：別紙1の図示範囲に限る。

美浜発電所第3号機									
耐圧検査、漏えい検査記録 (代替検査)									
検査場所：関西電力株式会社美浜発電所									
検査範囲：原子炉冷却系統施設 一次冷却材の循環設備、計測制御系統施設 ほう酸注入機能を有する設備 主配管									
判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと ・著しい漏えいがないこと									
検査対象	最高使用 圧力 MPa	耐圧検査 規定圧力 MPa	耐圧検査時 圧力 MPa	保持 時間 分	漏えい 検査時圧力 MPa	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果 ^{※1}	検査方法
弁 (3V-8945A、B、C) ～ 1次冷却材管 A、B、C ループ低温 側合流点	17.16 (18.5 ^{※2})	—	—	—	—	—	令和元年 5月16日	※3 良	目視
備考									
※1：技術基準第21条の解釈に示す一般団法人日本機械学会「発電用原子力設備規格 設計・建設規格 (JSME S NC1-2005/2007)」が準拠する、 同学会「溶接規格 (JSME S NB1-2007)」N-5140 準用の N-1100 の規定が示す放射線透過試験の判定基準により確認									
※2：重大事故等時における使用時の圧力									
※3：別紙1の図示範囲									

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査用計器一覧表

検査年月日：平成30年12月4日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2018年11月22日 2019年5月31日	
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2018年11月22日 2019年5月31日	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査用計器一覧表

検査年月日：令和元年 5月 16¹⁶ 17¹⁷日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査、 漏えい検査 (代替検査)	放射線透過 写真等級分類 ゲージ	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	H30.12.17 H31.12.31	定規面 目盛
						試験視野 目盛
						きずの長径 目盛
						算定しきずの 最大の大きさ 目盛
耐圧検査、 漏えい検査	圧力計	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	2019年4月13日 2019年7月31日	
耐圧検査、 漏えい検査	圧力計	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	2019年4月13日 2019年7月31日	
以下余白						

<検査範囲図>
←→: 検査範囲を示す。

◎: 図示範囲

<検査範囲図>

←→: 検査範囲を示す。

◎: 図示範囲

<検査範囲図>

←: 検査範囲を示す。

◎: 図示範囲

<検査範囲図>
←-→: 検査範囲を示す。

◎: 図示範囲

<検査範囲図>

←-→: 検査範囲を示す。

◎: 図示範囲

<検査範囲図>
←: 検査範囲を示す。

◎: 図示範囲

<検査範囲図>

←→: 検査範囲を示す。

◎: 図示範囲

<検査範囲図>

←=→: 検査範囲を示す。

◎: 図示範囲

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1712152号99

成績書管理番号：1-07

令和2年8月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-07

- 1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年7月31日
至 令和2年8月7日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第343号(平成29年12月15日) 関原発第427号(平成30年3月16日) 関原発第62号(平成30年4月20日) 関原発第158号(平成30年6月25日) 関原発第201号(平成30年7月4日) 関原発第414号(平成30年12月5日) 関原発第517号(平成31年2月6日) 関原発第61号(2019年5月16日) 関原発第121号(2019年6月28日) 関原発第167号(2019年7月25日) 関原発第216号(2019年9月2日) 関原発第640号(2020年3月24日) 関原発第650号(2020年3月30日) 関原発第30号(2020年4月7日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-07

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 7月31日	良	<p>須貝実</p> <p>大谷 泰三</p> <p>印</p>	<p>ボイラータービン 主任技術者</p> <p>印</p>	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-07

検査年月日：令和2年 7 月 31 日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-07

検査年月日：令和2年 7月 31日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-07

検査年月日：令和2年 7月 31日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
計測制御系統施設 制御用空気設備 主配管（常設） 格納容器貫通部 PEN#332、328 上流配管合流点～弁 (3MOV-6202 及び 3MOV-6203) ホース接続口 (3V-6218A 上流) 及びホース接続口 (3V-6218B 上流) ～格納容器貫通部 PEN#332、328 上流配管合流点 弁 (3V-6204A、B) ～弁 (3V-6277D、B) 別添 1-1 ～別添 1-8 参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査、漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0222 目視で確認した範囲			

設備概要

計測制御系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置に係るものを除く。）にあつては、次の事項
 9 制御用空気設備に係る次の事項

(5) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前				変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
(注1) 格納容器貫通部 PEN#332、328 上流配管合流点 ～ 弁 (3MOV-6202 及び 3MOV-6203)	0.83	50	60.3	3.9	STPG42	変更なし	変更なし				
制御用空気設備							(注5) 0.98	(注5) 50	(注3, 6, 7) (差し込み部の内径) 61.1	(注6, 7) (最小) 6.0	(注3) (6.0)

1

1

変 更 前				変 更 後								
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
(注1)									(注3, 6)	(注6)		
格納容器貫通部 PEN#332、328 上流配管合流点 ～ 弁 (3MOV-6202 及び 3MOV-6203)			-			変更なし	(注6) 0.98	(注5) 50	(差し込み 部の内径) 61.1	(注3) 6.0	(注6) (最小) 6.0 / / / (最小) 6.0 / / / (6.0 / / / 6.0)	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
制御用空気設備						制御用空気設備			(差し込み 部の内径) 61.1			

2

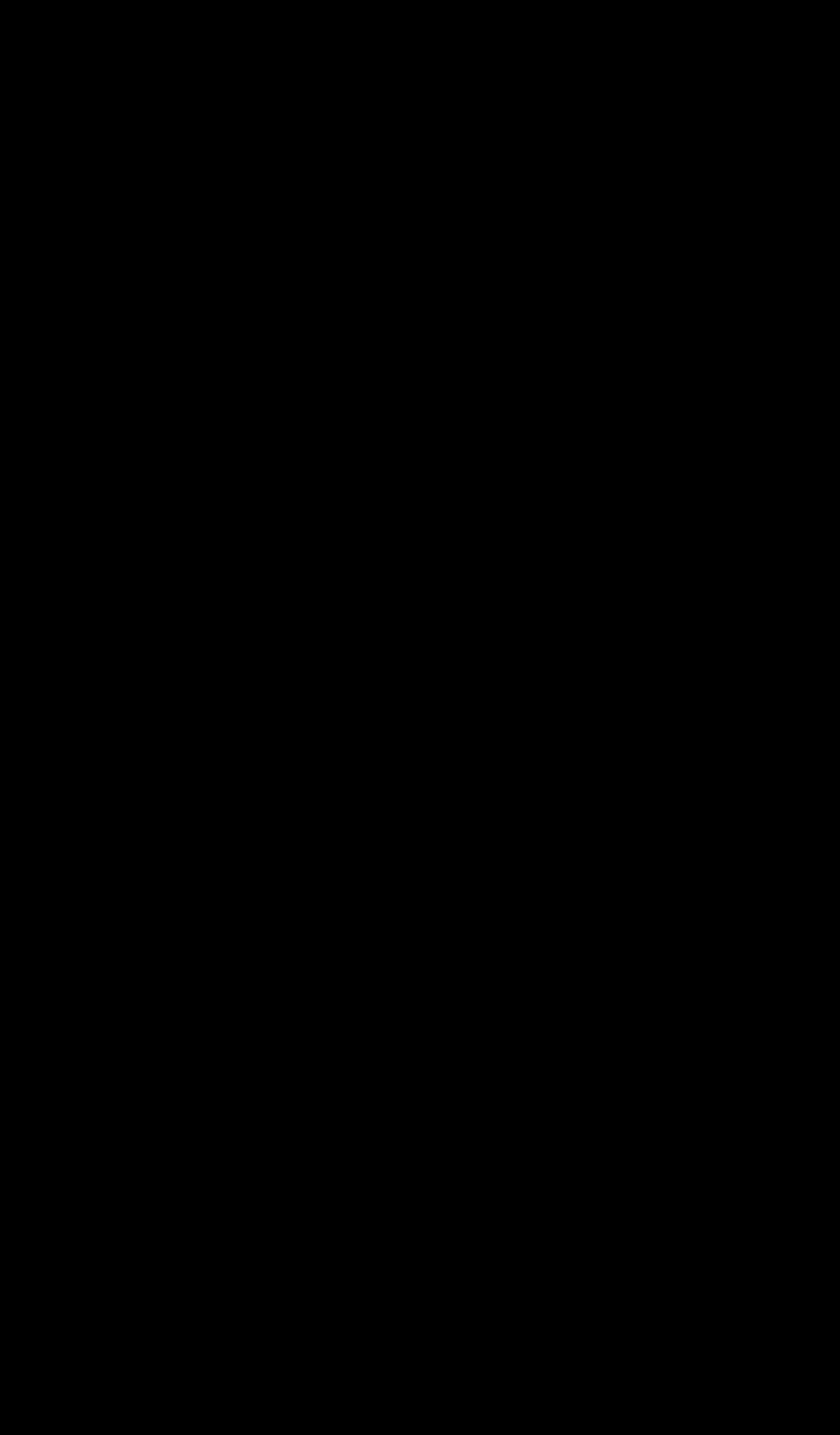
変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材	料
制御用空気設備		-	-	-	-	-	-
		0.98	50	(穴径) 20.5	(最小) 4.2	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	

変更前				変更後									
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料		
制御用空気設備 弁 (3V-6204A、B) ~ 弁 (3V-6277D、B)	(注4)		-			制御用空気設備 変更なし			(注3,7) 33.4	(注3,7) 3.4	(注7) STPT410		
							(注3,7) 34.0	(注3,7) 3.4	(注7) STPT370				
							(注3,6,7) 60.5	(注3,6,7) 3.9	(注6,7) STPT38				
					(注5) 0.98		(注5) 138	(注3,7) 60.5	(注3,7) 3.9	(注7) STPT370			
				(注3)				(注3) 60.3	(注3) 3.9	(注3) -			
											(注3) -		
												(注3) 34.0	

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材	料
制御用空気設備	(注4)				(注3)		
	弁 (3V-6204A、B) ~ 弁 (3V-6277D、B)	(注5) 0.98	138	60.5 / / 33.4	3.9 / / 3.4	STPT370	
				(注3, 6, 7) (差し込み 部の内径)	(注6, 7) (最小)		(注6, 7) S25C
				34.5	5.0		

変更前				変更後								
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
制御用空気設備 弁 (3V-6204A、B) ~ 弁 (3V-6277D、B)	(注4)					制御用空気設備 変更なし			(注3, 6)	(注6)	(注6)	
										(差し込み部の内径) 61.1	(最小) 6.0	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
							(注5) 0.98	138	(差し込み部の内径) 61.1	(注3) (6.0)		

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B計器用空気乾燥器～格納容器内弁 (3・6204A、B)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注5) 重大事故等時における使用時の値
- (注6) 本設備は既存の設備である。
- (注7) エルボを示す。
- (注8) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B計器用空気乾燥器出口ライン分岐点～計器用補助空気そう」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用補助空気そう入口ラインの分岐点～各止弁」と記載
- (注11) STPG42同等材 (STPG410) への取替を行う。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B計器用空気乾燥器出口ライン分岐点～中間建屋および補助建屋への供給母管～各止弁」と記載
- (注13) STPT38同等材 (STPT370) への取替を行う。



検査範囲図 (系統図)	
工事計画認可申請	第4-2-18図
美浜発電所第3号機	
計測制御系統施設の系統図 (制御用空気設備) (2/4) (重大事故等対応設備)	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-07

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月7日	良	森田 恵二	ボイラー、タービン 主任技術者 [Redacted]	なし

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-07

検査年月日：令和2年 8月 7日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-07

検査年月日：令和2年 8月 7日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録
(一号検査)

成績書管理番号：1-07

検査年月日：令和2年 8月 7日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象			
計測制御系統施設 制御用空気設備 主配管（常設） ホース接続口～弁 (3V-6226G) 別添2-1～別添2-3参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査、漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：M3-1-0222、M3-1-0222（その2） ・日視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録
 (一号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：1-07

検査年月日：令和2年 8月 7日

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
主配管（常設） （ホース接続口 ～弁（3V-6226G））	外観検査	—	良	目視
主配管（常設） （ホース接続口 ～弁（3V-6226G））	組立て及び 据付け状態 を確認する 検査	—	良	
主配管（常設） （ホース接続口 ～弁（3V-6226G））	耐圧検査、 漏えい検査	別添3参照	良	
備考				

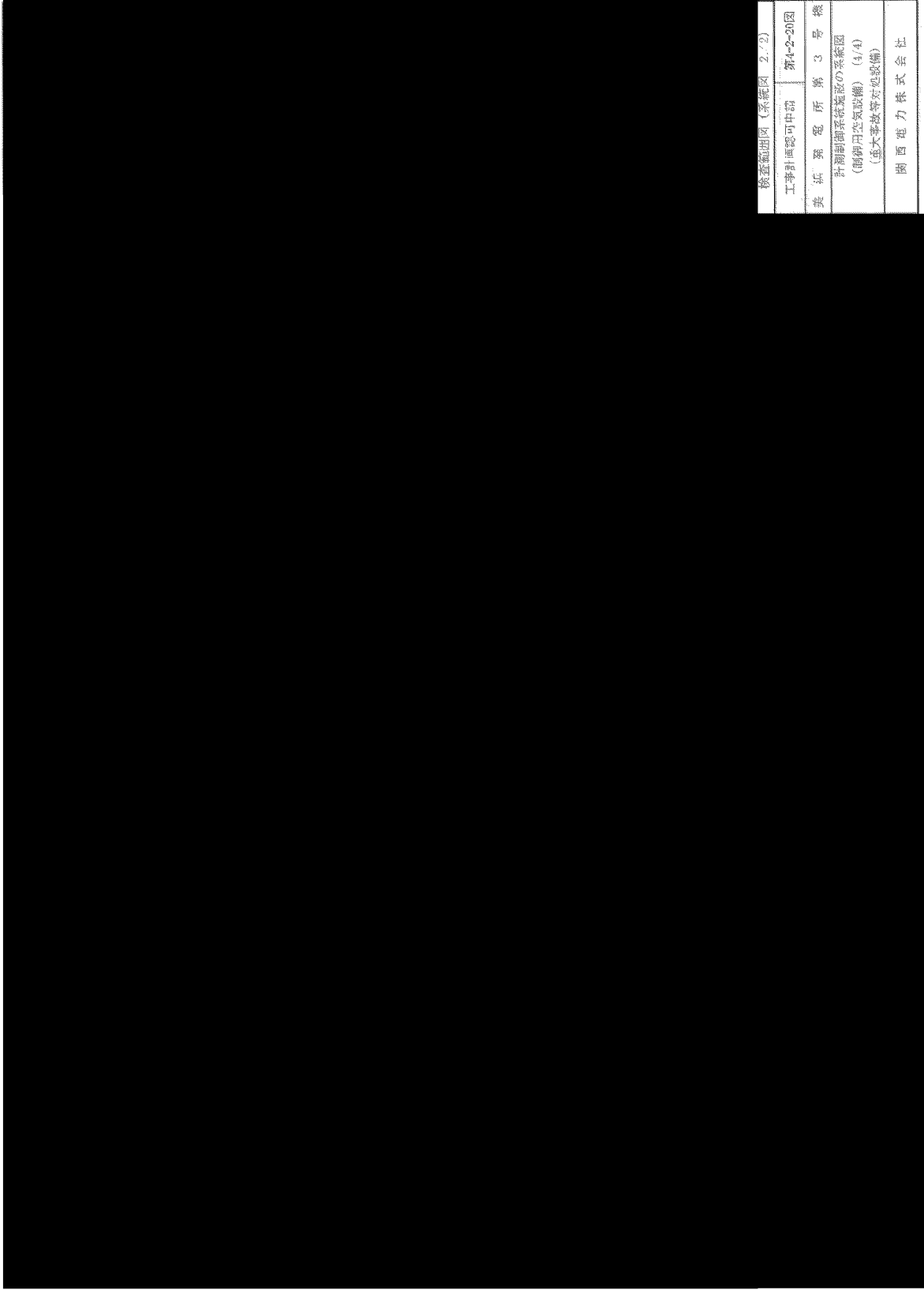
関西電力株式会社美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

成績書管理番号：1-07

検査年月日：令和 2 年 8 月 7 日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査、 漏えい検査	圧力計				2020. 1. 30 2023. 1. 29	
耐圧検査、 漏えい検査	圧力計				2020. 1. 30 2023. 1. 29	
以下余白						

- (注6) 本設備は既存の設備である。
- (注7) エルボを示す。
- (注8) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B計器用空気乾燥器出口ライン分岐点～計器用補助空気そう」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用補助空気そう入口ラインの分岐点～各止弁」と記載
- (注11) STPG42同等材 (STPG410) への取替を行う。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B計器用空気乾燥器出口ライン分岐点～中間建屋および補助建屋への供給母管～各止弁」と記載
- (注13) STPT38同等材 (STPT370) への取替を行う。



検査範囲(系統図 2/2)
工事計画認可申請
美浜発電所第3号機
計測制御系統図の系統図 (制御用空気設備) (4/4) (重大事故等対応設備)
関西電力株式会社

検査対象	最高使用圧力 MPa ※1	耐圧検査圧力 MPa ※2	保持時間 分	漏えい検査圧力 MPa	水圧、気圧 区分
ホース接続口 弁 (3V-6226G)	0.98	1.25	11	1.25	気圧
<p>備考</p> <p>※1：重大事故時における使用時の値</p> <p>※2：使用圧力※1×1.0 (0.98MPa×1.0=0.98MPa) 以上</p>					

関西電力株式会社
美浜発電所第3号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名 : 放射線管理施設

系統名 : 生体遮蔽装置

緊急時対策所遮蔽

要領書番号 : 原規規収第1712152号1-08

令和元年 7月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社美浜発電所第3号機
- 2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号
関原発第343号(平成29年12月15日)
関原発第427号(平成30年3月16日)
関原発第62号(平成30年4月20日)
関原発第158号(平成30年6月25日)
関原発第201号(平成30年7月4日)
関原発第414号(平成30年12月5日)
関原発第517号(平成31年2月6日)
関原発第61号(2019年5月16日)
関原発第121号(2019年6月28日)
- 4 検査期日 自 平成30年11月21日
至 令和元年7月18日
- 5 検査場所 関西電力株式会社美浜発電所
福井県三方郡美浜町丹生
福井県生コンクリート工業組合 嶺南試験場
福井県三方上中郡若狭町成願寺
- 6 検査範囲 美浜発電所第3号機
発電用原子炉施設
放射線管理施設
生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽 一式
- 7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり
- 8 検査結果 検査結果一覧表のとおり

9 添付資料


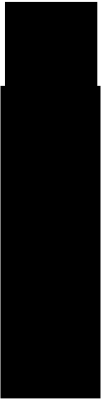

使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 材料検査記録
- 3 寸法検査記録
- 4 外観検査記録
- 5 組立て及び据付け状態を確認する検査記録
- 6 検査用計器一覧表

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成30年 11月21日	奥本昭治 原、田 智	発電用原子炉 主任技術者	なし
平成30年 12月4日	岸 国基 環境技庫 河田 拓也	発電用原子炉 主任技術者	なし
平成30年 12月18日	岸 国基 田中孝行	発電用原子炉 主任技術者	なし

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成31年 2月12日	前原 隆文 高橋 和宏	発電用原子炉 主任技術者 	なし
平成31年 3月20日	高橋 和宏 環境技官 河田 拓也	発電用原子炉 主任技術者 	なし
令和元年 7月18日	前田 剛 環境技官 増本 豊	発電用原子炉 主任技術者 	なし

検査結果一覧表

系統名：生体遮蔽装置 緊急時対策所遮蔽

検査項目	材料検査	寸法検査	外觀検査	組立て及び据付け状態を確認する検査	備考
検査日	平成30年 11月21日	平成30年 11月21日	年 月 日	年 月 日	
結果	良	良			
検査日	年 月 日	平成30年 12月4日	年 月 日	年 月 日	
結果		良			
検査日	平成30年 12月18日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
結果	良				

検査結果一覧表

系統名：生体遮蔽装置 緊急時対策所遮蔽

検査項目	材料検査	寸法検査	外観検査	組立て及び据付け状態を確認する検査	備考
検査日	平成31年 2月12日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
結果	良				
検査日	年 月 日	平成31年 3月20日	平成31年 3月20日	年 月 日	
結果		良	良		
検査日	令和元年 7月17日	令和元年 7月17日	令和元年 7月17日	令和元年 7月18日	
結果	良	良	良	良	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	平成30年 11月21日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		平成30年 12月4日	良	
		平成30年 12月18日	良	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	平成30年 11月21日	良	
		平成30年 12月4日	良	
		平成30年 12月18日	良	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	平成31年 2月12日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		平成31年 3月20日	良	
		令和元年 7月17日	良	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	平成31年 2月12日	良	
		平成31年 3月20日	良	
		令和元年 7月17日	良	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

材料検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成30年 11月21日	良	
		平成30年 12月18日	良	
		平成31年 2月12日	良	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成30年 11月21日	良	
		平成30年 12月18日	良	
		平成31年 2月12日	良	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成30年 11月21日	良	
		平成30年 12月18日	良	
		平成31年 2月12日	良	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

材料検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 7月 ¹⁷ / ₁₈ 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 7月 ¹⁷ / ₁₈ 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	令和元年 7月 ¹⁷ / ₁₈ 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

寸法検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成30年 11月2日	良	
		平成30年 12月4日	良	
		平成31年 3月20日	良	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成30年 11月2日	良	
		平成30年 12月4日	良	
		平成31年 3月20日	良	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成30年 11月2日	良	
		平成30年 12月4日	良	
		平成31年 3月20日	良	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

寸法検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 7月 ¹⁷ / ₁₈ 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 7月 ¹⁷ / ₁₈ 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	令和元年 7月 ¹⁷ / ₁₈ 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年 3月20日	良	
		令和元年 7月17日	良	
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年 3月20日	良	
		令和元年 7月17日	良	
		年 月 日		

美浜発電所第3号機 使用前検査記録

検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 7月17日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 7月17日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

美浜発電所第3号機

材料検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所
~~福井県生コンクリート工業組合 嶺南試験場~~

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
 緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

対象機器	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 ※3	鉄筋コンクリート※1 (密度 2.1g/cm ³ 以上)	平成30年 11月21日	良	目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- セメント
- 骨材
- 練混ぜ水
- 混和剤
- 混和材
- フレッシュコンクリートの性状
- 構造体コンクリートの圧縮強度
- アルカリシリカ反応性
- 遮蔽コンクリートの乾燥単位容積質量 確認した密度の最小値 (g/cm³)
- 鉄筋

※2：以下の箇所について確認

北壁-2、北壁-4、西壁-1(詳細は別紙参照)

・記録確認は、申請者の品質記録(※3)による。

※3：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304

美浜発電所第3号機

材料検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所
~~福井県生コンクリート工業組合 嶺南試験場~~

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
 緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

対象機器	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	鉄筋コンクリート※1 (密度 2.1g/cm ³ 以上)	平成30年 12月18日	良	目視 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- セメント
- 骨材
- 練混ぜ水
- 混和剤
- 混和材
- フレッシュコンクリートの性状
- 構造体コンクリートの圧縮強度
- アルカリシリカ反応性
- 遮蔽コンクリートの乾燥単位容積質量 確認した密度の最小値 (g/cm³)
- 鉄筋

※2：以下の箇所について確認

北壁-2, 北壁-4, 西壁-1 (詳細は別紙参照)

・記録確認は、申請者の品質記録(※3)による。

※3：適合性確認検査成績書の要領書番号： M3-1-1304

美浜発電所第3号機

材料検査記録

検査場所：~~関西電力株式会社美浜発電所~~
福井県生コンクリート工業組合 嶺南試験場

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

対象機器	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	鉄筋コンクリート※1 (密度 2.1g/cm ³ 以上)	平成31年 2月12日	良	目標 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- セメント
- 骨材
- 練混ぜ水
- 混和剤
- 混和材
- フレッシュコンクリートの性状
- 構造体コンクリートの圧縮強度
- アルカリシリカ反応性
- 遮蔽コンクリートの乾燥単位容積質量 確認した密度の最小値 (g/cm³)
- 鉄筋

※2：以下の箇所について確認

北壁-2 , 北壁-4 , 西壁-1 (詳細は別紙参照)

・記録確認は、申請者の品質記録(※3)による。

※3：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304

美浜発電所第3号機

材料検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所
福井県生コンクリート工業組合 嶺南試験場

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

対象機器	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	鉄筋コンクリート※1 (密度 2.1g/cm ³ 以上)	令和元年 7月17日	良	目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- セメント
- 骨材
- 練混ぜ水
- 混和剤
- 混和材
- フレッシュコンクリートの性状
- 構造体コンクリートの圧縮強度
- アルカリシリカ反応性
- 遮蔽コンクリートの乾燥単位容積質量 確認した密度の最小値 (2.1 g/cm³)
- 鉄筋

※2：以下の箇所について確認

フレッシュコンクリートの性状、構造体コンクリートの圧縮強度、鉄筋については
北壁-2、北壁-4、西壁-1 以外の箇所 (詳細は別紙参照)

・記録確認は、申請者の品質記録 (※3) による。

※3：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304


美浜発電所第3号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象		主要寸法 (最小厚さ) (m)	許容値 ^{※5} (m)	測定値 (m)	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	北壁 ^{※3}		-	-	平成30年 11月2日	良	目視/ 記録確認
	東壁				年 月 日		目視/ 記録確認
	南壁				年 月 日		目視/ 記録確認
	西壁 ^{※3}				平成30年 11月2日	良	目視/ 記録確認
	天井				年 月 日		目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- 鉄筋の組立精度
 型枠の組立精度

※2：検査用ボルトの寸法： (立会検査において測定を実施した場合に記載)

※3：以下の箇所について確認

北壁-2、北壁-4、西壁-1 (詳細は別紙参照)

※4：公称値

※5：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録(※6)による。

※6：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304

美浜発電所第3号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象		主要寸法 (最小厚さ) (m)	許容値 ^{※5} (m)	測定値 (m)	検査年月日	検査 結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	^{※3} 北壁	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	平成31年 3月20日	良	目視/ 記録確認
	東壁				年 月 日		目視/ 記録確認
	南壁				年 月 日		目視/ 記録確認
	^{※3} 西壁				平成31年 3月20日	良	目視/ 記録確認
	天井				年 月 日		目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- 鉄筋の組立精度
- 型枠の組立精度

※2：検査用ボルトの寸法：1.500 m (立会検査において測定を実施した場合に記載)

※3：以下の箇所について確認

北壁-2、北壁-4、西壁-1 (詳細は、別紙参照)

※4：公称値

※5：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録(※6)による。

※6：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304

美浜発電所第3号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象		主要寸法 (最小厚さ) (m)	許容値 ^{※5} (m)	測定値 (m)	検査年月日	検査 結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	北壁	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	令和元年 7月18日	良	目視/ 記録確認
	東壁				令和元年 7月18日	良	目視/ 記録確認
	南壁				令和元年 7月18日	良	目視/ 記録確認
	西壁				令和元年 7月18日	良	目視/ 記録確認
	天井				令和元年 7月18日	良	目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- 鉄筋の組立精度
- 型枠の組立精度

※2：検査用ボルトの寸法： m (立会検査において測定を実施した場合に記載)

※3：以下の箇所について確認

北壁-2, 北壁-4, 西壁-1 以外の箇所 (詳細は別紙参照)

※4：公称値

※5：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録 (※6) による。

※6：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304

美浜発電所第3号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	平成31年 3月20日	良	目視/記録確認

備考

※1：以下の箇所について確認

西壁-1（詳細は、別紙参照）

~~記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。~~~~※2：適合性確認検査成績書の要領書番号~~

美浜発電所第3号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	平成31年 3月20日	良	目視/記録確認

備考

※1：以下の箇所について確認

北壁-2, 北壁-4 (詳細は、別紙参照)

・記録確認は、申請者の品質記録 (※2) による。

※2：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304

美浜発電所第3号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	令和元年 7月17日	良	目視/記録確認

備考

※1：以下の箇所について確認

北壁-2, 北壁-4, 西壁-1 以外の箇所（詳細は別紙参照）

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304

美浜発電所第3号機

組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	令和元年 7月17日	良	目視/記録確認

備考

※1：以下の箇所について確認

北壁-2, 北壁-4, 西壁-1 (詳細は別紙参照)

・記録確認は、申請者の品質記録(※2)による。

※2：適合性確認検査成績書の要領書番号：M3-1-1304

美浜発電所第3号機

組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査場所：関西電力株式会社美浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽	令和元年 7月17日	良	目視 <u>記録確認</u>

備考

※1：以下の箇所について確認

北壁-2, 北壁-4, 西壁-1 以外の箇所 (詳細は別紙参照)

・記録確認は、申請者の品質記録 (※2) による。

※2：適合性確認検査成績書の要領書番号： M3-1-1304

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日：平成30年//月2/日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
寸法検査	コンベックス				2018.7.6 2020.7.5	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日：平成30年12月4日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
寸法検査	コンベックス				2018.7.6 2020.7.5	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日：平成 30年 12月 18日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月口 有効期限	備考
材料検査	コンベックス				2018. 7. 6 2020. 7. 5	
材料検査	エアメータ				2018. 11. 3 2019. 5. 2	
材料検査	温度計				2018. 7. 26 2021. 7. 25	
材料検査	塩化物量測定器				2018. 7. 17 2020. 7. 16	ソルメイト
材料検査	はかり				2018. 7. 31 2019. 7. 30	

美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

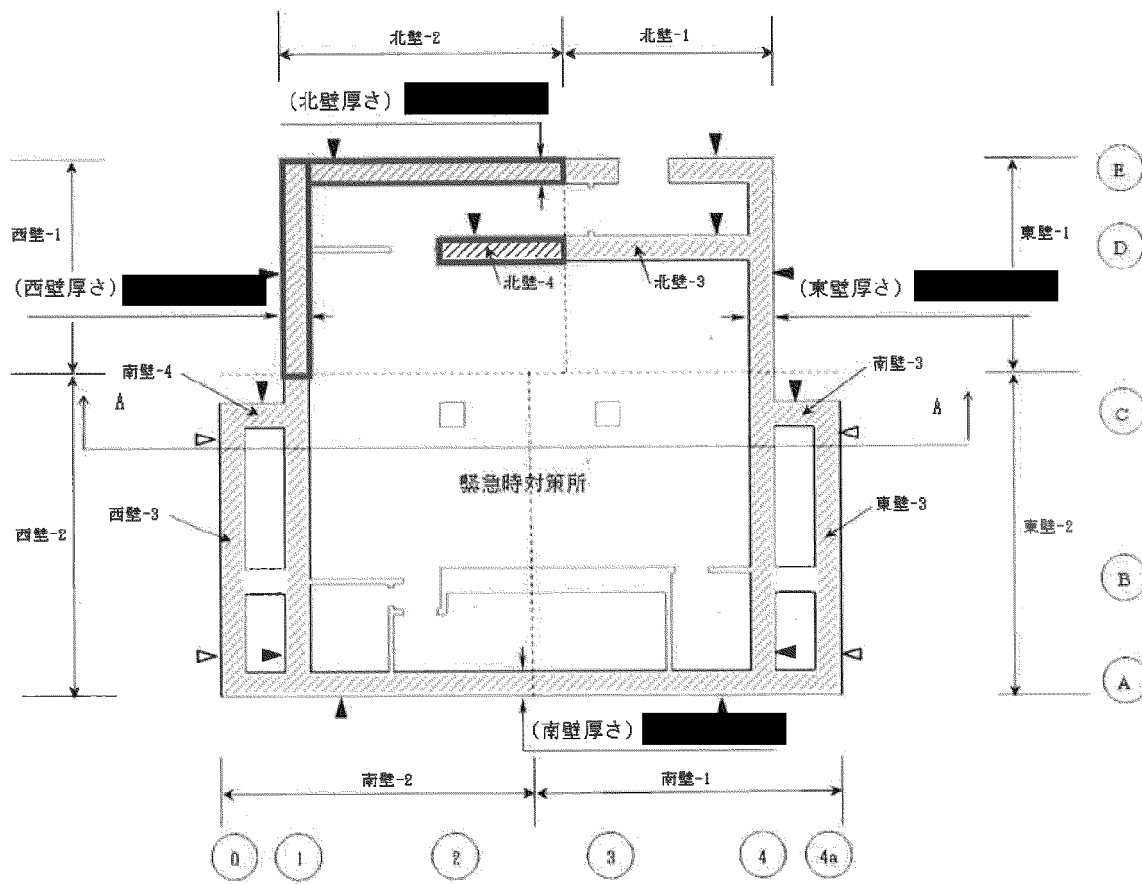
検査年月日：平成31年 2月12日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
材料検査	ノギス				2018.12.6 2020.12.5	
材料検査	圧縮試験機				2018.4.5 2019.4.4	

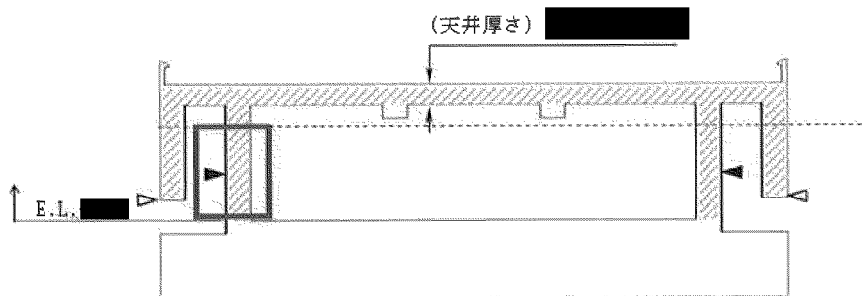
美浜発電所第3号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日:平成31年3月20日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
寸法検査	コンベックス				2018.7.6 2020.7.5	



1 F 平面図



断面 A-A